

○ 基本計画の名称：八戸市中心市街地活性化基本計画

○ 作成主体：八戸市

○ 計画期間：令和6年4月～令和11年3月

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 八戸市中心市街地の概要

(1) 八戸市の概況

①位置・地勢と気候

本市は、太平洋を臨む青森県の南東部に位置し、北はおいらせ町及び五戸町、西は南部町、南は階上町及び岩手県軽米町に接している。

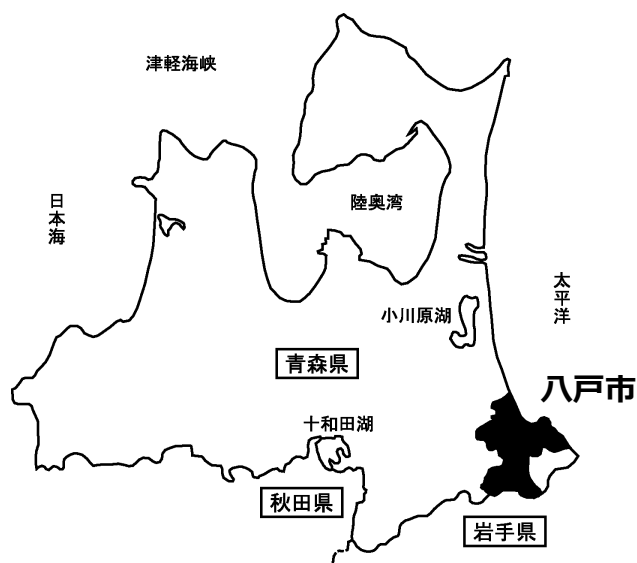
地形は、なだらかな台地に囲まれた平野が太平洋に向かって広がり、その平野を三分する形で馬淵川、新井田川の2本の川が流れている。

臨海部には大規模な工業港、漁港、商業港が整備され、また背後に工業地帯が形成されており、日本有数の水産都市、北東北随一の工業都市、北日本屈指の国際貿易港を有する都市となっている。

また、種差海岸は、芝生と海が織りなす広大な風景が魅力であり、平成25年には三陸復興国立公園に指定されている。

内陸部には、平成17年に合併した南郷地区（旧南郷村）があり、「ジャズとそばのまち」として全国的な知名度を誇り、ブルーベリーなどの地場産品を生かした特産物の開発なども行われているほか、近年は葉タバコからの転換作物としてワイン用ぶどうの生産と「八戸ワイン」の製造にも取り組んでいる。

気候は、当市の年平均気温は11.2℃となっており、夏期は冷涼で冬期は降雪が少ない過ごしやすい地域となっている。



北緯：40度30分
東経：141度30分

②八戸市全体及び中心市街地の沿革（まちの成り立ち）

昭和4年に、八戸町、小中野町、湊町、鮫村の合併により人口約5万2千人の「八戸市」が誕生（市制施行）し、以降、数度の、近隣する村の編入を経て市域を広げるとともに、工業集積、都市化の進展、水産業の振興とあいまって着実に発展してきた。

平成13年には特例市に移行となり、平成17年には旧南郷村と合併し新しい八戸市が誕生し、また、平成21年には三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町との8市町村で八戸圏域定住自立圏を形成し、古くからこの圏域の中核を担ってきた当市が中心市となって、持続可能な地域社会づくりに取り組んできた。

さらに、平成29年には中核市に移行し、8市町村で「八戸圏域連携中枢都市圏」を形成し、近隣町村との連携を一層強化するとともに、国が地方創生の一環として進める新たな広域連携制度にも積極的に取り組んでおり、令和元年には市制施行90周年を迎えたところである。

当市は、先人たちのたゆみない努力と恵まれた地域資源の有効活用により、まちの基礎を築き上げ、日本有数の水産都市、北東北を代表する工業都市、北日本屈指の国際貿易港を有する都市となったが、その歩みとして、昭和35年の特定第三種漁港の指定、昭和39年の新産業都市の指定、昭和61年の東北自動車八戸線の開通、平成6年には東北初の国際コンテナ航路となる東南アジアコンテナ定期航路の開設、以後、中国・韓国航路、北米航路、横浜港との内航フィーダー航路の開設、平成14年には、東北新幹線八戸駅が開業したほか、市中心部から車で約30分に位置する三沢空港は、札幌、東京、大阪と直結しており、また、本州と北海道を結ぶフェリーが就航し、最近では、令和3年に、八戸・仙台間の三陸沿岸道路が全線開通するなど、当市は、広域的な人・モノが交流する陸・海・空の交通の要衝となることで、北東北の地域経済をけん引している。

中心市街地の沿革として、城下町は、現在の当市の中心市街地にあたり、街づくりは寛永7年（1630）頃に始まり、八戸藩が誕生した寛文元年（1664）にはほぼ完成していたと言われている。現在は、当時の建造物はほとんど残っていないが、町の「形」や「町名」が変わらず残されていることが大きな特徴である。

また、八戸藩の誕生以降、約200年余りに渡って城下町の整備が続けられ、近代以降も、城下町当時の交通網や流通網の上に鉄道や主要道路などのインフラが整備され、今日の八戸発展の基礎となった。

江戸時代から商業の中心であった中心市街地は、昭和40年代、県外中央資本の丸光、緑屋、長崎屋、東北ニチイが、昭和55年には、イトーヨーカドーが進出し、一気に大規模店化が進んだ。こうした相次ぐ大型店進出は、中心商業街区への商業の集積と中心商店街の街区拡大をもたらしたとされる。

その後、モータリゼーションの進展や郊外型ショッピングセンター開発の動きがあり、この間、中心市街地では商業者主導で、共通駐車券事業（昭和57年）、全市共通商品券事業（平成元年）がスタートしたほか、十三日町において、県内第1号で行われた第1種市街地再開発事業（イトーヨーカドーが核テナント）と併せ、アーケードの撤去、壁面後退、歩道の拡幅とキャブシステム（電線の地中埋設化）の導入が行われ、その後、三日町、八日町、廿三日町へと整備が広がっていった。

一方で、平成に入ってから現在に至るまで、大型店の郊外化のほか、ディスカウント型の専門店やコンビニエンスストアの出店、通販の伸び、少子高齢化や人口減少などの社会経済情勢の変化により、中心市街地は衰退傾向に向かい、平成 15 年と 19 年にはそれぞれ大型店舗が中心市街地から撤退したことで、拍車を掛ける状況となった。

③八戸市全体における中心市街地の歴史的・文化的役割

八戸市の中心市街地は、八戸三社大祭や八戸えんぶりといった、北東北を代表する祭事が行われるなど、古くから当市の文化、伝統を伝承する市の「顔」として繁栄してきた。

八戸三社大祭は、神事として始まった町の安泰や豊作を祈願する祭りが、変革と進化を遂げながら、2004 年には「重要無形民俗文化財」に指定され、2016 年には、八戸三社大祭を含む全国の「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録され、先人から現代へと受け継がれてきた伝統は、世界が認める文化となっている。

八戸三社大祭の期間中は、中心市街地は、豪華絢爛で巨大な山車が運行する「ハレ」の場となり、100 万人を超える観光客が訪れるスポットとなる。

また、中心市街地では、昭和 26 年から「八戸七夕まつり」が開催され、平成 21 年からスタートした「はちのへホコテン」は、7 月を除く 5 月から 10 月の最終日曜日に開催されるなど、多くの市民、圏域住民、観光客が訪れる「イベント」のステージに様変わりする。

中心市街地の「日常」に目を向けると、先に記したとおり、江戸時代から商業の中心であり、昭和の高度成長期には、主に県外資本による商業機能の大規模化と集積、街区の拡大が進み、昭和 50 年代始めには、買物などの来街者で歩道からあふれるほど混雑するなど、日常においても賑わいが創出される場であった。

しかしながら、平成に入ってから現在に至るまで、大型店の郊外化のほか、通販の伸び、少子高齢化や人口減少などの社会経済情勢の変化により、中心市街地の商業機能は全体として衰退傾向に向かい、来街者が減少することで、さらに店舗等の撤退を招くなど、低未利用な土地や建物が目立つ状況となっていた。

このような状況下で、市では、平成 20 年 7 月に八戸市中心市街地活性化基本計画を、平成 25 年 3 月には第 2 期計画を、さらに、平成 30 年 11 月には第 3 期計画をそれぞれ策定し、中心市街地を社会的、文化的活動の拠点に位置付け、平成 23 年には八戸ポータルミュージアム「はっち」、平成 28 年には八戸ブックセンター、平成 30 年には八戸まちなか広場「マチニワ」、令和元年には八戸市長根屋内スケート場、令和 3 年には八戸市美術館と、文化・交流並びにスポーツ施設を整備してきた。各施設において文化、観光、スポーツ等の各種プログラムによって、市民はじめ来街者による買物とは別の街の利活用や様々な活動が生まれてきた。

さらに、こうした公共施設整備の波及効果もあり、「六日町ガーデンテラス」や「ディベールド八日町」など民間による開発が促進され、商業の空きビルが、マンションやオフィスなどの都市機能に生まれ変わり、また、企業誘致と支援策により、IT・テレマーケティング企業の集積と業務機能への転換が進むことで、「居住の場」となり、雇用を生む「働く

場」となってきた。

さらに、中心市街地には多くのホテルが集積しており、当市を訪れる観光の目的として「食」が多くを占めること、8つの「横丁」や文化施設等が観光コンテンツとなっていることから、八戸三社大祭などのイベント時に限らず、中心市街地が観光の目的地であり、拠点となっていることが伺える。

こうした経過をたどり、中心市街地の役割は変化を重ね、現在は、住む人、働く人、ビジネス客や観光客を含む様々な目的をもって訪れる人など、多様な機能が集まることで、多彩な人々が行き交う場所となっている。



八戸三社大祭



八戸えんぶり

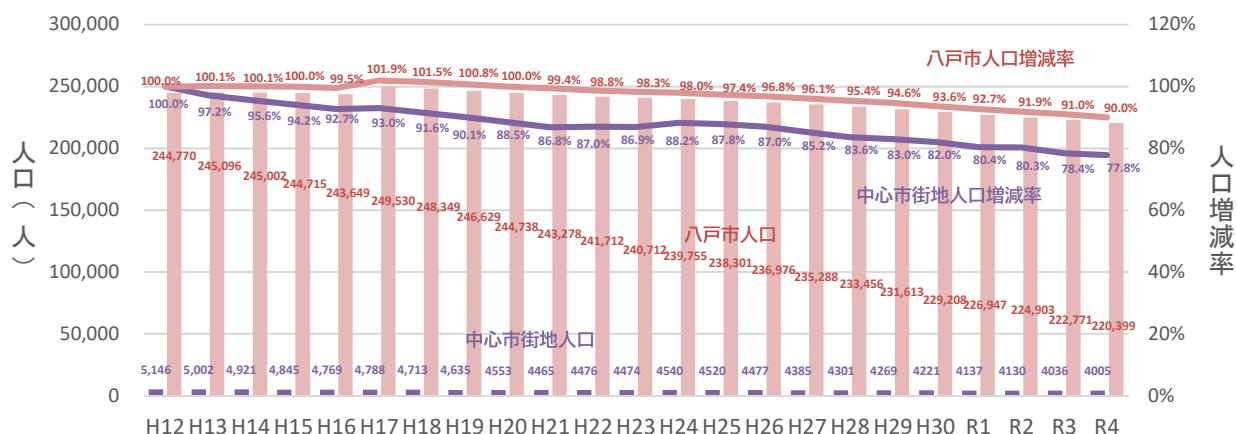
[2] 中心市街地の現状分析

(1) 人口・世帯

①人口の推移

■市全体及び中心市街地の人口推移（平成12年を100%とした場合）

○中心市街地の人口の推移は、市全体よりも減少率大きい。平成21年以降は、中心市街地の人口は横ばいに推移し、平成24年に増加に転じたものの、平成25年以降は減少が続いている。



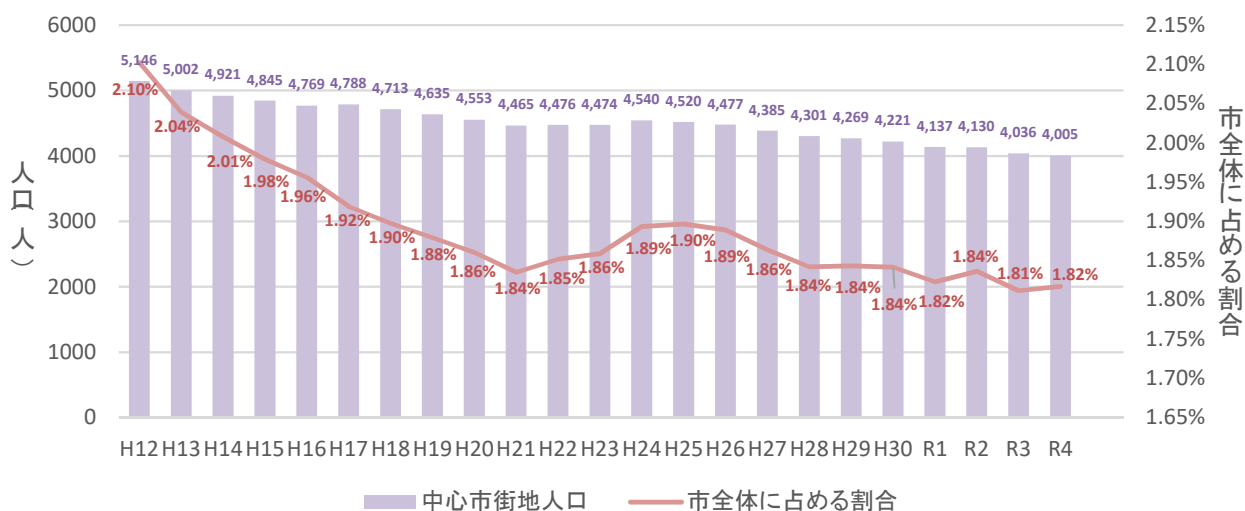
資料：住民基本台帳（各年9月30日）

※平成16年以前の八戸市人口は旧南郷村を含まない。

※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。外国人は含まない。

■中心市街地の人口推移

○中心市街地の市全体に占める人口の割合は、平成21年までは減少傾向であったが、平成22年以降は増加し、一時減少傾向にあったものの、最近横ばい傾向が続いている。



資料：住民基本台帳（各年9月30日）

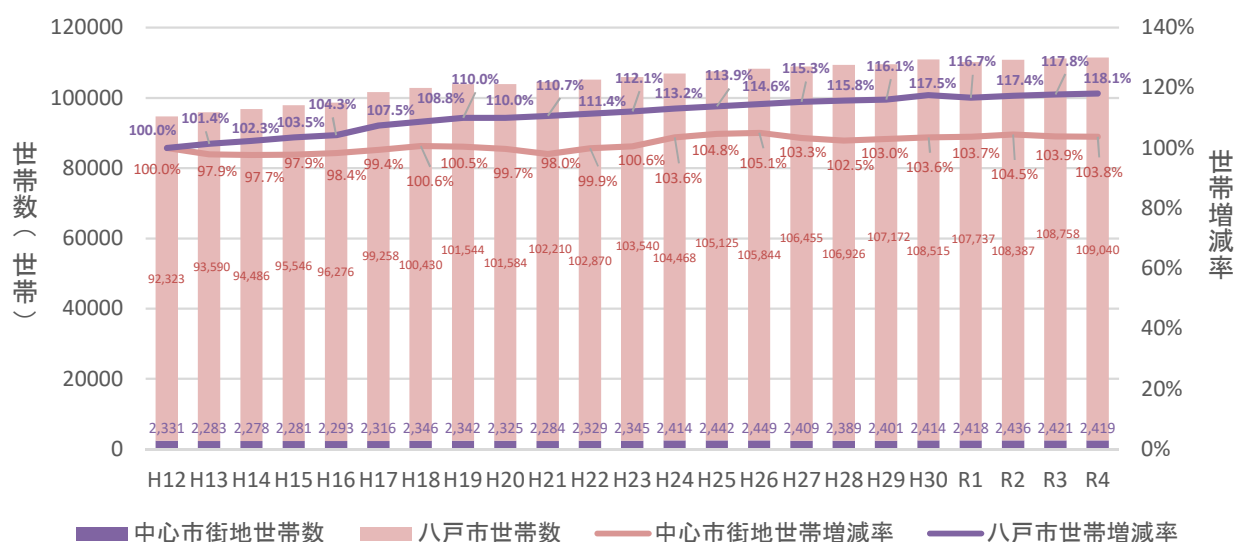
※市全体に占める割合の算出において、平成16年以前の八戸市人口に旧南郷村は含まない。

※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。外国人は含まない。

②世帯数の推移

■市全体及び中心市街地の世帯数の推移（平成12年を100%とした場合）

○市全体の世帯数が増加しているのに対し、中心市街地の世帯数は、ほぼ横ばいで推移している。



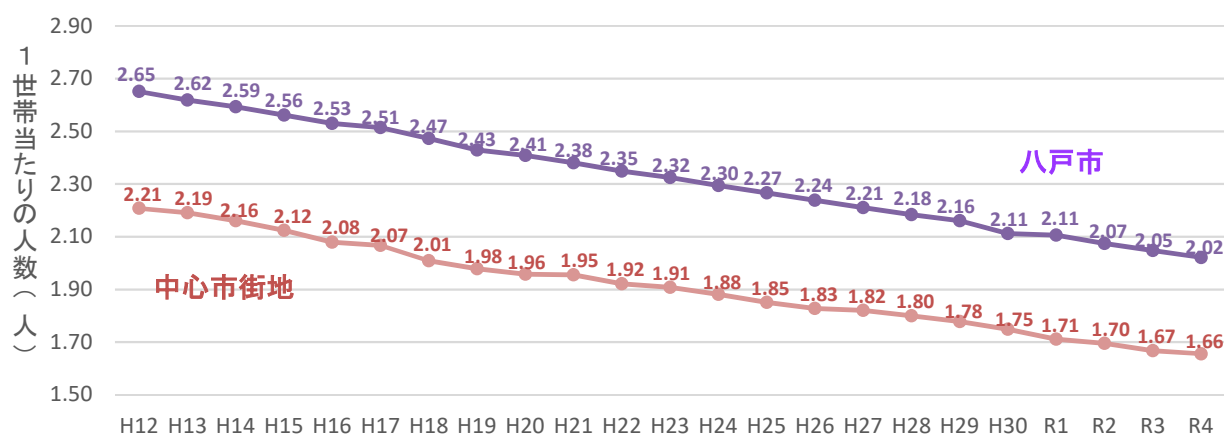
資料：住民基本台帳（各年9月30日）

※平成16年以前の八戸市世帯数は旧南郷村を含まない。

※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。外国人は含まない。

■市全体及び中心市街地の1世帯あたりの人数の推移

○市全体及び中心市街地の1世帯あたりの人数は減少を続けている。市全体に比べ、中心市街地は世帯人数が少なく、単身世帯や核家族世帯が多いためと思われる。



資料：住民基本台帳（各年9月30日）

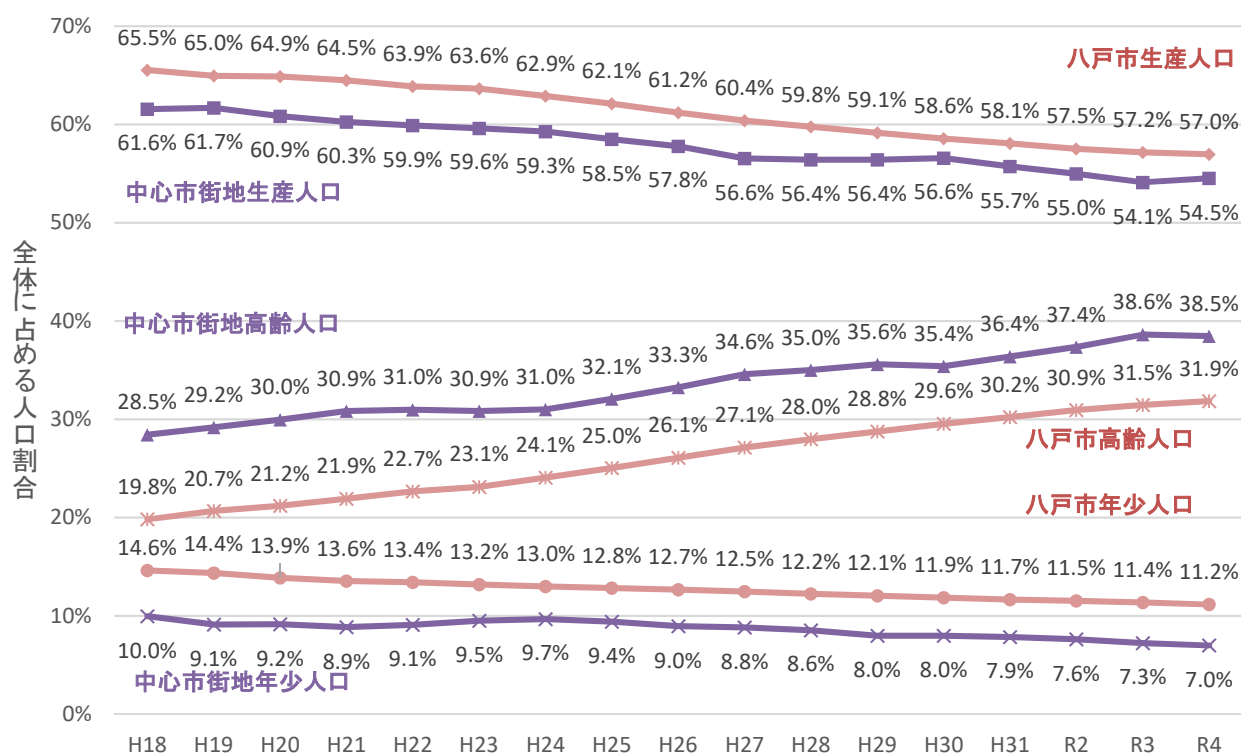
※平成16年以前の八戸市人口に旧南郷村は含まない。

※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。外国人は含まない。

③年齢階層別人口

■市全体及び中心市街地の年齢階層別構成比の推移

- 中心市街地の高齢化率（高齢人口割合）は 38.5%となっており、市全体の割合（31.9%）よりも高くなっている。
- 中心市街地の高齢人口の割合は、増加傾向が続いている。
- 中心市街地の年少人口の割合は、平成 25 年以降は減少傾向が続いている。
- 生産人口の割合は、市全体では減少傾向が続いているが、中心市街地では増加に転ずる年度もある。



高齢人口：65 歳以上
生産人口：15～64 歳
年少人口：15 歳未満

資料：住民基本台帳（各年 9 月 30 日）

※平成 16 年以前の八戸市人口に旧南郷村は含まない。

※中心市街地は第 2 期計画区域の 108ha で算出。外国人は含まない。

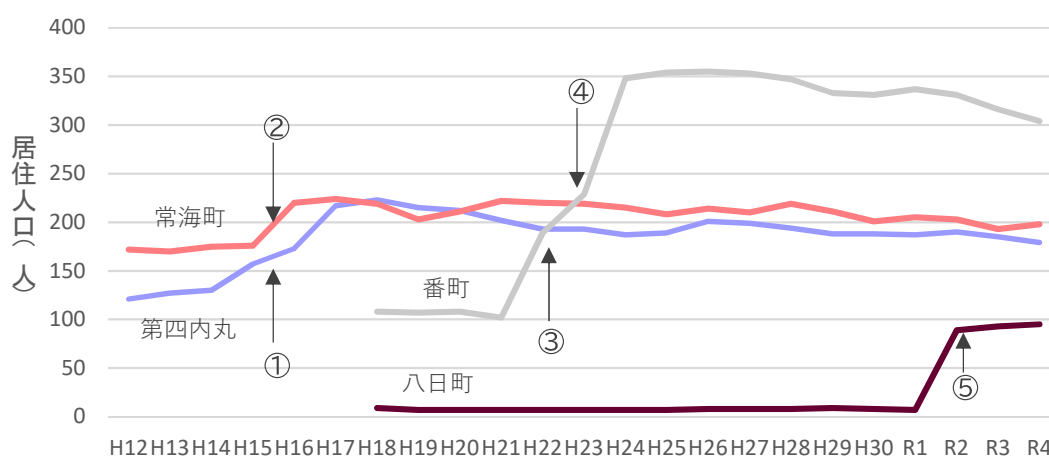
■マンション立地地区の人口の推移

○マンション等の共同住宅が立地した地区では、整備を契機として居住人口が大きく増加している。

マンションの建設状況

	建設年度	地区	供給戸数
①	平成 15 年	第四内丸	54
②	平成 15 年	常海町	43
③	平成 22 年	番町	86
④	平成 23 年	番町	50
⑤	令和 2 年	八日町	57

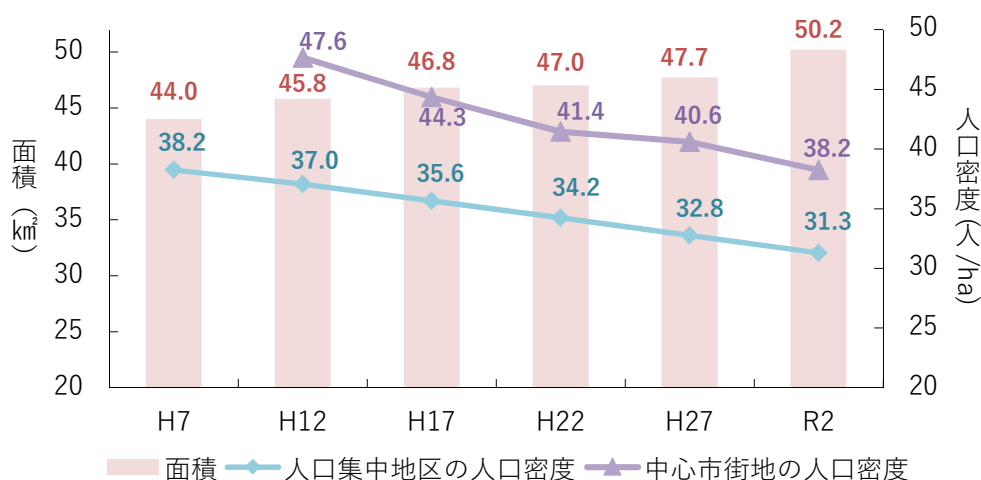
令和 4 年度には、番町地区に民間再開発による新たなマンション（供給戸数 66 戸）が完成。



資料：住民基本台帳（各年 9 月 30 日）※外国人は含まない。

■人口集中地区の面積、人口密度の状況

○人口集中地区の面積は平成 7 年から令和 2 年の過去 25 年間で約 1.1 倍に拡大している。人口密度は 20 年間で約 18% 減少し、31.3 人/ha となっている。
○中心市街地の人口密度は、38.2 人/ha と他地区より高くなっている。



資料：八戸市統計書

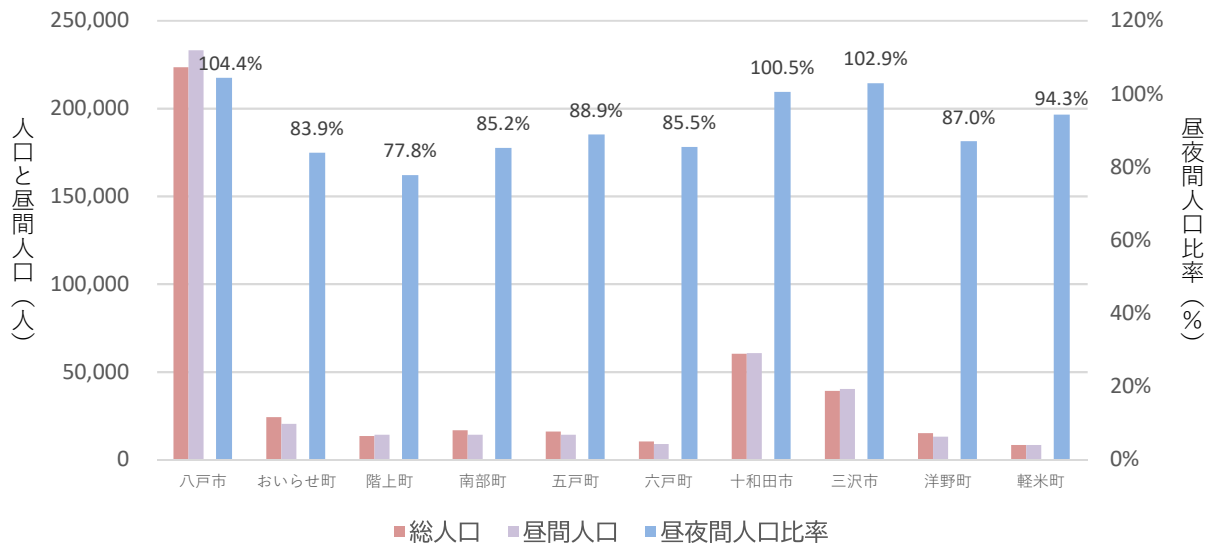
※中心市街地は第 2 期計画区域の 108ha で算出。

(2) 従業、通学の状況

①昼間人口

■近隣町村との昼間人口比較

○近隣町村と比較して昼間人口の比率が高く、就業・通学などによる他町村からの流入が多いことが窺える。



	八戸市	おいらせ町	階上町	南部町	五戸町	六戸町	十和田市	三沢市	洋野町 (岩手県)	軽米町 (岩手県)
総人口	223,415	24,273	13,496	16,809	16,042	10,447	60,378	39,152	15,091	8,421
昼間人口	233,149	20,373	14,329	14,329	14,262	8,929	60,654	40,284	13,131	7,942
昼夜間人口比率	104.4%	83.9%	77.8%	85.2%	88.9%	85.5%	100.5%	102.9%	87.0%	94.3%

資料：令和2年度総務省「国勢調査」

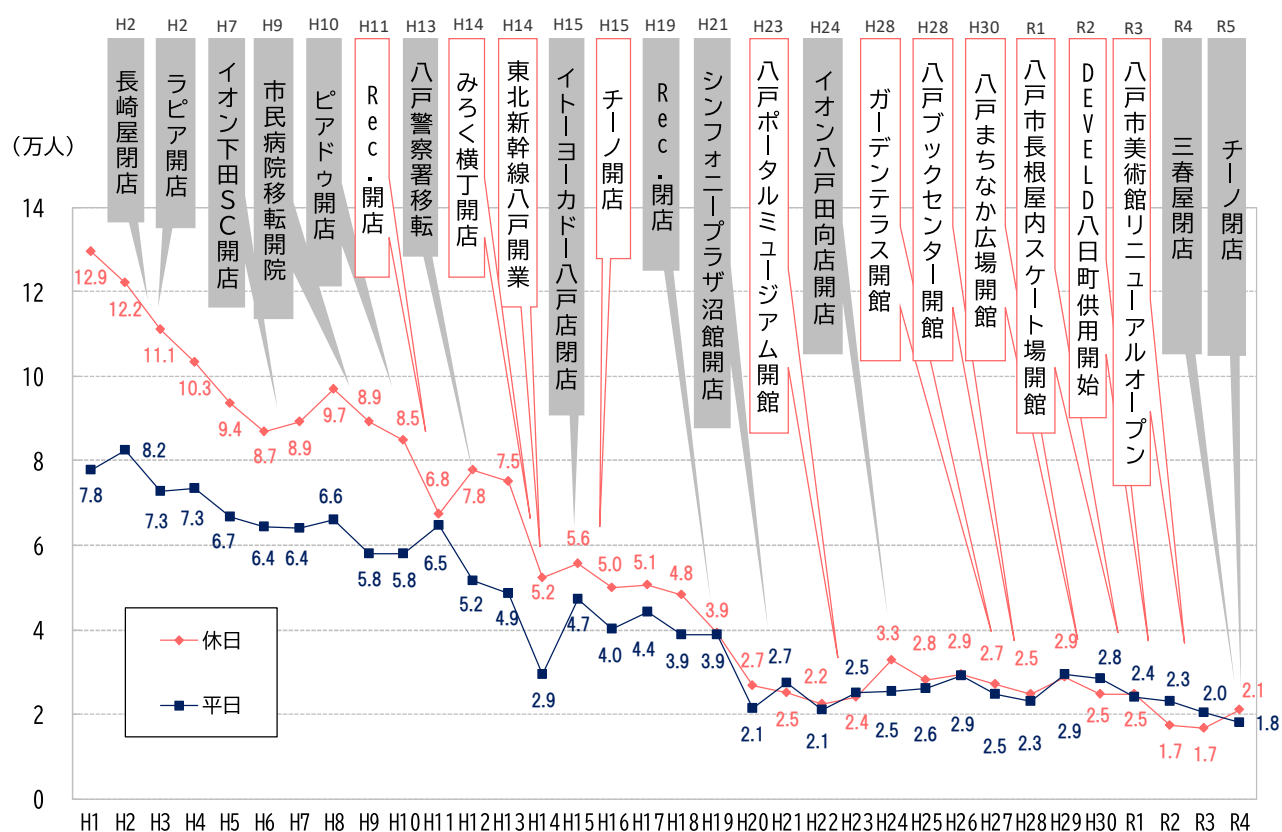
(2) 歩行者通行量

①中心市街地の歩行者通行量

■歩行者通行量（主要8地点）の推移

○平成 20 年度までは、休日、平日共に減少が続いていた。

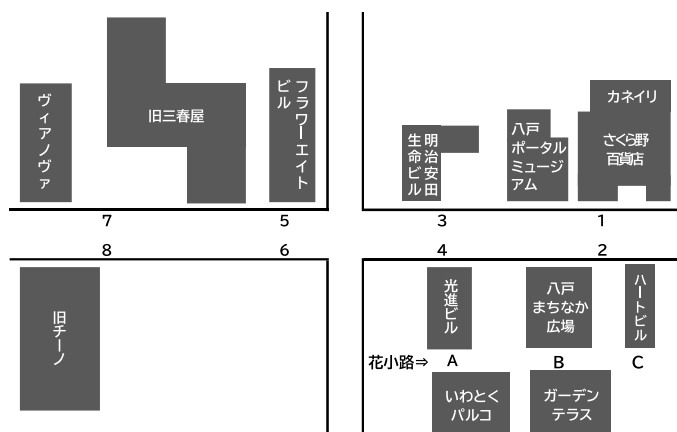
○平成 21 年度以降は、公共施設の整備の効果等により、増加に転じた年度もあるが、長期的には減少傾向にある。



※桃色枠：歩行者通行量増加に寄与する要因 灰色：歩行者通行量減少に寄与する要因

資料：八戸市中心商店街通行量調査・八戸商工会議所

※H14、H15 は平日の調査日が大雨であった。



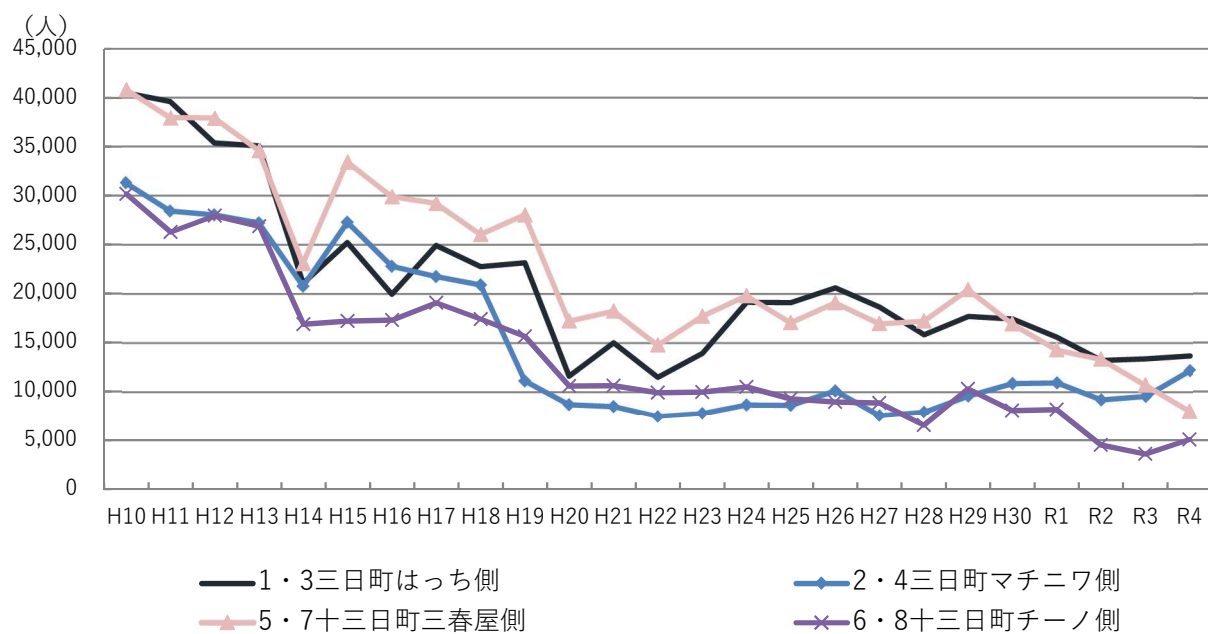
歩行者通行量調査地点位置図

調査日：毎年10月上旬

調査方法：平日と休日それぞれについて、9時～19時の歩行者数（自転車除く）を目視でカウント

■歩行者通行量の地点ごとの推移

- 各地点とも長期的には減少傾向にある。
- 5・7 十三日町三春屋側は近年の減少が顕著である。
- 2・4 三日町マチニワ側は新型コロナウイルス感染症の影響により減少した年度もあるが、中期的には増加傾向にある。



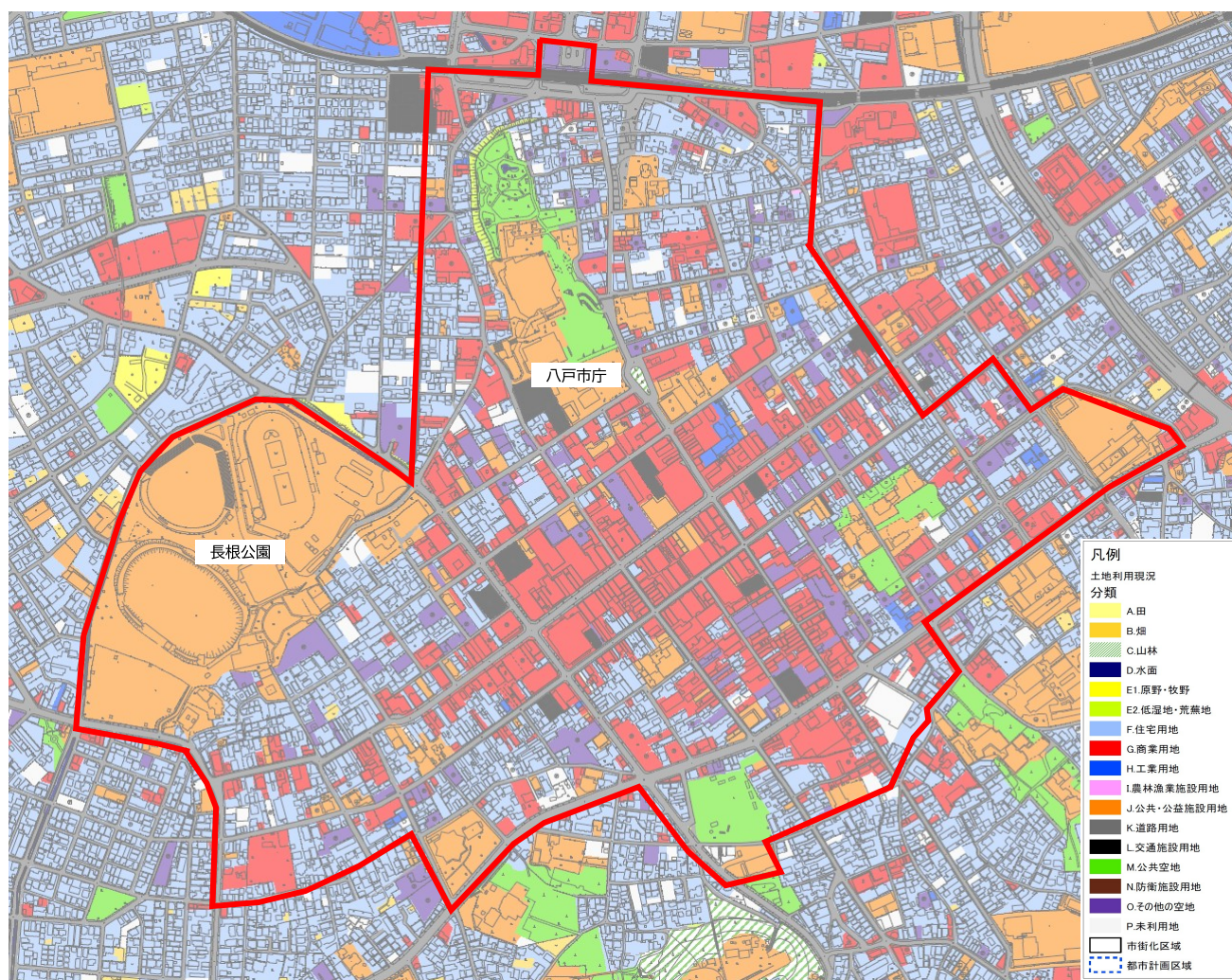
資料：八戸市中心商店街通行量調査・八戸商工会議所

(3) 都市機能

① 中心市街地の土地利用

■ 土地利用の状況

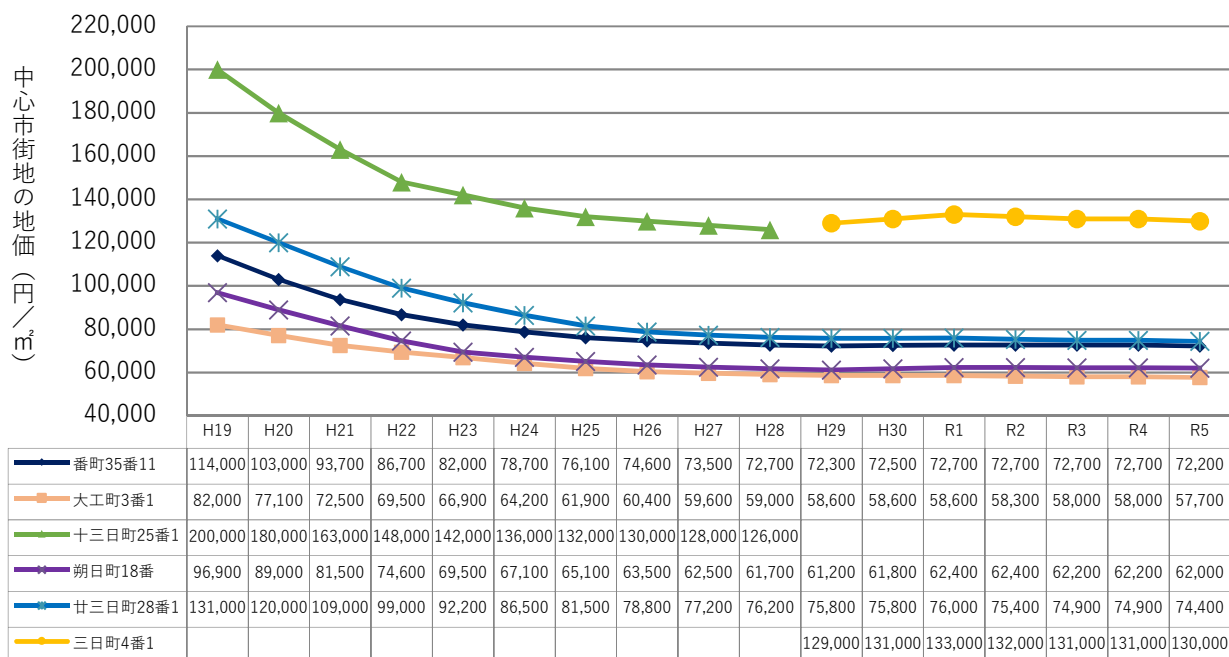
○商店街等の商業用地が集積し、その周囲を住宅用地が取り囲んでいる。また、市庁や長根公園などの大規模な公共公益施設用地が集積する。



資料：令和4年度八戸市都市計画基礎調査

■地価

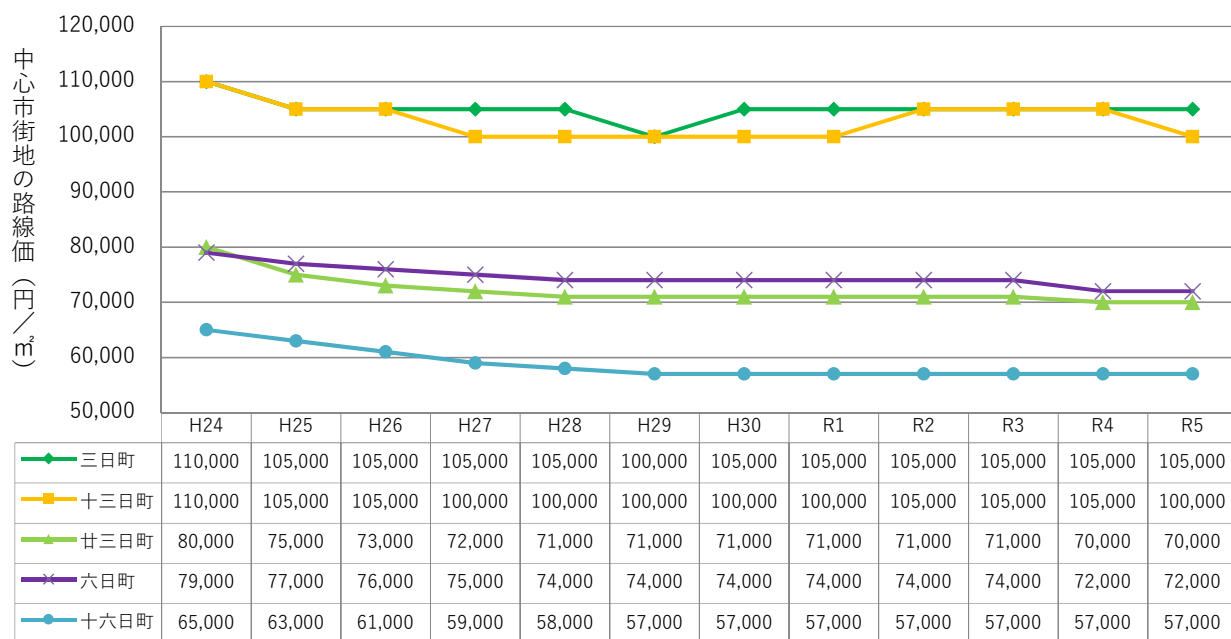
○中心市街地の地価は、平成19年から平成29年までは低下傾向が続いていたが、以降は横ばい傾向にある。



資料：国土交通省「地価公示」 ※空白部分はデータなし

■路線価

○近年は、三日町及び十六日町は横ばいが続いているが、令和5年においては十三日町は低下している。

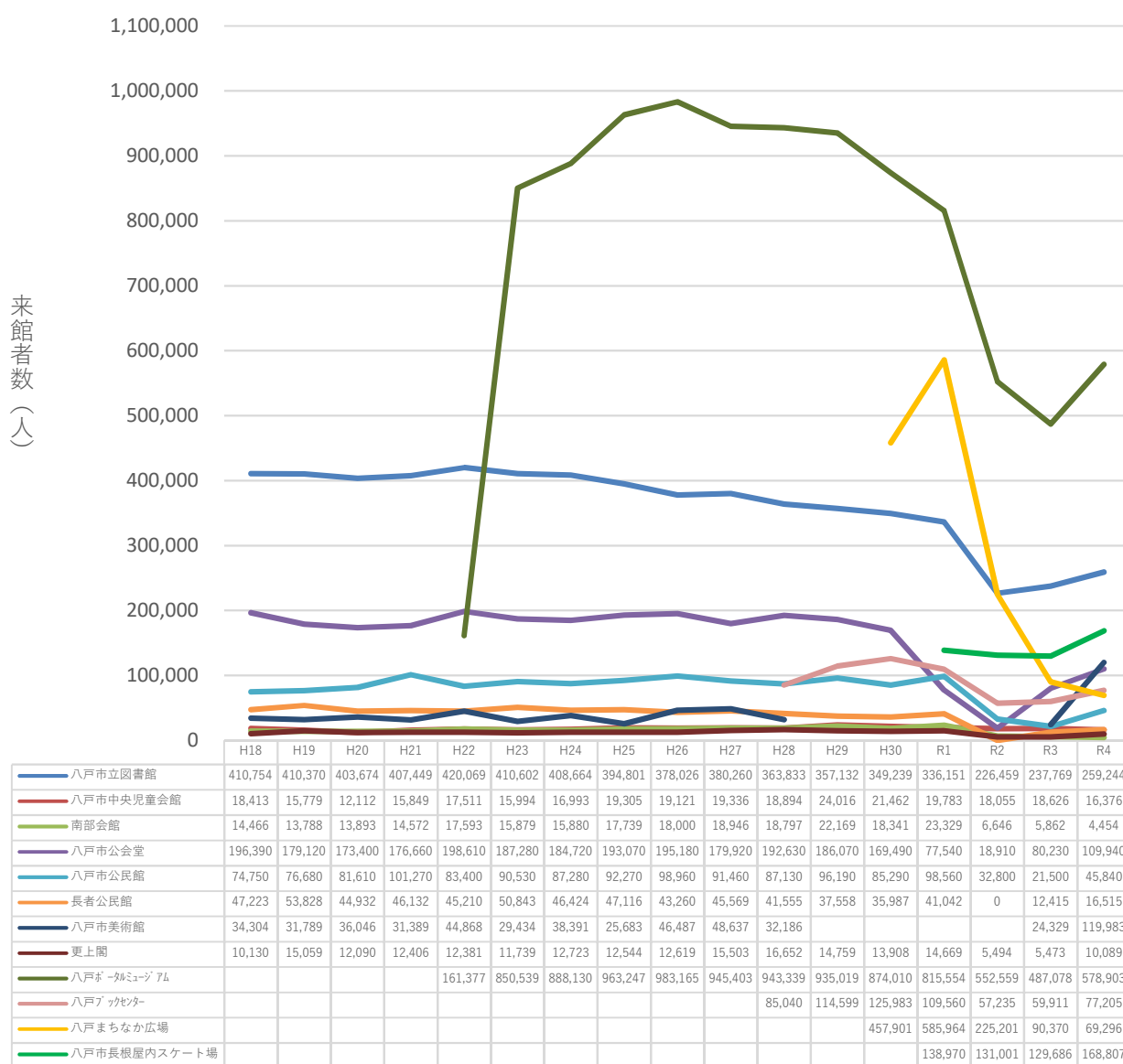


資料：国税庁「路線価」

③主要な文化施設の利用状況

■文化・スポーツ・交流施設の利用状況

- 八戸ポータルミュージアム「はっち」は、新型コロナウイルス感染症流行前の来館者数は概ね年間 90 万人を超える数字となっており、市民等の社会的・文化的活動の拠点になっていることが窺える。
- 令和 2 年度、3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少したが、令和 4 年度は社会経済活動の再開の本格化に伴い、特に八戸市長根屋内スケート場では増加に転じている。



資料：八戸市資料

※八戸市美術館は、平成 28 年度までは旧美術館の来館者数。
令和 3 年度からは（令和 3 年 11 月開館）新美術館の来館者数。

④各施設で行われた主な文化・スポーツイベント年間行事

月	八戸ポータルミュージアム	八戸まちなか広場	八戸ブックセンター	八戸市美術館	八戸市長根屋内スケート場
4	○AIR ヨシダミナプロジェクト「八戸の市文化にふれる旅」		○アカデミックトーク『龍になったおしょうさま』刊行記念「十和田湖伝説と南祖法師」 ○アカデミックトーク「北村益の演武映像と北村小松」 ○ギャラリー企画「いま めが あったよね?展」開催記念トークイベント	○「持続するモノガタリー語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから」 ○「舟越保武展」 ○映像上映「紋の神楽」 ○建築ツアーガイド	
5	○暮らし学アカデミー「eco 実験」,「メンタルトレーニング」 ○ファミリー運動会(こどもはっち) ○八戸いちご 夏の親子スイーツづくり体験会	○はっちのシーズン「マチニワ鯉のぼり」 ○ダンボール迷路と積み木	○ギャラリー企画「紙から本ができるまで/土から土器ができるまで」展	○「モノガタリーたちのモノガタリ」 ○「アートボードゲームで遊ぼう!」 ○「打楽器集団 elgesto 打楽器ライブ打楽器体験」 ○館長トーク「おもしろい建築の話」	
6	○暮らし学アカデミー「虎舞について学ぼう」 ○はっちのシーズン「アンプレラスカイ」 ○パフォーミングアーツ事業「鳥と舟」	○マチニワ京舞披露 ○はっちのシーズン「アンプレラスカイ」 ○マチニワ大道芸 ○「八戸麦酒」蔵開きビアパーティー	○『羊毛フェルトの比重』刊行記念イベント ○本のまち読書会 パワーブッシュ作品「爆弾」関連企画 「呉勝浩」爆弾」を読む ○八戸工業大学公開講座「たのしい物理〜光と屈折のはなし〜」	○ジャイアント食堂 ○きむらとしょうじんじんの野点 in 八戸 プロジェクト説明会+おさんぽ会 ○建築ツアーガイド	
7	○ストリートライブ in はっち ○はっちのシーズン「夏の料理講座」 ○七夕おはなし会(こどもはっち) ○杉本敦子色紙展	○あおりの地酒 SUMMER FES in 八戸 ○まちなか夏マルシェ in マチニワ ○八戸伝統野菜「糠塚きゅうり」お振舞いイベント ○かってに「八戸七夕夏祭り」	○八戸工業大学によるブックハンティング ○八戸高専によるブックハンティング ○呉勝浩『爆弾』第167回芥川賞・直木賞 発表と受賞者記者会見生放送」パブリックビューイング	○「まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ!」 ○ジャイアントサマー	○夏休み子どもワークショップバーベキュー
8	○パフォーミングアーツ事業「デベイズマン」 ○ストリートライブ in はっち ○はっちのシーズン「お祭り企画」 ○暮らし学アカデミー「山車のお話を聞いてみよう」	○八戸三社大祭の山車展示 ○脳卒中と夏祭り ○キッズフェス vol.3 2022 夏 ○どんぐりサークル「マチニワで水遊び!」(こどもはっち)	○ギャラリー企画「紙から本ができるまで/土から土器ができるまで」トークイベント ○「いつもだれかが見ている」刊行記念 写真・物語展「見えるものとかなるもの」 ○能町みね子×津田大介プレミアムトーク「ボリタス TV」お盆 SP! in 八戸ブックセンター 公開収録会場観覧	○「まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ!」 ○ジャイアントサマー ○小中高合同鑑賞会	○長根サマースピードスケート競技会
9	○はっちのシーズン「秋の料理講座」,「邦楽と日本舞踊」 ○はっちのコミュニティカフェ勉強会 ○児童発明くふう展 ○暮らし学アカデミー「メタバースとNFT」	○ストリートライブ in はっち ○ダンボール迷路と積み木 ○プチマルシェ & パフォーミング in マチニワ ○三日町の肉フェス	○「八戸ブックセンターのこれまでとこれから展」 ○呉勝浩 スペシャルトーク ○はっち、マチニワ、ブックセンターを会場としたフェス	○「地をみつめるマッピング」 ○八戸市美術展前期展示「書道・学生書道展」	
10	○酔っ払いに愛を 横丁オンラインシアター ○暮らし学アカデミー「大人に教えてみたいこと」 ○はっちのコミュニティカフェ勉強会 ○ハロウィンツアー(こどもはっち)	○酔っ払いに愛を 横丁オンラインシアター ○日本全国各地酒で乾杯!! ○さんばちファーマーズマルシェ ○ナンプアペロ	○ブックドリンクス「八戸ブックセンターのこれまでとこれから展」関連イベント「ブックドリンクス特別編 みんなでつくる八戸ブックセンターのこれから」 ○八戸学院大学によるブックハンティング ○ギャラリー企画「紙から本ができるまで展」(佐藤時啓展)	○「佐藤時啓-八戸マジックランタン-」 ○「リヤカーメラに乗ってみよう」 ○八戸市美術展後期展示「絵画・写真・生活文化展」 ○きむらとしょうじんじんの八戸野点 2022in 美術館エ17 ○八戸市美術館建築ツアーガイド第1回講座	○みちのくスピードスケート競技会 ○長根オートタムスピードスケート競技会 ○青森県選抜スピードスケート競技会 ○八戸市中学校スピードスケート大会 ○デューリー東北 PRESENTS 無料開放 2Days
11	○暮らし学アカデミー「菊人形」,「省エネ・節電」 ○はっちのグリーン Labo「緑のおはなし会」 ○AIR 奥川純一プロジェク「カフェ編集室」 ○手しごとと人の暮らしと市	○ストリートライブ in はっち ○ダンボール迷路と積み木 ○菊祭り ○三八肉サミット	○アカデミックトーク 青森県立美術館、2021年&2022年の夏〜大・タイガ立石展とコレクション展 2022-2+3〜 ○八戸工業大学によるブックハンティング	○開館1周年イベント ○八戸市美術館建築ツアー ○「消えちゃう写真を撮ろう〜うごく世界ととまった世界〜」 ○みんなで創る 写真のおながく ○とばしてまわしてあそぼう!1PARK	○青森県高等学校スケート競技選手権大会 ○青森県中学校体育大会冬季スケート競技大会
12	○パフォーミングアーツ事業「tantan ダンス公演」 ○南部弁の日 ○はっちのシーズン「クリスマスライトアップ」,「アトリウムコンサート」,「冬の料理講座」気軽に楽しむバル料理」	○マチニワのクリスマス ○うまいものフェス冬ビアガーデン	○ギャラリー企画「紙から本ができるまで/土から土器ができるまで」(佐藤時啓展) 関連トークイベント ○アカデミックトーク「運動で脳を活性化!〜研究と人生〜」 ○「TXD MAGAZINE」vol.6 (特集:贈る) 刊行記念パネル展	○第55回八戸市小学校図画工作展 ○高橋みのるのゲームとからくりおもちゃ展 ○「赤ちゃんから高齢者までの多世代交流を促すおもちゃ美術館の挑戦」 ○「ビー玉迷路を作ろう」 ○「『登り人形・ウェイクルン』を作ろう」	○全日本スピードスケート選手権 ○東北スケート競技選手権大会 ○東北高等学校スケート競技選手権大会 ○東北中学校スケート・アイスホッケー大会 ○青森県スポーツ少年団スピードスケート競技会
1	○はっちのお正月 ○はっちを彩るつくり手たち ○暮らし学アカデミー「大人に教えてみたいこと」他 ○ストリートライブ in はっち	○消防団出初式	○アカデミックトーク「寺山修司記念館企画展『寺山修司のラジオドラマ』解説 一耳で聴く物語の世界への誘い」 ○ギャラリー企画「絵本を建てる井上奈奈の作品展」	○「七尾英風展-花鳥風月を愛でる-」 ○新春屏風展 ○琴と尺八の調べ ○屏風を作ろう! ○落語と漫談のタベ ○第55回八戸市小学校図画工作展	○特別国体冬季大会スピードスケート競技会 ○全日本マスターズスピードスケート競技会 ○長根ゴールドスプリント競技会 ○U-11 フットサル大会
2	○えんぶり in はっち ○AIR 雨宮由夏プロジェク「うつわを生ける」 ○暮らし学アカデミー「ウィルスに負けない野菜のすずめ」 ○ストリートライブ in はっち	○えんぶり in はっち ○うまいものフェス冬ビアガーデン ○「食と癒し」のイベント ~如月~	○パワーブッシュ作品『資本屋おせん』刊行記念イベント「大江戸ピリオド捕物帳の世界:『をりをり 読み耽り』から『資本屋おせん』まで」	○「伊藤子展」 ○ほろ酔い鑑賞「ほろ8」	○長根ウィンタースピードスケート競技会 ○青森県高等学校スケート競技 新人戦 ○青森県中学校スケート新人大会 ○八戸市総合体育大会冬季スケート競技会
3	○パフォーミングアーツ事業「TABATHA ダンス公演」 ○まぢぐみ展8 ○AIR 奥川純一プロジェク「ビバ! 秋のライブ はちのへ」記録展 ○暮らし学アカデミー「大人に教えてみたいこと」他	○うまいものフェス冬ビアガーデン ○3.11を忘れちゃ鳴らねえ!チャリティースペシャル! ○「tette」〜ハンドメイドイベント〜	○アカデミックトーク「なんでも測って比べてみよう!〜日常生活から量子コンピュータまで〜」 ○HACHINOHE ZINE CLUB キックオフ「ZINEって何だろう」 ○高校生のための超ショートショート講座(2日間連続講座)	○「伊藤子回顧展-その一瞬-」	○長根ファイナルスピードスケート競技会

※令和4年度に実施したイベント等

月	八戸市立図書館	八戸市公会堂	八戸市公民館	南部会館	八戸市更上閣
4	○ピーターラビット出版120周年展 ○ブックスタート事業 ○定期おはなし会	○若柳竹永卒寿記念 柳永会 舞踊公演 ○八戸市民フィルハーモニー交響楽団第54回定期演奏会			
5	○春のおはなし会 ○ブックスタート事業 ○定期おはなし会	○野村万作・萬斎 狂言八戸特別公演 ○仙台フィルハーモニー管弦楽団 ガラ・コンサート	○八戸市公民館特別企画演劇公演	○ツキイチツクル ○ロビー「ふるさとの春写真展」	
6	○調べる学習チャレンジ講座 ○ブックスタート事業 ○定期おはなし会	○きやりーばみゅばみゅコンサート	○ムジカトウキョウ「にじいろキッズコンサート」	○ツキイチツクル ○ロビー「生き生きおらんど昭和の子写真展」	
7	○夏休み調べる学習相談会 ○夏のおはなし会 ○ブックスタート事業 ○定期おはなし会 ○市民のための歴史講座	○八戸東高等学校表現科公演 ○私の恋人 beyond ○三井住友海上文化財団ときめくひととき第924回 地域住民のためのコンサート「なぎさプラスソリステン〜金管五重奏と打楽器によるアンサンブル」	○南部昔コ語り部養成講座(7月～9月)	○ツキイチツクル ○ロビー「真夏の日々写真展」	
8	○夏休み調べる学習相談会 ○ブックスタート事業 ○定期おはなし会 ○市民のための歴史講座	○キエフ・バレエ・ガラ八戸 ○公会堂探検隊 ○落語三人会	○第38回 舞台・照明・音響技術講座 ○アートキャラバン事業「ダレレの物語」 ○イカール国際ミュージックキャンプ・イカール国際音楽祭	○ツキイチツクル ○ロビー「真夏の日々写真展」	
9	○図書館を使った調べる学習コンクール ○ブックスタート事業 ○定期おはなし会	○影絵講習会 ○市民音楽祭「HACHINOHEナリキリ音楽祭」×「HACHINOHEフォークジャンボリー」 ○角笛シルエット劇場		○ツキイチツクル ○ロビー「はし袋水彩原画展～散歩道の葉草～」	○閣フェス2022
10	○本と雑誌のリサイクルフェア ○ブックスタート事業 ○定期おはなし会 ○古文書解説講習会		○うみねこ演劇塾(10月～1月)	○ツキイチツクル ○ロビー「短歌結社「草の会」作品展」	○第6回 更上閣 菊花展(10/29～11/13)
11	○高森美由紀作品展 ○雑誌付録抽選会 ○ブックスタート事業 ○定期おはなし会 ○古文書解説講習会	○ディズニーオンクラシック～まほうの夜の音楽会 ○公会堂ロビー展ふるさと先人パネル展1(11月～12月)		○ツキイチツクル ○ロビー「仕事の技と美 南部菱刺し三巾前垂れ展」	○第6回 更上閣 菊花展(10/29～11/13)
12	○クリスマスのおはなし会 ○ブックスタート事業 ○定期おはなし会	○林家木久扇・柳家喬太郎 落語二人会	○やってみよう舞台づくり(12月～1月)	○ツキイチツクル ○ロビー「スタンドグラス工房キャットポー」	
1	○体験！一日図書館員 ○ブックスタート事業 ○定期おはなし会		○うみねこ演劇塾発表会	○ツキイチツクル ○ロビー「杉本敦子・はし袋水彩画展～海の幸～」	
2	○ブックスタート事業 ○定期おはなし会	○公会堂ロビー展ふるさと先人パネル展2(2月～3月) ○えんぶり公演 ○第16回八戸パフォーマンス劇場・第18回はちのへ子どもフェスタ		○ツキイチツクル ○ロビー「初心者写真講座・初めて写真展」 ○八戸えんぶり①三味線演奏会 ○八戸えんぶり②親子でミニえはしをつくろう！ ○八戸えんぶり③えんぶり講座 ○八戸えんぶり④オカリナ演奏会	
3	○ブックスタート事業 ○定期おはなし会	○八戸ファンタジイ ○十三代目市川團十郎白猿襲名披露巡業 ○NHKのど自慢		○ツキイチツクル ○ロビー「花六 能面展 ふれあい語り合い」	○第14回ひなまつり展

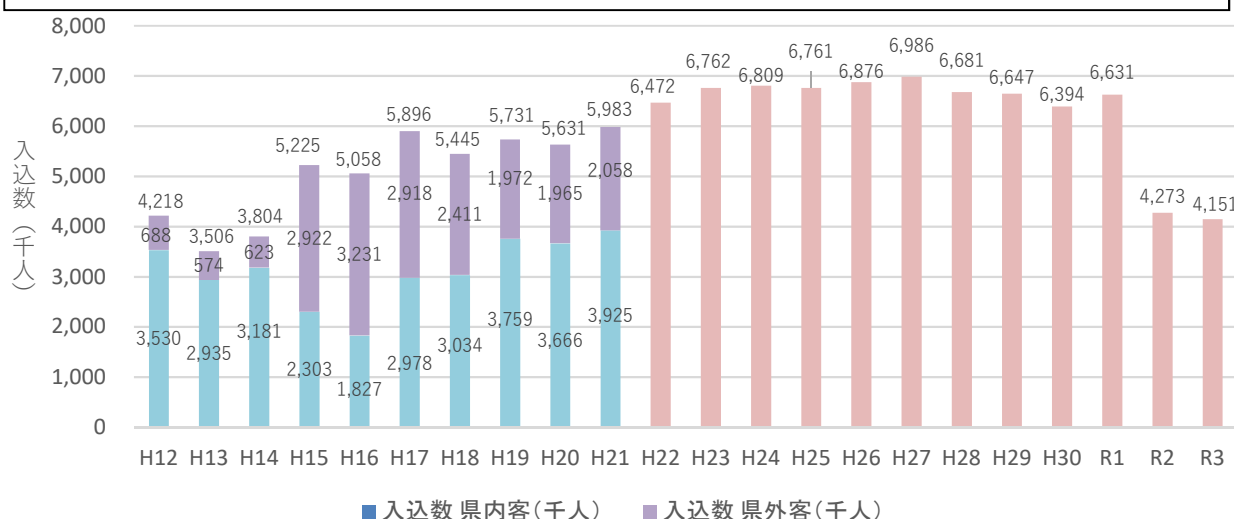
※令和4年度に実施したイベント等

資料：八戸市資料

⑤観光入込数

■八戸市の観光入込数の推移

- 市全体の観光入込数は、東北新幹線八戸開業後の平成 15 年以降、特に県外客が大きく増加した。
- 平成 22 年以降は毎年年間 600 万人を超えていたが、令和 2、3 年は新型コロナウイルス感染症の影響により、大きく減少した。

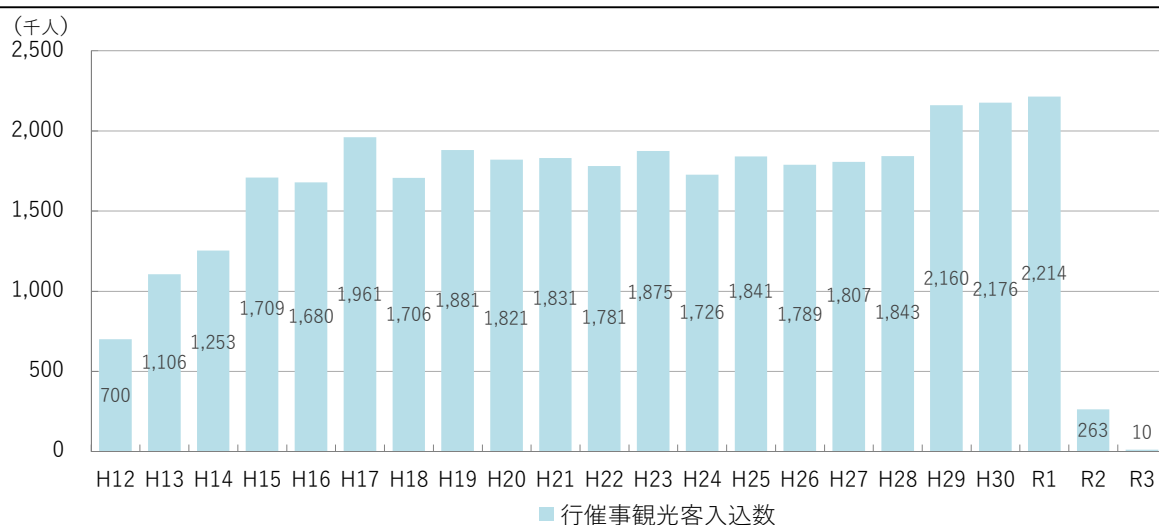


資料：青森県観光統計概要

※H22～は県内客県外客の区別なし

■中心市街地で行われる祭りでの観光入込数の推移

- 祭りの観光入込数は、平成 29 年から 3 年連続で 200 万人を超えていたが、令和 2、3 年は新型コロナウイルス感染症の影響により、祭りの中止や縮小を余儀なくされた。

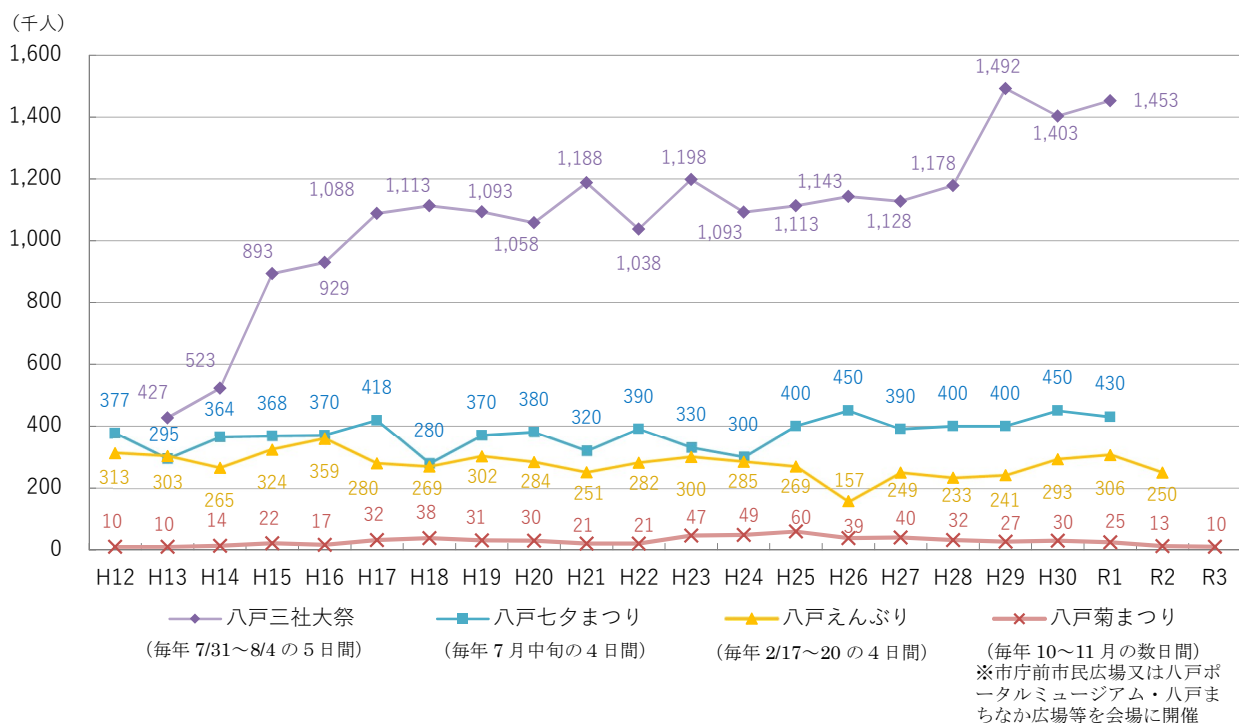


資料：八戸市資料

※行催事観光客入込数は八戸えんぶり、八戸七夕まつり、八戸三社大祭、八戸菊まつりの観光入込数を合算したもの
令和 2 年—八戸えんぶり・八戸菊まつり開催、令和 3 年—八戸菊まつり開催

■中心市街地主要イベント（祭り）の入込数の推移

○道路を歩行者天国にすることで中心市街地が大きなステージとなる八戸三社大祭、八戸七夕まつり、八戸えんぶりは集客力の高いイベントであり、特に、八戸三社大祭は、ユネスコ無形文化遺産登録後の平成 29 年以降大きく増加している。

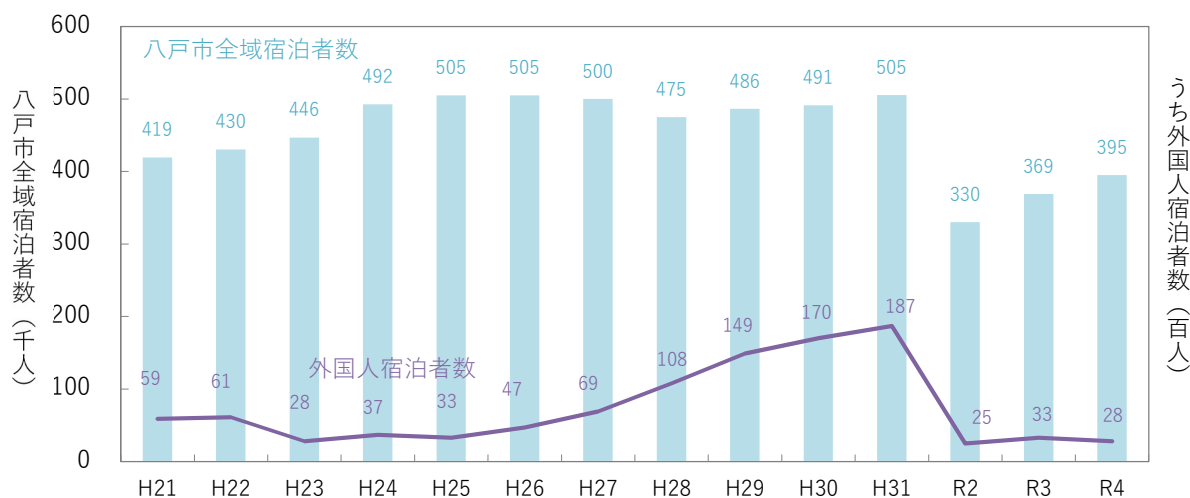


資料：八戸市資料

⑥宿泊者数等観光関連データ

■市内ホテルの宿泊者数の推移

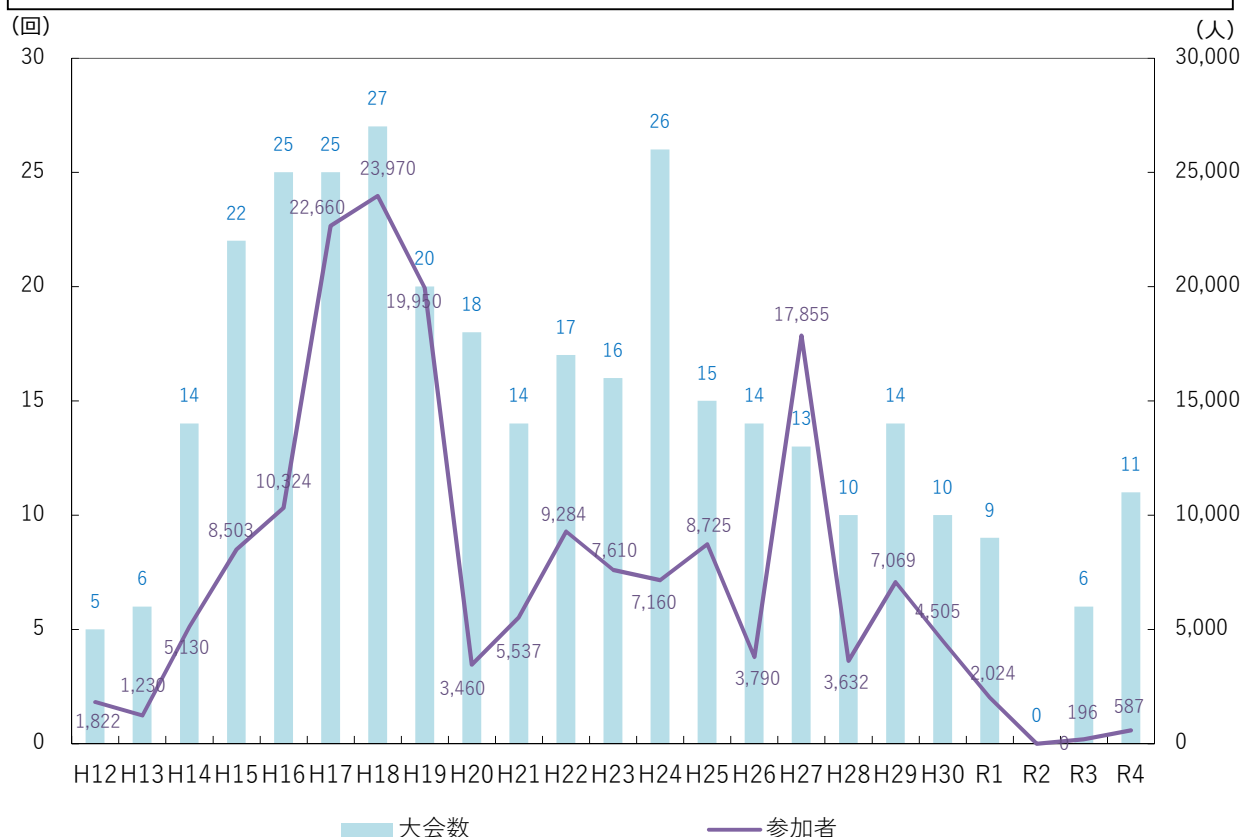
○八戸市全域のホテル宿泊者数は平成 31 年まで横ばい傾向、外国人宿泊者数は右肩上がりで増加していた。
○近年は、新型コロナウイルス感染症の影響から徐々に回復傾向にあるが、インバウンド需要が回復していない。



資料：一般財団法人 VISIT はちのへ、八戸市ホテル協議会資料

■コンベンションの開催実績

○大会数、参加者ともに、平成 14 年 12 月の東北新幹線八戸駅開業をきっかけに大きく増加したものの、近年は減少傾向にある。



資料：一般財団法人 VISIT はちのへ資料

⑦その他観光関連データ

■観光客の来訪目的

- 来訪者の目的の約 6 割が「観光」であり、約 2 割が「仕事」。
- 「楽しみにしていたこと」として、約 75%の方が「おいしいもの」と回答。

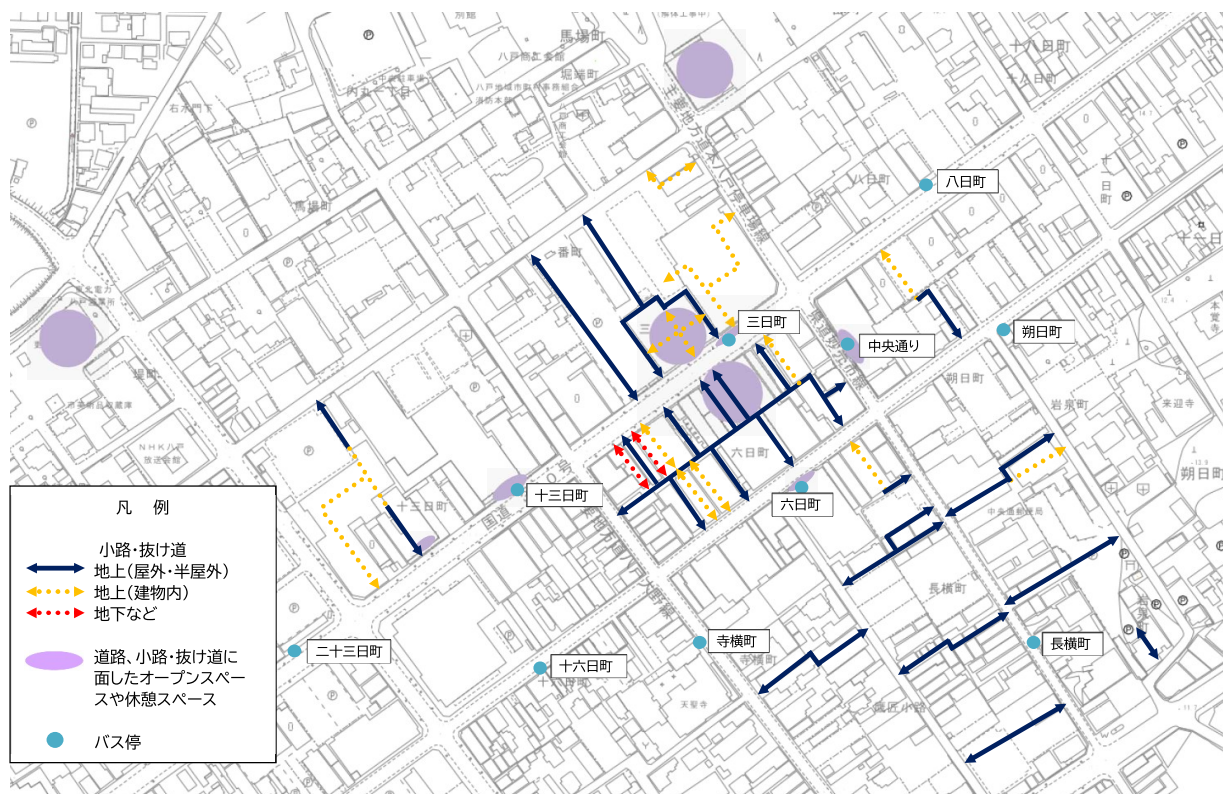
令和 4 年に一般財団法人 VISIT はちのへが宿泊施設や観光施設等を訪れた方を対象に実施した「はちのへエリア観光アンケート」の集計では、来訪目的の約 6 割が「観光」であり、また、約 2 割が「仕事」という結果となった。さらに、「楽しみにしていたこと」として、約 75%の方が「おいしいもの」と回答していた。

また、八戸市内のホテル・宿泊施設のうち約 7 割が中心市街地に集積している状況である。

中心市街地は、横丁をはじめ「食」が充実しており、これらのアンケート結果等を踏まえると、中心市街地がビジネス客を含む観光客にとって目的地であり、拠点となっていると推察する。

■ 小路・横丁・オープンスペースの分布

- 中心市街地には、小路や横丁、建物内にも、民地ではあるが、南北、東西に通り抜けができる通路が多く存在している。
- また、中心市街地には、壁面線指定による後退で生じた空地や道路に面した広場など、オープンな空間が存在する。



⑧中心市街地の観光関連の主なイベント

■中心市街地の年間イベント・行催事

○年間を通じて、市及び各種団体において多種多様なイベントを開催している。

月	事業内容			
4	市日 はちの八 楽市 楽座 事業	「三の市(十三日町・毎月十三日開催)」「はちの八(八日町・毎月八日開催)」「はちの八(八日町・毎月八日開催)」「はちの八(八日町・毎月八日開催)」	ハチポータルミュージアム・ハチまちなか広場・ハチ市美術館・ハチブックセンター・更上閣での自主事業(市)	
5				横丁連合飲みだおれラリー(横丁連合協議会) おがみ神社法霊神楽祭(おがみ神社)
6				ハチワインフェス(実行委)
7				神明宮茅の輪まつり(神明宮) ナイトオリエンテーリング(六日町) ハチセタまつり(株まちづくりハチ・ハチ商工会議所(R5~)・ハチ商店街連盟(~R4))
8				ハチ三社大祭(ハチ三社大祭運営委) 長横町のんべ祭(長横町) 三日町感謝のタベ(三日町)
9				ナイトオリエンテーリング(六日町) 国際交流フェスタ(国際交流協会・市) 本のまちハチブックフェス(市) さかな町 夜の歩行者天国(六日町)
10				ハチ横丁月間 酔っ払いに愛を(実行委) 横丁連合飲みだおれラリー(横丁連合協議会) 健康フェスタ(市)
11				はちの八菊まつり(市) 暮らふとマーケット(市)
12				市内商店街合同お買い物大抽選会(ハチ商店街連絡協議会) はっちのクリスマス(市)
1				
2				ハチえんぶり(ハチ地方えんぶり保存振興会)
3				

※平成 29 年度に実施したイベント等をベースに作成。令和 4 年度までの間、新型コロナウイルス感染症の影響で中止していたものや、また実施主体が変更となっているものもある。

※年度により、開催月が前後するイベントもある。

※網掛けは横丁関連イベント

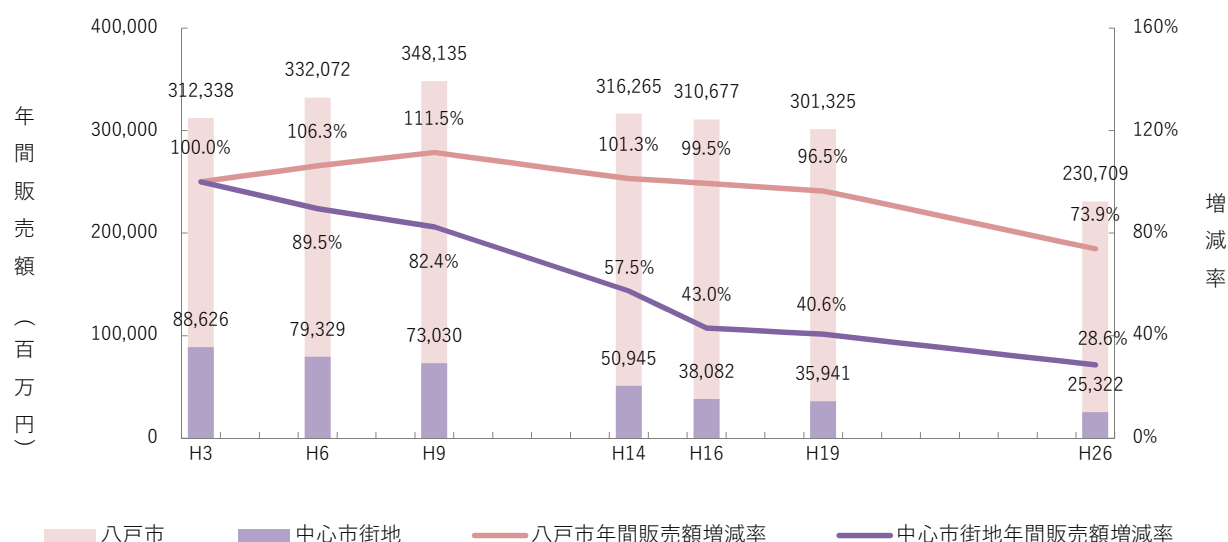
資料：八戸市資料

(4) 商業機能

①小売業年間販売額の推移

■小売業年間販売額の増減（平成3年を100%とした場合）

○市全体の年間販売額が平成9年を境に減少傾向となっているが、ともに減少傾向にあるが、平成16年以降は、減少率は緩やかになっている。

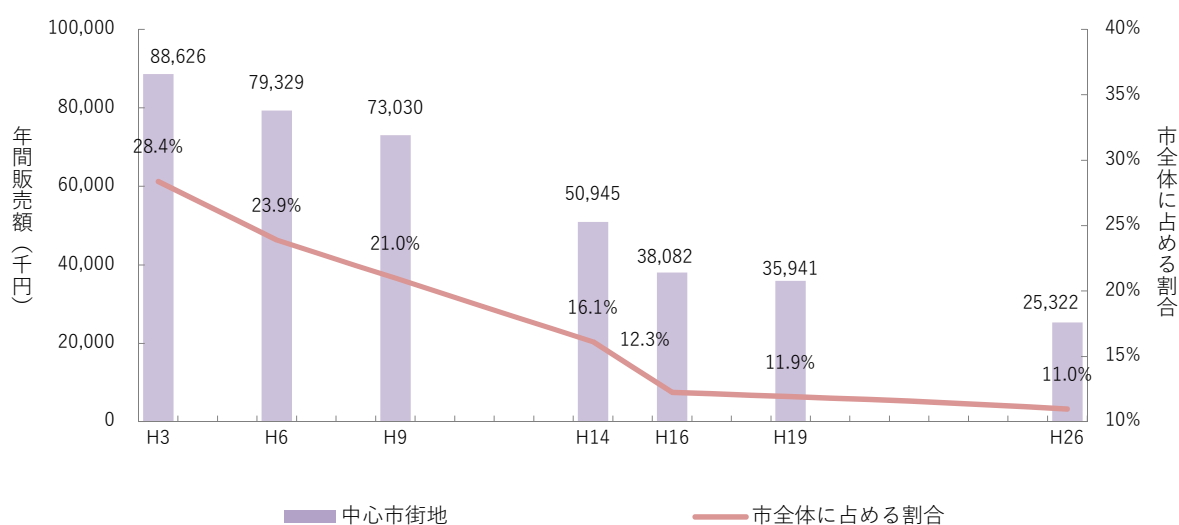


資料：商業統計調査（立地環境特性格集計）

※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。

■中心市街地の小売業年間販売額の推移

○中心市街地の小売業年間販売額及び市全体に占める割合は、平成3年比で減少しているものの、近年は横ばいになりつつある。



資料：商業統計調査（立地環境特性格集計）

※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。

■市全体の産業（中分類）小売業年間販売額

○市全体に占める小売業の分類では、「その他小売業」の割合がもっとも高い。中心市街地に関連が強い、百貨店等の事業に関連する「各種商品」と、衣類販売の「織物・衣類・身の回り品」を合わせると 13.4%である。なお、通販などの無店舗販売も全体の 6.5%と一定の割合を占めている。

小売業計	年間販売額 (百万円)	構成率
	230,709	100%
各種商品	15,871	6.9%
織物・衣服・身の回り品	15,077	6.5%
飲食料品	45,076	19.5%
機械器具	46,738	20.3%
その他小売業	92,934	40.3%
無店舗	15,011	6.5%

資料：平成 26 年商業統計調査

■地区別小売業年間販売額

○中心市街地の小売業年間販売額は市全体の 11%であり、郊外型の大規模商業施設のある沼館・江陽地区（一部）や、田向地区の割合をそれぞれ上回っていることから、依然として小売における中心的役割を担っていることが窺える。

小売業計	年間販売額 (百万円)	構成率
	230,709	100%
中心市街地	25,322	11.0%
沼館・江陽地区の一部	17,006	7.4%
田向地区	7,346	3.2%
その他地区	181,035	78.4%

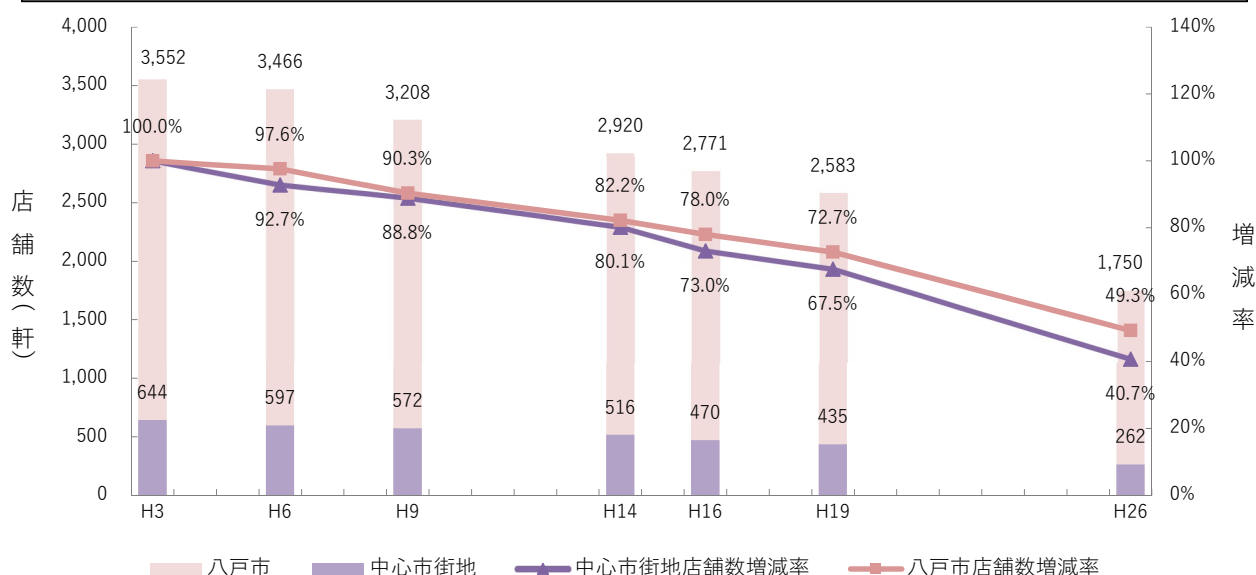
資料：平成 26 年商業統計調査（立地環境特性別集計）

※中心市街地は第 2 期計画区域の 108ha で算出。

②小売業の店舗数・売場面積の推移

■小売店舗数の推移（平成3年を100%とした場合）

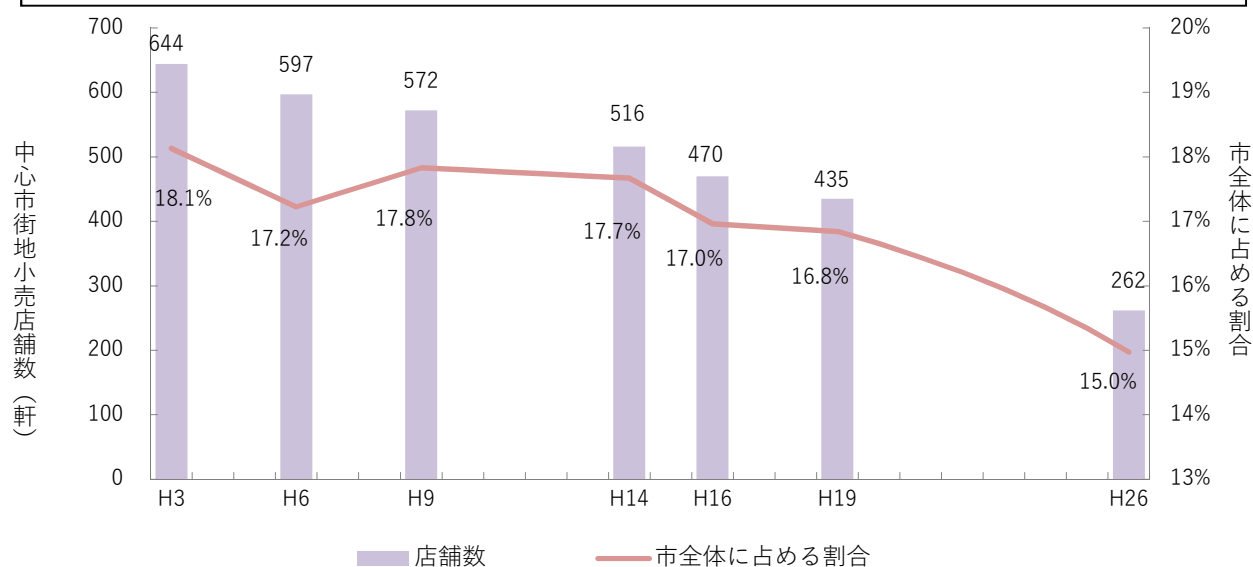
○小売業の事業所数は全国的にも減少傾向となっているが、八戸市でも減少傾向にある。



資料：商業統計調査（立地環境特性別集計）
※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。

■中心市街地の小売店舗数の推移

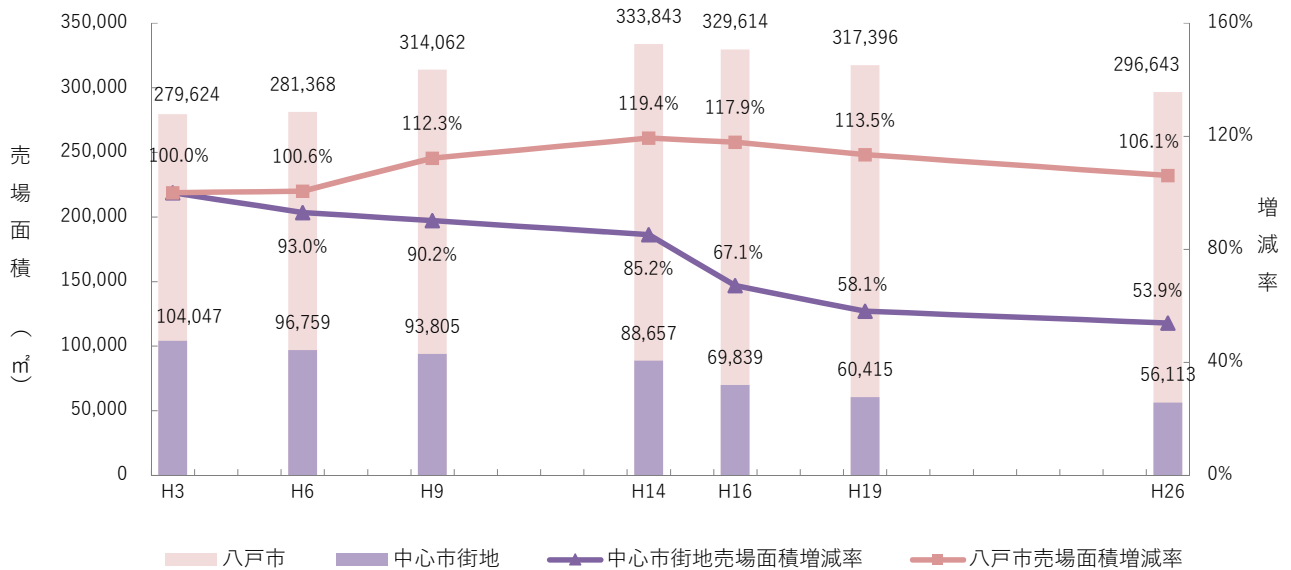
○中心市街地における小売店舗数は減少傾向にあり、市全体に占める割合も減少傾向にある。



資料：商業統計調査（立地環境特性別集計）
※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。

■売場面積の推移（平成3年を100%とした場合）

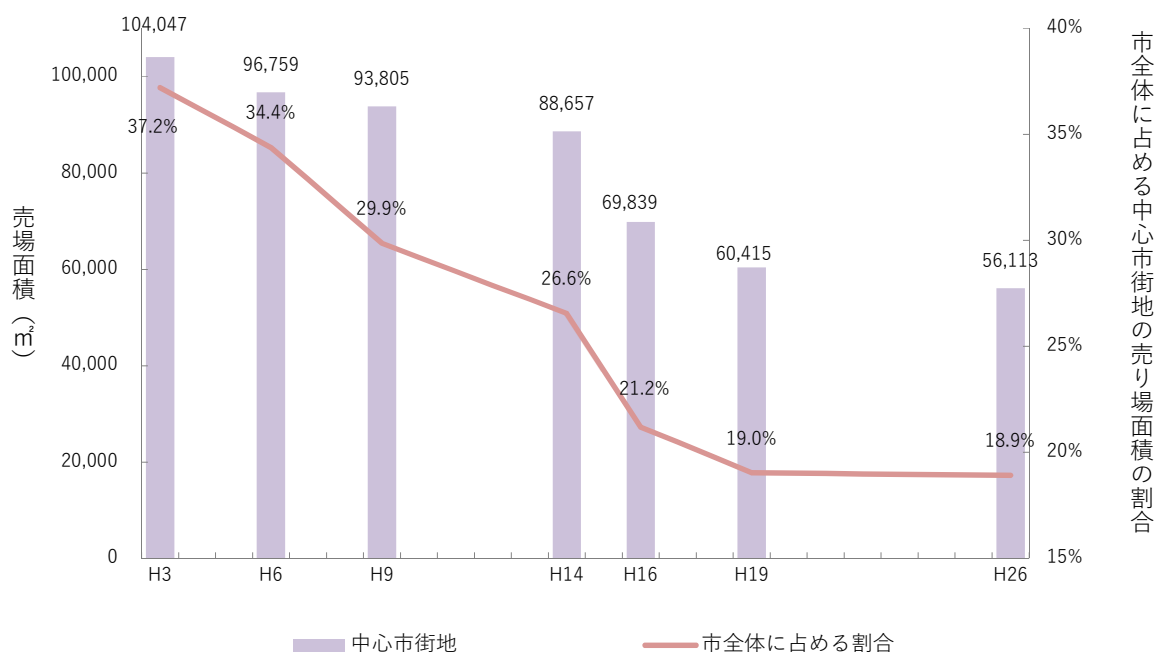
○市全体の売場面積は、平成3年以降増加し平成14年をピークに減少傾向となっている。中心市街地の売場面積は、平成26年では半分程度まで減少している。



資料：商業統計調査（立地環境特性別集計）
※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。

■中心市街地の売場面積の推移

○中心市街地における売場面積、市全体に占める割合も減少傾向にあったが、平成19年と平成26年を比較すると横ばいになっている。

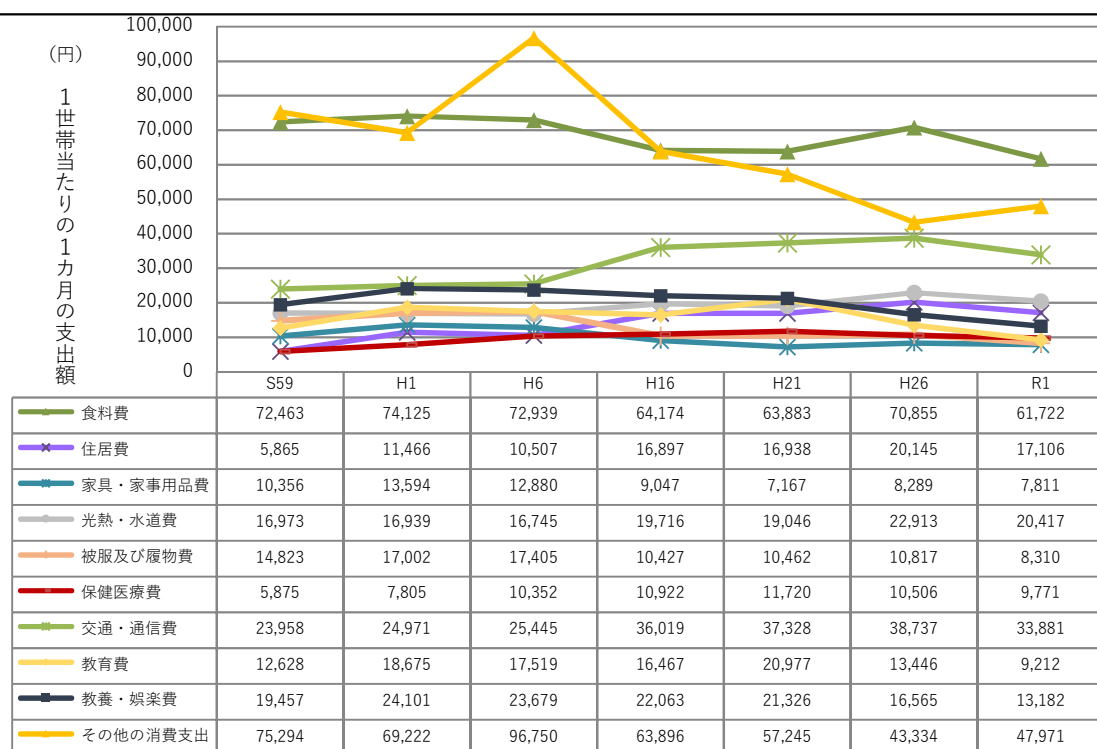


資料：商業統計調査（立地環境特性別集計）
※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。

③勤労世帯支出の傾向

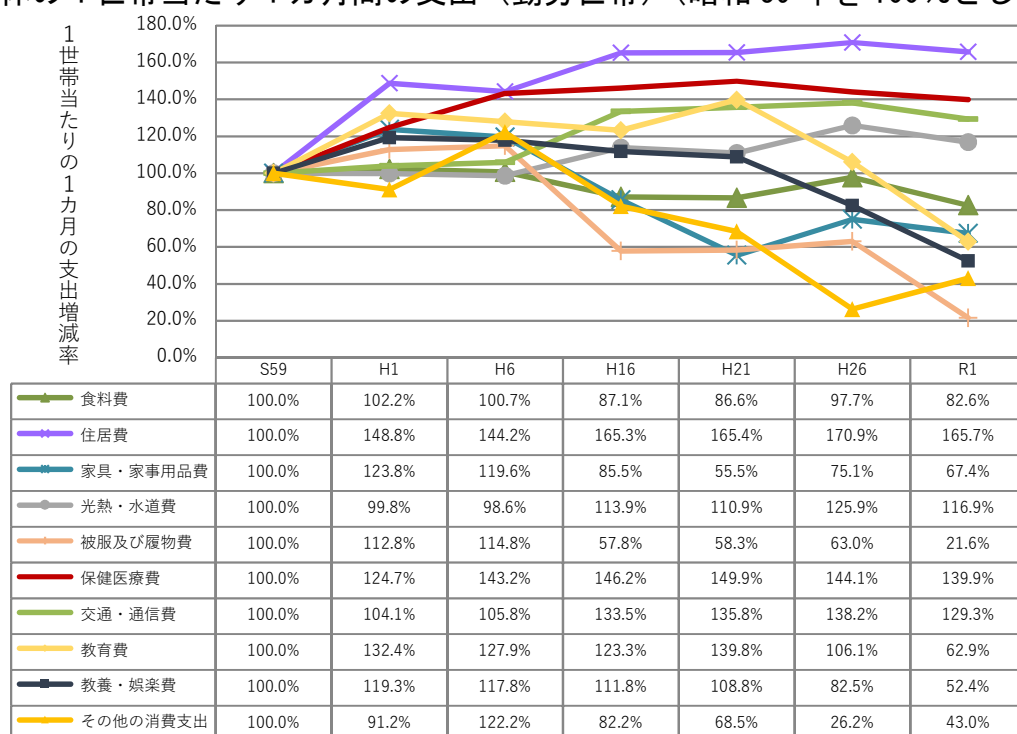
■市全体の1世帯当たり1カ月間の支出（勤労世帯）

○食料費は平成26年に増加に転じたこともあったが、長期的には減少傾向にある。
衣服及び履物費は減少傾向に、その他の消費支出は減少傾向に、交通・通信費は増加傾向にある。



資料：八戸市統計書

■市全体の1世帯当たり1カ月間の支出（勤労世帯）（昭和59年を100%とした場合）



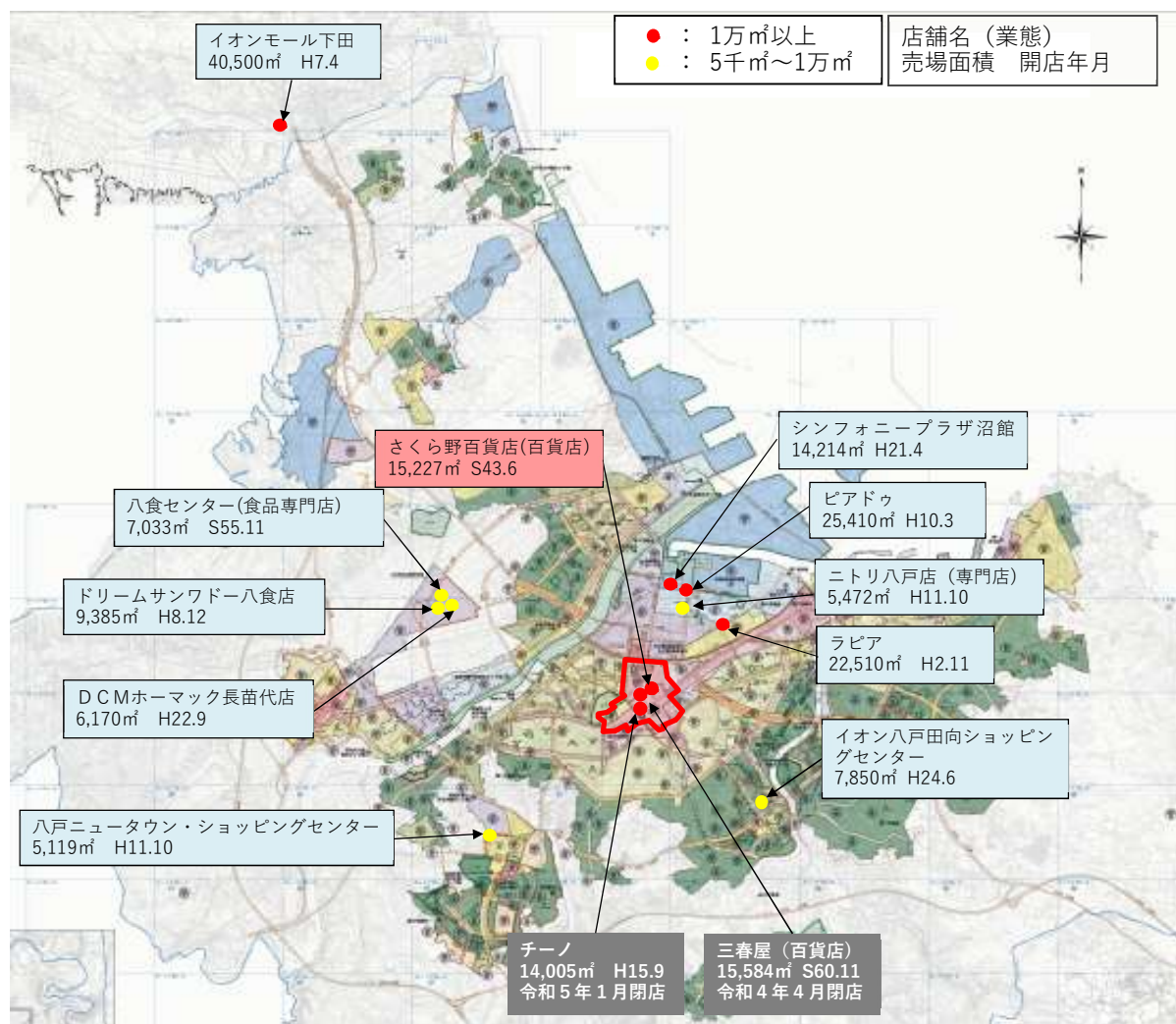
資料：八戸市統計書

④郊外開発の影響

■大規模店舗と郊外開発の位置

○中心市街地の大規模店舗は、令和4年度に、百貨店1店舗と商業施設1店舗の計2店舗が閉店したことから、現状は、1つの百貨店のみが営業している。

○郊外の大規模店舗の大部分は、平成に入ってから整備されたものであり、平成24年のイオン八戸田向ショッピングセンターが最後である。

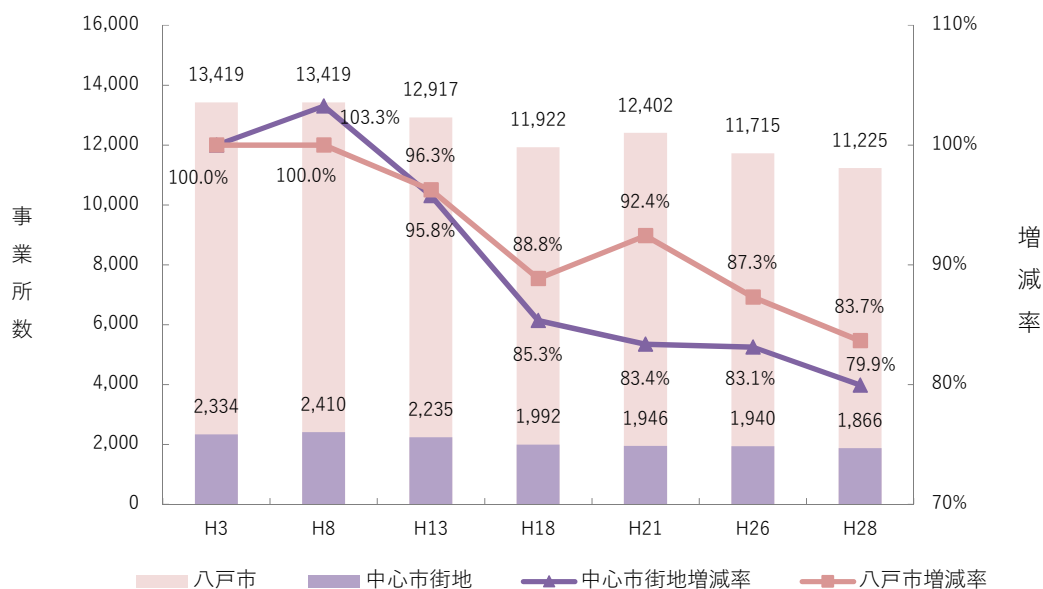


資料：八戸市

⑤事業所数の推移

■事業所数の推移（平成3年を100%とした場合）

○市全体の事業所数は、平成18年までは減少傾向にあり、平成21年に増加に転じたものの、平成26年からは再び減少している。

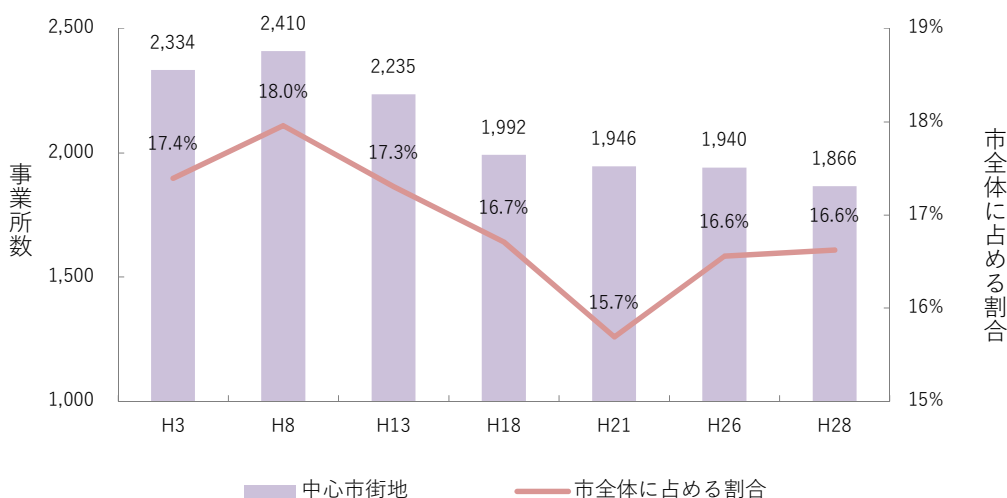


資料：事業所・企業統計調査（H21、H26 は経済センサス-基礎調査）
（H28 は経済センサス-活動調査）

※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。

■中心市街地の事業所数の推移

○中心市街地の事業所数、市全体に占める割合ともに平成21年までは減少傾向にあったが、平成26年は、市全体に占める割合は増加した。



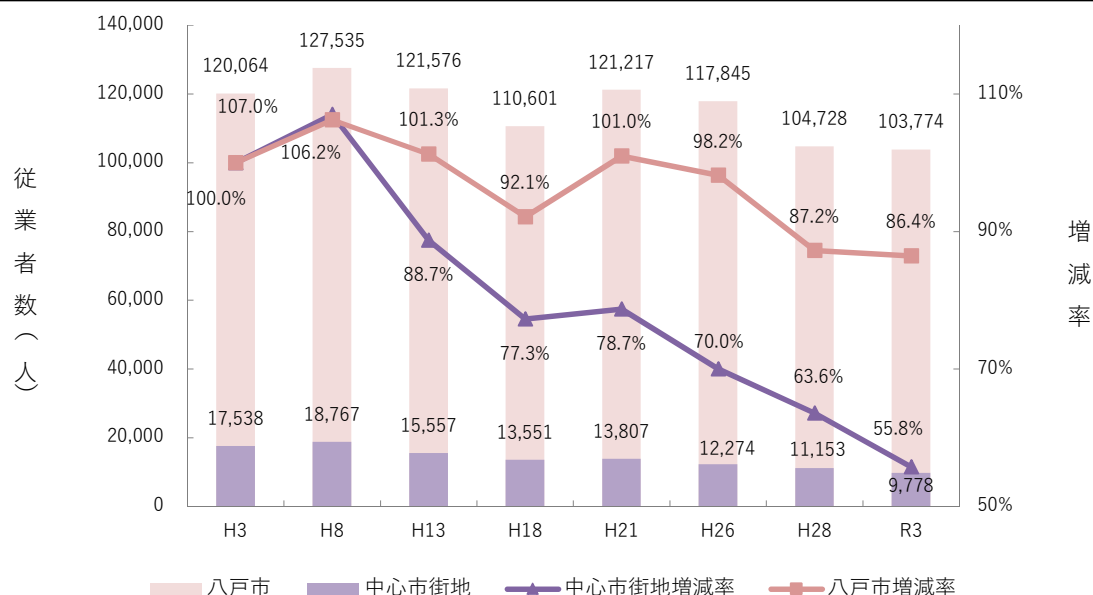
資料：事業所・企業統計調査（H21、H26 は経済センサス-基礎調査）
（H28 は経済センサス-活動調査）

※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。

⑥従業者数の推移

■従業者数の推移（平成3年を100%とした場合）

○市全体の従業者数は、平成18年から平成21年にかけて増加したが、平成26年以降は再び減少に転じている。



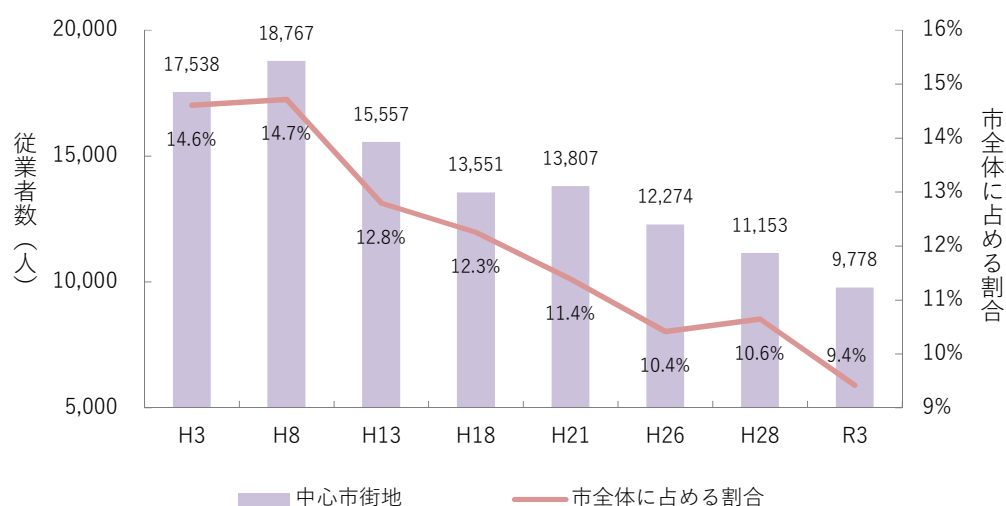
資料：事業所・企業統計調査（H21、H26は経済センサス-基礎調査）

（H28は経済センサス-活動調査）

※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。

■中心市街地の従業者数の推移

○中心市街地の従業者数は、市全体と同様、平成18年から21年にかけて増加したが、平成26年以降は再び減少に転じている。



資料：事業所・企業統計調査（H21、H26は経済センサス-基礎調査）

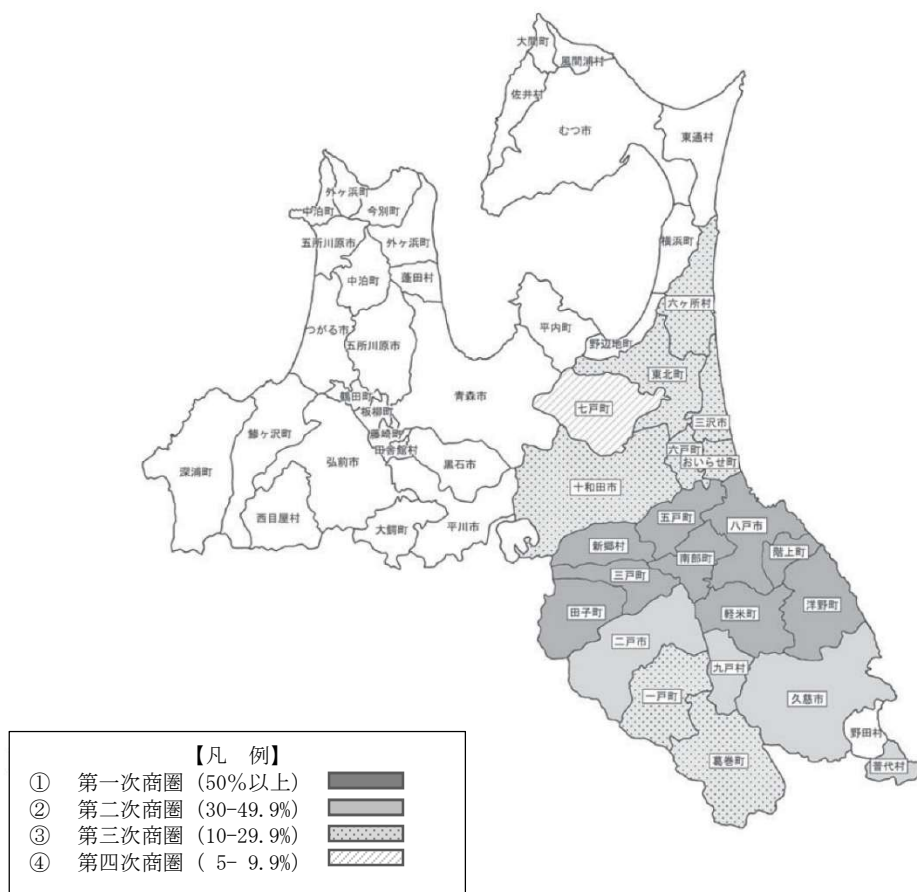
（H28は経済センサス-活動調査）

※中心市街地は第2期計画区域の108haで算出。

⑦ 商圈規模

■八戸市の商圈

○平成 23 年度に実施した商圈調査では、約 63 万人の商圈人口を有しており、第 1 次商圈（吸収率 50%以上）市町村数は 1 市 7 町 1 村となっている。



資料：平成 23 年度商圈調査報告書

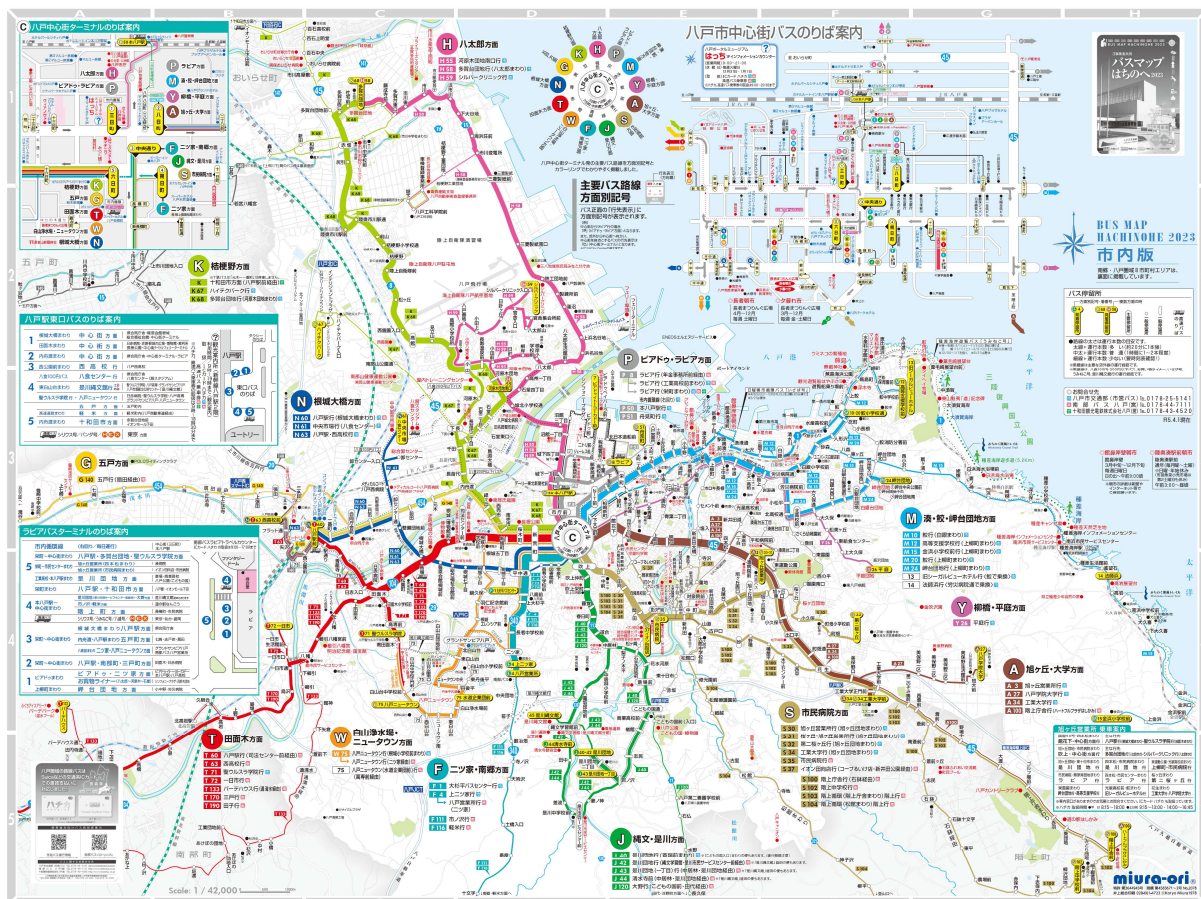
	第一次商圈	第二次商圈	第三次商圈	第四次商圈
平成 23 年	八戸市 階上町 五戸町 三戸町 田子町 南部町 新郷村 軽米町 洋野町	二戸市 久慈市 普代村 九戸村	三沢市 十和田市 おいらせ町 六ヶ所村 六戸町 東北町 葛巻町 一戸町	七戸町
5 市 13 町 4 村	1 市 7 町 1 村	2 市 2 村	2 市 5 町 1 村	1 町

(5) 交通環境

①交通

■バス路線系統図

○多くの路線バスの系統が中心市街地（中心街ターミナル）を經由しており、バス路線の結節点となっている。



資料：はちのへバスマップ

■八戸圏域地域連携 IC カード「ハチカ」の導入

○八戸圏域を運行する岩手県北自動車株式会社(南部バス)と八戸市(市交通部)では、「地域連携ICカード」を利用したIC乗車サービスを令和4年2月26日から導入した。



公営と民営の事業者が協力して圏域エリア全体で導入する初めてのケースであり、交通ネットワークとしての利便性向上が期待できる。

○「ハチカ」発行枚数 35,677 枚 (R5.3 現在)

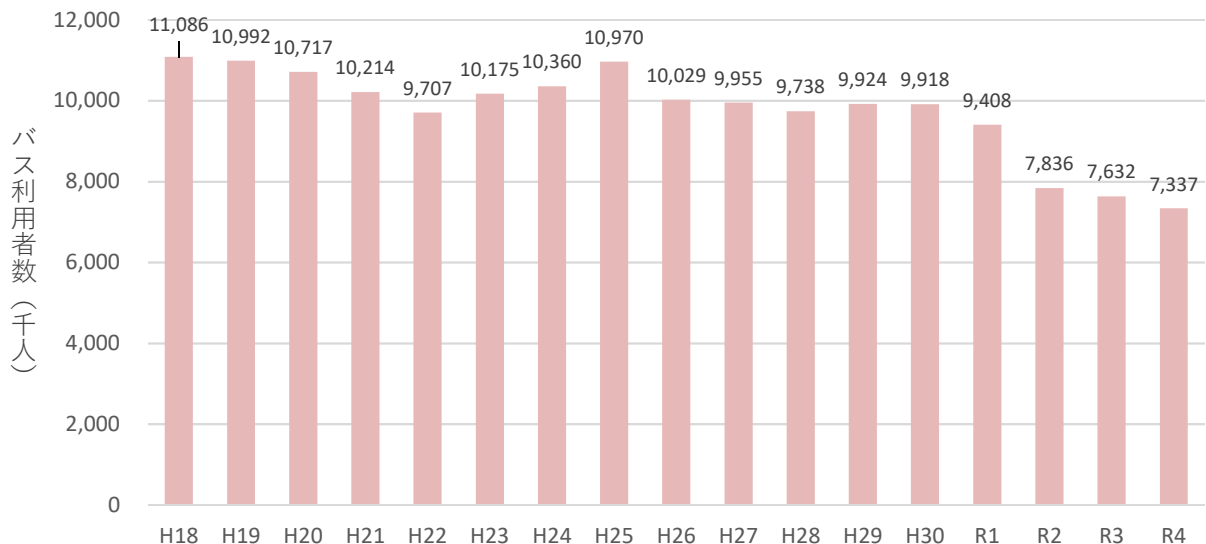
○「ハチカ」を含む交通系 IC カードのバス車内利用率 80.97% (R5.3 現在)

○路線バスのほとんどが中心市街地を經由しており、多い系統では1日の運行本数が100本を超える。

資料：はちのへバスマップ

■バス利用者数推移

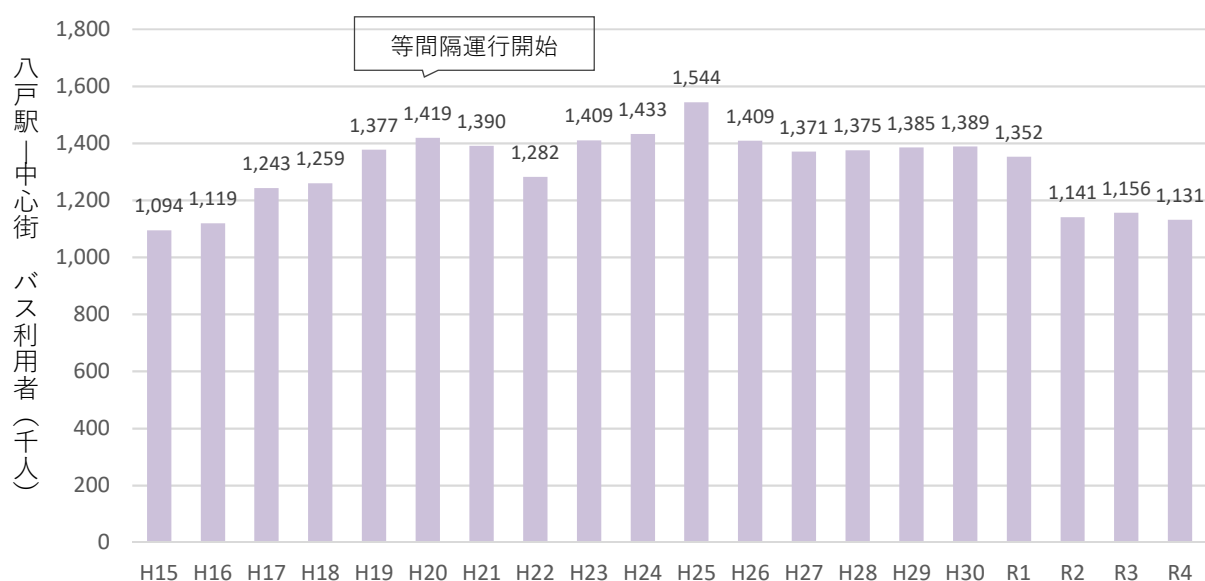
○平成 22 年度まで減少、以降、平成 25 年度まで増加、その後、1 千万人前後で推移していたが、近年は新型コロナウイルス感染症の影響を受ける数字となっている。



資料：八戸市資料

■等間隔運行区間（八戸駅～中心街路線）の利用者数推移

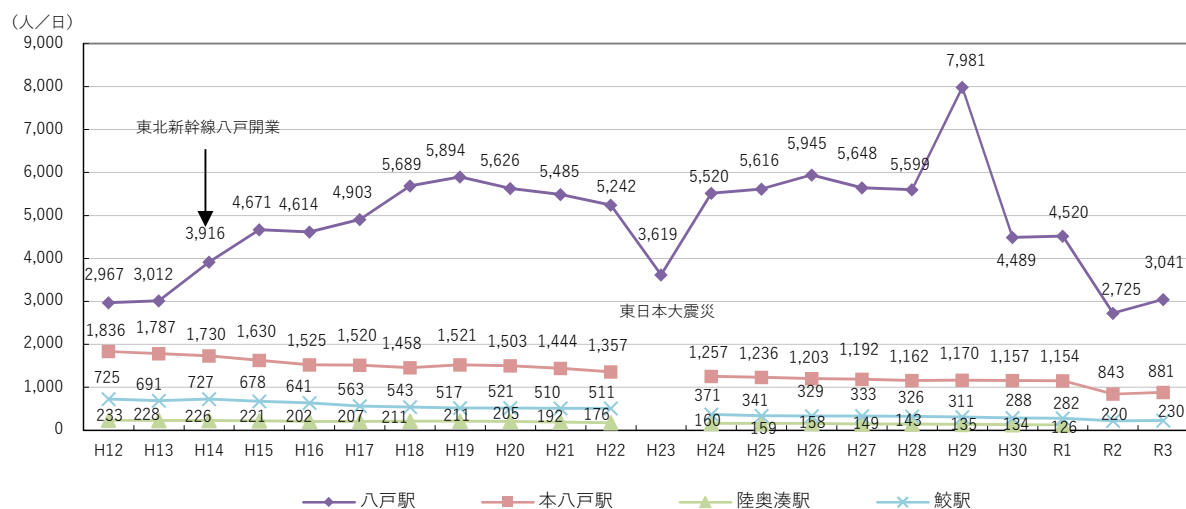
○等間隔運行の開始した平成 20 年度から平成 25 年度まで増加、その後、横ばい、令和 2 年度からは新型コロナウイルス感染症の影響を受ける数字となっているが、前グラフの「バス利用者数」に比べて、減少率は低くなっていることから、一定のニーズがあると考ええる。



資料：八戸市資料

■鉄道乗車人員の推移

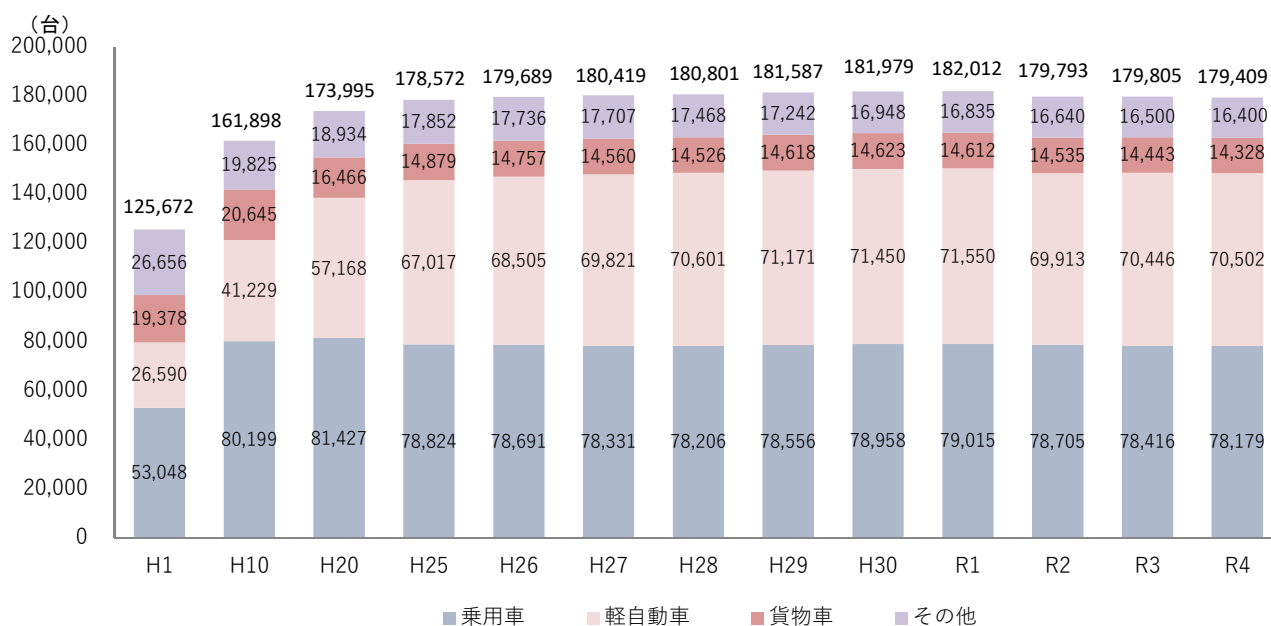
- 八戸駅は、東北新幹線開業（平成 14 年 12 月）前の、平成 13 年約 3,000 人/日に対して、開業後は、概ね 5,000 人前後で推移しているが、本八戸駅は、平成 13 年 1,787 人/日に対して、令和元年では 1,154 人と大きく減少している。
- 中心市街地にある本八戸駅は、J R 八戸線のお駅（陸奥湊駅、鮫駅）に比べ利用者が多いことから、中心市街地の玄関口や、通学・通勤の手段として活用されていることが窺えるが、他駅と同様、利用者が減少傾向にある。



※H23 年度の本八戸駅、陸奥湊駅、鮫駅は、東日本大震災の影響により統計数値なし
資料：八戸市資料

■市内自動車保有台数

- 平成元年と比較すると、平成 20 年には約 40%の保有台数増となっており、以降、約 18 万台で推移している。

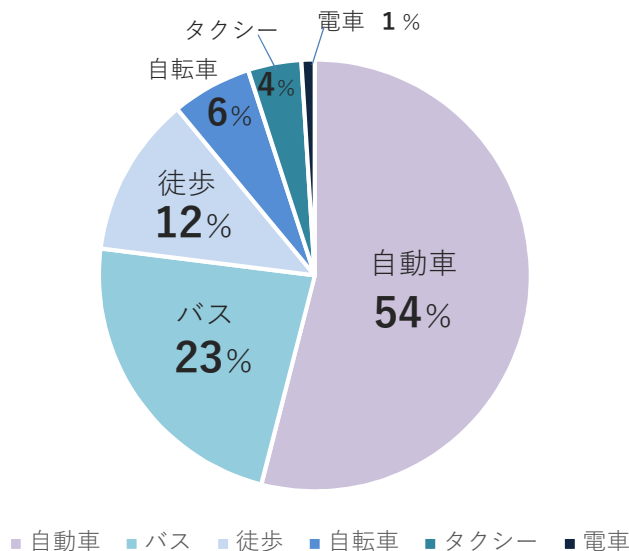


資料：八戸市統計書

②来街手段

■中心市街地への来街手段

○自家用車が最も多く半数を超えており、次にバスが多くなっている。



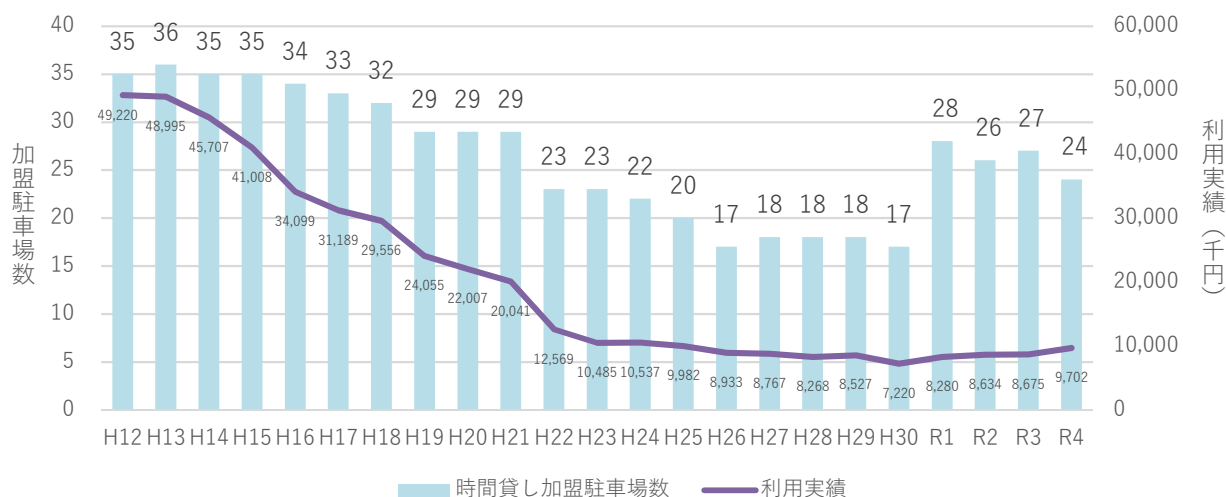
※ 複数回答可

資料：令和4年度中心市街地に関する市民アンケート

③駐車場

■まちなか共通駐車券おんでカード事業の推移

○おんでカードの利用実績は減少傾向にあったが、令和元年度の磁気カードへの切り替えにより、加盟駐車場数が増加するとともに、利用実績も増加傾向にある。



資料：株式会社まちづくり八戸資料

※まちなか共通駐車券は、平成21年度からおんでカードへ移行

※おんでカードは、令和元年9月に、それまでの紙媒体から磁気式カードにリニューアルしたことで、24時間営業の駐車場での利用が可能となった。

■月極駐車場台数の推移

中心市街地には、中心部に「時間貸駐車場」があり、その周辺に「月極駐車場」が立地する状況にある。市で実施した調査では、月極駐車場は、平成 25 年度と令和 4 年度を比較すると約 700 台分増加している。

これは、中心市街地への企業集積等によるマイカー通勤者のニーズや、低未利用地の活用方法が関係していると考えられる。

調査年	月極駐車場 台数
H25 年	3,908
R4 年	4,634
増減	+726

④歩行滞在空間整備エリア

■滞在環境快適性等向上区域（まちなかウォーカブル区域）

○中心市街地の一部をまちなかウォーカブル区域に設定し、基幹事業や提案事業、関連事業を実施することで、街路空間をひと中心のストリートに転換するとともに、誰もが憩うことのできる空間を形成していく。

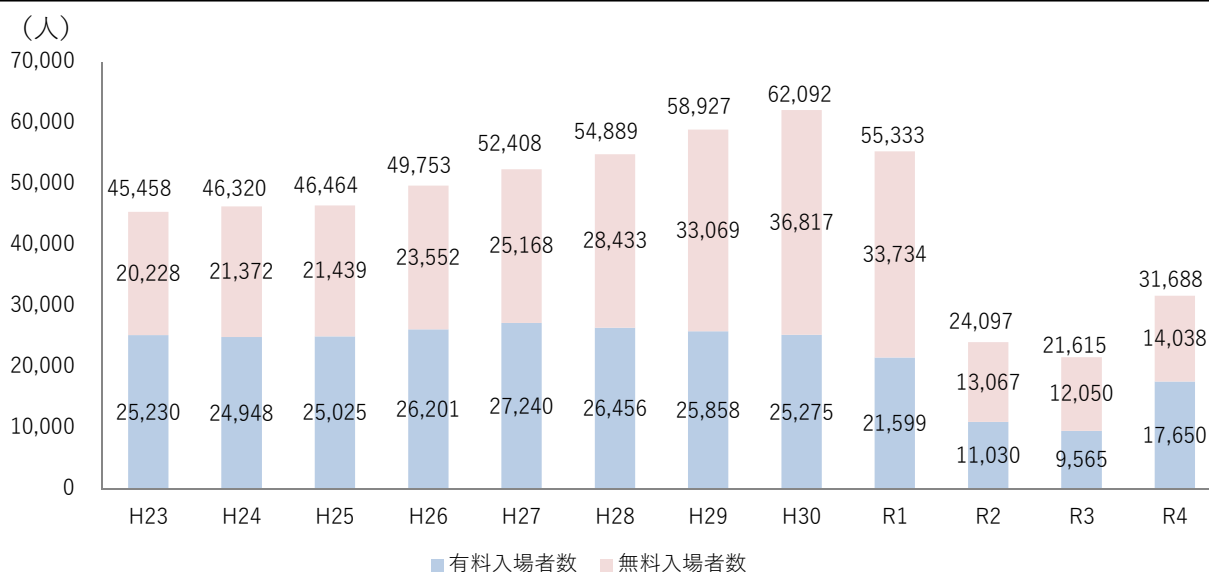


(6) 生活関連サービス

①子育て世代

■こどもはっち利用者数の推移

○中心市街地の「はっち」内にある「こどもはっち」は、平成 23 年度の開設以降、子育て支援の拠点施設、親子の交流の場として、さらに、子育てに関する相談・援助活動や子育て関連講座等を実施するなど、また、平成 29 年 3 月の「八戸圏域連携中枢都市圏」事業開始により圏域町村民も利用が可能となることで、利用者は増加傾向にあった。近年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける数字となっている。



※利用料は 1 人 1 回 100 円 (ただし乳幼児は無料)

資料：八戸市資料

■「子育てアプリはちも」の活用

○妊娠期から子育て期までを切れ目なくサポートする「子育てアプリはちも」の活用により、成長記録や予防接種管理、様々な地域情報など子育て世代が必要とする機能を提供する。



スマートフォン向けアプリケーション「母子モ」と連携し、八戸市の情報と連動した地域密着型アプリ「はちも」で妊娠・出産・育児に関する情報を一元的に発信することで、妊娠期から子育て期までを切れ目なく支援するサービスを提供。

健診記録や予防接種スケジュール管理のほか、出産・育児に関する情報やアドバイス提供など、子育て世代の不安や負担が軽減されるようアプリがサポートする。

②高齢者・障がい者

■高齢者等バス特別乗車証の交付

○高齢者の社会参加の促進と生きがいづくりや、障がい者の外出支援のため、市営バス・南部バス共通の1年間利用可能な「高齢者・障がい者バス特別乗車証」をハチカで交付している。

路線バスのほとんどが中心市街地を経由するバス路線の整備、また、ユニバーサルデザイン視点でのノンステップバスの導入や、スロープを設置した車椅子対応車両の導入などによって、高齢者や障がい者の中心市街地へのアクセスのしやすさに寄与している。

③女性

■男女共同参画の推進

○「男女一人ひとりが生き生きと暮らすことのできるまち八戸市」を目指して、「第5次八戸市男女共同参画基本計画（期間：令和4年度～8年度）」を策定した。また、これを女性活躍推進法に基づく市推進計画としても位置付け、女性活躍の推進や、雇用における男女共同参画の推進を図っている。

市では、事業所における男女共同参画の理解促進やワーク・ライフ・バランスの普及啓発、女性のキャリアアップ支援等の取組を行っている。

八戸市庁等を会場とする「女性チャレンジ講座」や八戸商工会議所が実施する「はちのへ女性創業スクール」など、中心市街地が女性のキャリアアップ支援の拠点となっている。



④外国人

■多文化共生の推進

○八戸市では、「八戸国際交流協会」の活動を通じて、在住外国人との共生を推進している。

中心市街地の八戸ポータルミュージアムはっちや八戸まちなか広場マチニワを会場とする国際交流フェスタ等多文化の理解・交流に関する各種イベント等を通じて、多文化共生の理解普及を図っている。

⑤健康

■健康ポイントアプリの活用

○令和5年3月1日より、スマートフォン向け健康はちのへ21ポイントアプリ「健康はちプラス+」の運用を開始し、利用者の健康増進を図る。

市民が気軽に、楽しく健康づくりに取り組むことができるよう、毎日の歩数やデイリーチェック等でポイントを獲得し、貯まったポイントは地場産品の景品応募に利用できるなど、楽しみながら健康づくりができるアプリとなっている。



[3]市民ニーズ

①令和5年市民アンケート調査による分析

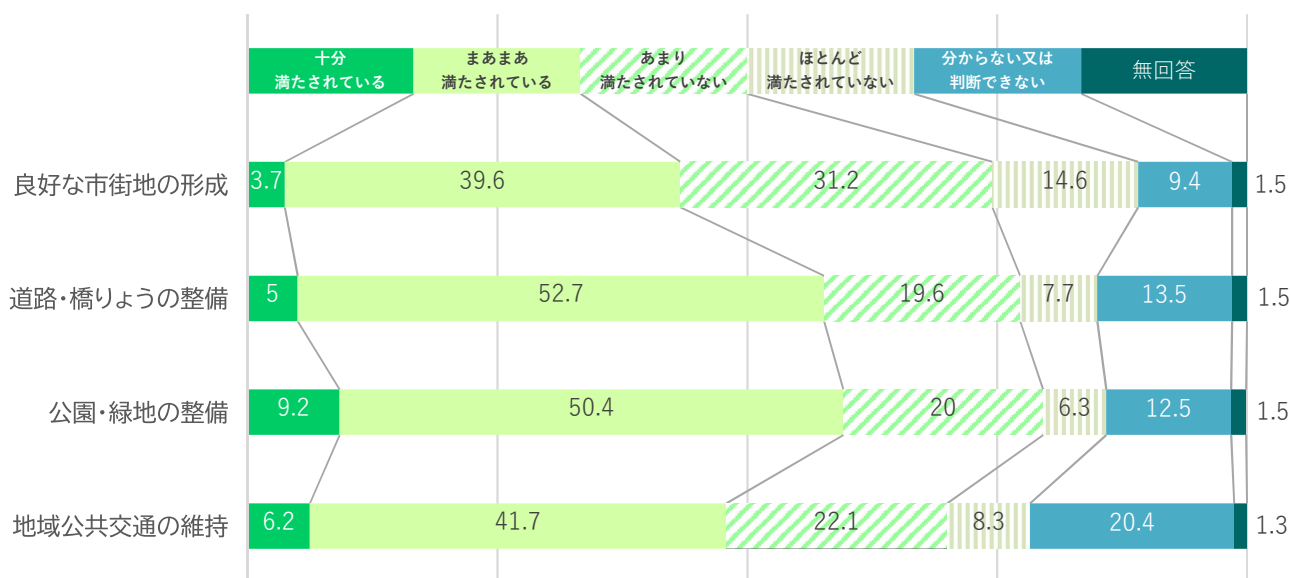
- (1) 実施期間 令和5年1月25日～2月15日
- (2) 対象者 八戸市在住の満18歳以上の市民1000人を無作為に抽出し、市政モニター114人を合わせた合計1,114人
- (3) 回答件数 520件（回答率46.7%）
- (4) 結果

■都市整備・公共交通に関する分野

○「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足度が高い回答項目は「公園・緑地の整備」となっている。一方、「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた満足度の低い回答項目は「良好な市街地の形成」となっている。

（良好な市街地の形成に関する設問）

市民が快適に暮らすことができるよう、道路や公園の整備、中心市街地の歩行空間の整備など、良好な市街地の形成が図られている。n=520



【評価が低い人の理由や要望等】

- ・ 中心街の歩道の整備が急務である。特に高齢者や障がい者にとっては歩き難く、非常に危険な歩道といえる。雨や雪の時はさらに状況が悪化する。
- ・ 中心街の道路はデコボコが多く、歩行しにくい。
- ・ 歩道のタイルが整備されておらず、ベビーカーでの移動が大変である。
- ・ 若い人が街に魅力を感じていない。再開発をして街に活気を取り戻してほしい。

②中心市街地に関する市民アンケートによる分析

(1) 実施期間 令和4年10月28日～11月14日

(2) 対象者 ①中心市街地居住者で満18歳以上の862人(572世帯)

※内訳：共同住宅172世帯、無作為抽出400世帯

②市政モニター 114人

※市内全域から、居住地区や年齢等のバランスを考慮して選出

(3) 回答件数 ①中心市街地居住者 370件(回答率42.9%)

②市政モニター 104件(回答率91.2%)

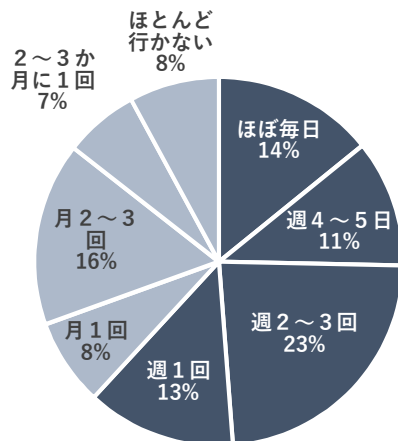
(4) 結果

■中心市街地の利用頻度と買物行動について

(1) 利用頻度

○中心市街地居住者は来街頻度、買物頻度が共に高いとの結果から、来街者や消費の増に居住推進が一定の効果があると考えられる。

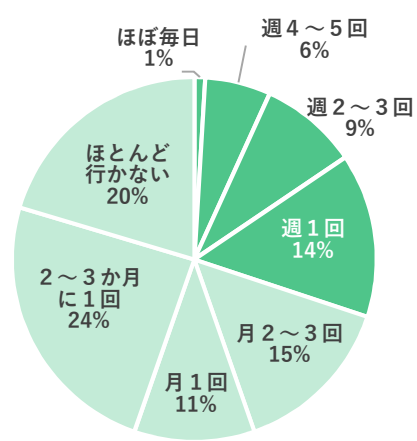
中心市街地居住者 : n = 367



中心市街地を
週1回以上利用する割合

約 **62%**

市政モニター : n = 103



中心市街地を
週1回以上利用する割合

約 **30%**

(2) 買い物行動

(ア) 中心市街地で買物している方の割合

	中心市街地居住者	市政モニター
食料品	45% (19%)	21% (3%)
洋服	34% (13%)	16% (2%)

※主に中心市街地と購入する商品や機会ごとに中心市街地とそれ以外を使い分けている方の合計
※()内は主に中心市街地で購入している方の割合

(イ) 現状の買物環境に不便・不足を感じている方の割合

	中心市街地居住者	市政モニター
食料品	63%	20%
洋服	43%	28%

(ウ)不便・不足を感じている主な理由

	中心市街地居住者	市政モニター
食料品	1. 徒歩圏内にスーパーマーケットがない (137/243)	1. 交通の便が悪い (6/23)
	2. 品数や生鮮食品等が少ない (37/243)	2. 駐車場が有料だから (3/23)
	3. 既存店舗の価格が高い・選択肢が少ない (28/243)	3. 品揃えが少ない (3/23)
洋服	1. 店舗が少ない (51/152)	1. 店舗や取扱ブランドが少ない (13/24)
	2. 価格が高い (30/152)	2. 欲しいものがない (3/24)
	3. 好みのものがない (24/152)	3. 無料駐車場がない (2/24)

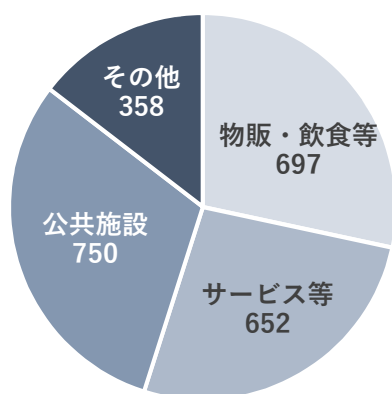
※ () 内の分母は不便・不足を感じていると回答した方の総数

■中心市街地で利用している場所について

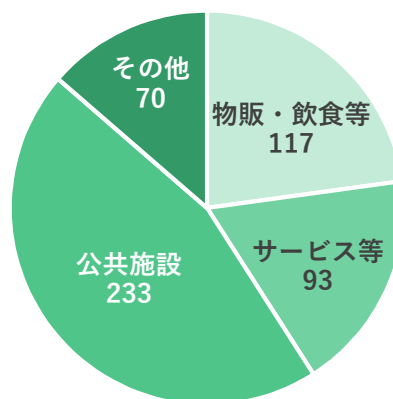
(1)利用場所について(複数回答可)

○利用場所や機会については、居住地に関わらず公共施設の利用が回答数の中で最も多く、様々な役割の公共施設の集積が、市民の来街を促す面で一定の効果を上げている。

中心市街地居住者



市政モニター



(2)利用場所の上位3項目について

	中心市街地居住者	市政モニター
物販・飲食等	1. コンビニ (210/729)	1. 飲食・喫茶店 (43/149)
	2. さくら野 (197/729)	2. 利用しない (32/149)
	3. 飲食・喫茶店 (食事や飲食など) (137/729)	3. さくら野 (31/149)
サービス等	1. 金融機関・郵便局 (224/698)	1. 利用しない (45/138)
	2. 理美容店 (153/698)	2. 映画館 (23/138)
	3. 病院 (127/698)	3. 金融機関・郵便局 (21/138)
公共施設	1. 市役所 (210/820)	1. 市役所 (64/254)
	2. 八戸ポータルミュージアムはっち (155/820)	2. 八戸ポータルミュージアムはっち (46/254)
	3. マチニワ (105/820)	3. 図書館 (31/254)

※（ ）内の分母は利用しない方も含む回答総数

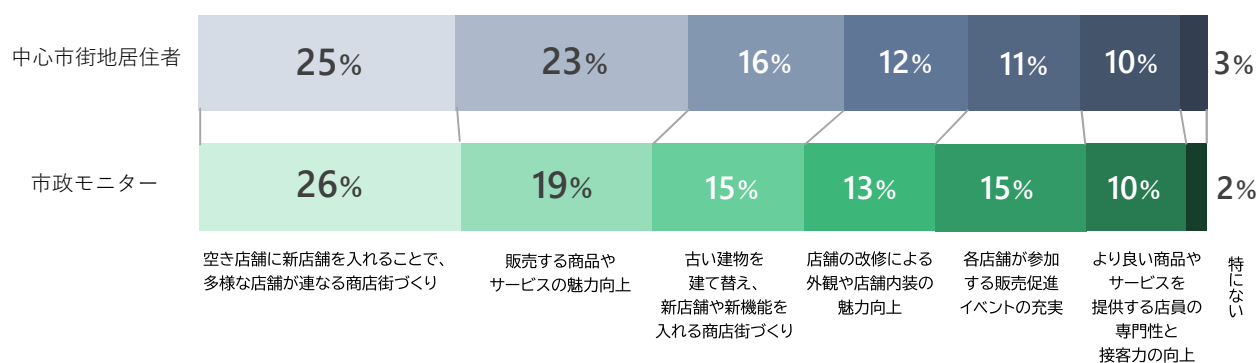
	中心市街地居住者	市政モニター
その他	1. お祭り・イベント（131/431）	1. お祭り・イベント（46/115）
	2. 散策など街なかの回遊（116/431）	2. 利用しない（45/115）
	3. 利用しない（73/431）	3. 散策など街なかの回遊（13/115）

※（ ）内の分母は利用しない方も含む回答総数

■今後取り組むべきことについて

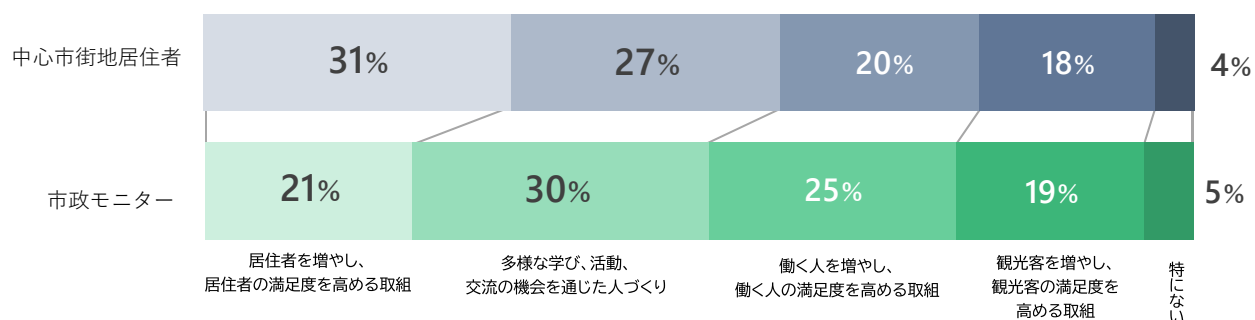
(1) 商店街を魅力的にしていこうために取り組むべき項目

○空き店舗が目立つ現状から買物ニーズに応えられる多様な店舗が連なる商店街づくりへのニーズが高く、対策の優先度が高いと考えられることから、空き店舗対策事業に取り組んでいるまちづくり八戸をはじめ、商店街振興組合など関係団体との連携を図りつつ、効果的な対策の検討を進めていく必要がある。



(2) 中心市街地のまちづくりとして取り組むべき項目

○居住地に関わらず「多様な学び、活動、交流機会を通じた人づくりやコミュニティづくりのための取組」へのニーズが高く、各地域の人が出会い、交流や学びの機会を通し、つながりやネットワークをつくる場としての役割が期待されている。

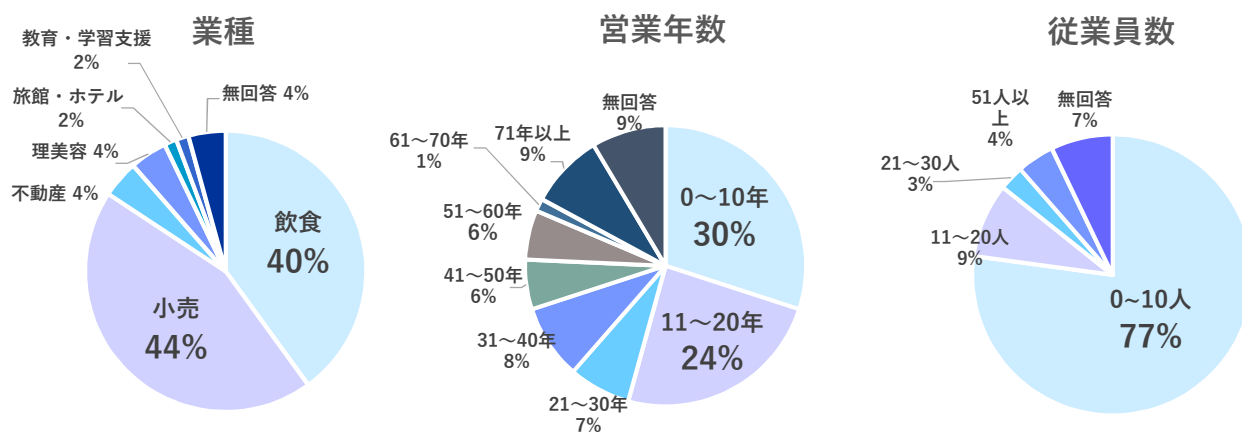


③中心商店街アンケートによる分析

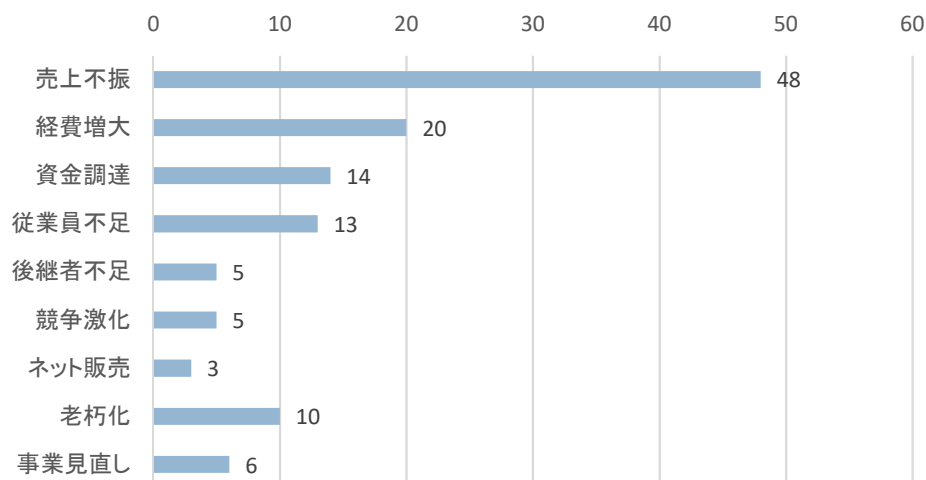
- (1) 実施期間 令和4年6月24日～6月30日
- (2) 調査対象 三日町、十三日町、六日町、十六日町の商店街振興組合の組合員等
配布数 202 枚
- (3) 回答件数 70 件（回答率 34.7%）
- (4) 結 果

■店舗概要

○4街区全体で見ると、業種別割合は飲食、小売で8割を占め、営業年数については、20年以下が5割を占めた。従業員数は10人以下が約8割と小規模店舗が多くを占めた。

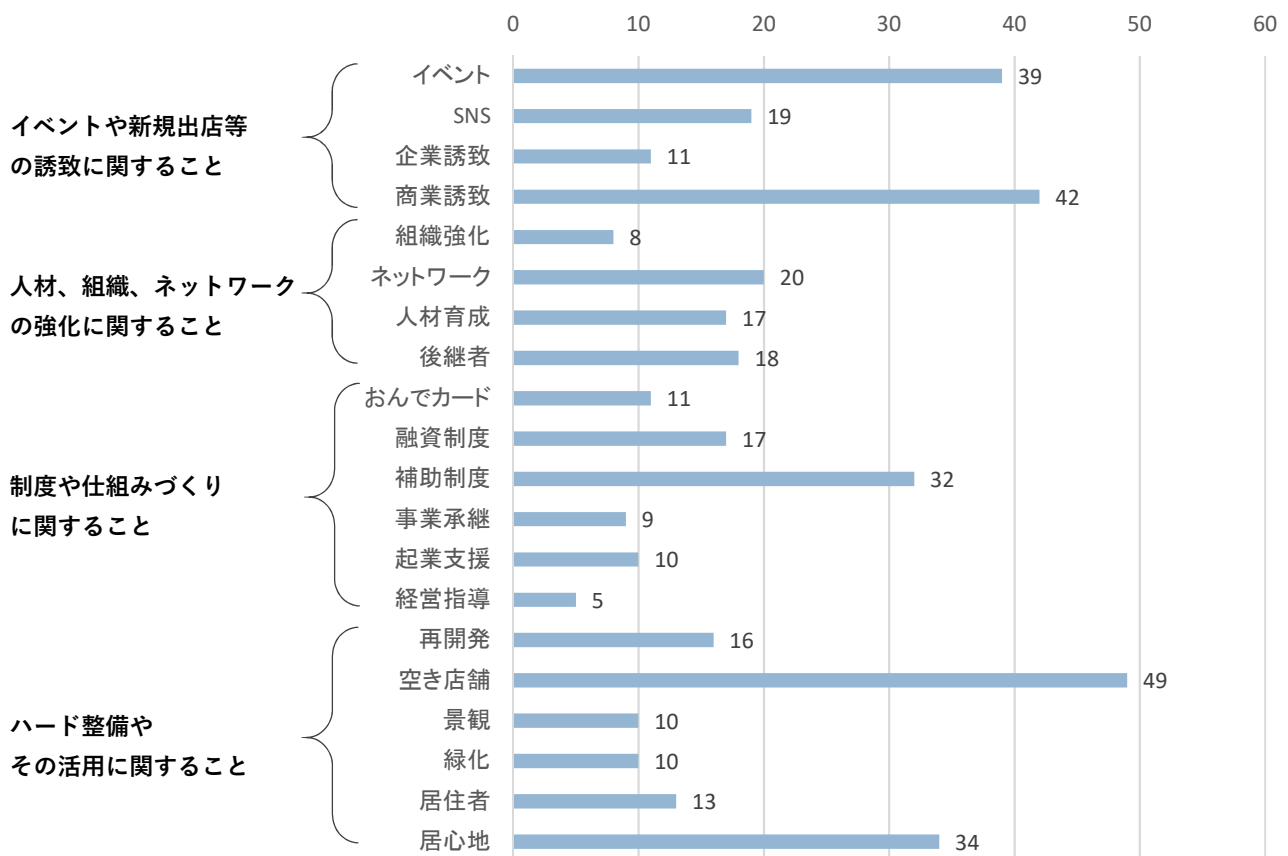


■経営上の課題(複数回答可)



■中心市街地活性化のために取り組む必要がある項目(複数回答可)

○上位 5 つの項目として、「空き店舗の利活用 (49 件)」、「新規の商業店舗や興行所の誘致 (42 件)」、「販売促進や賑わいづくりのイベント (39 件)」、「来街者や居住者にとって居心地のよい空間・場づくり (34 件)」、「補助制度の充実 (32 件)」となっている。



④八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議における若者意識調査アンケートの結果を踏まえての提言

市では、市の未来を担う若者や女性にとって魅力あるまちづくりを推進することで、地域社会に活力を生み出し、多様な人材が活躍できる地域社会の形成を図ることを目的に、令和4年4月に10名の委員で組織する「八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議」を立ち上げ、意見交換やグループワーク、まち歩きしながらのアイデア出し等、様々な視点や角度からの議論を重ねてきた。

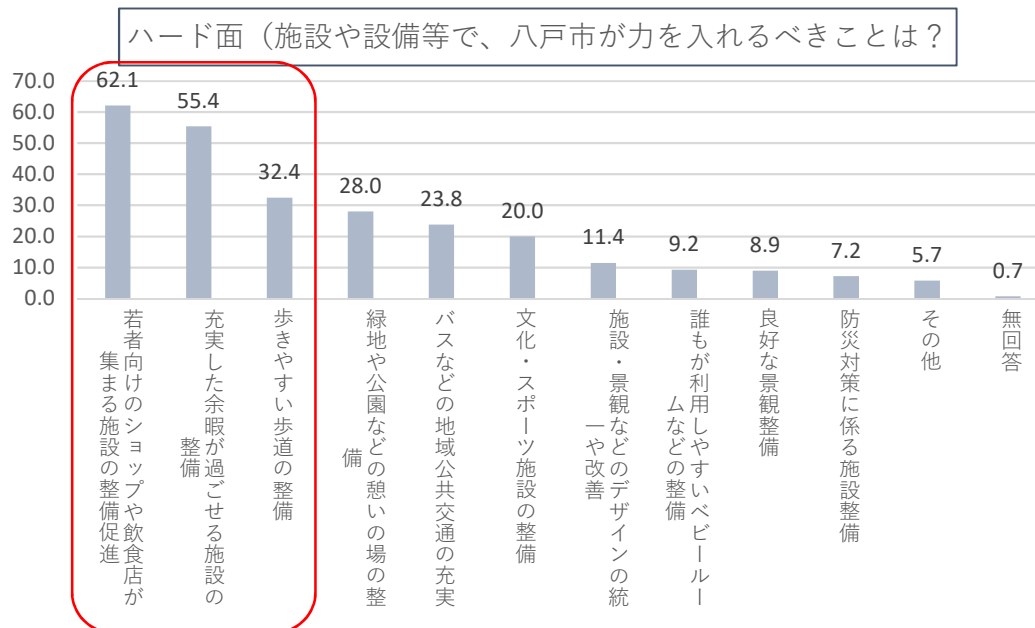
また、若者のニーズを把握するため、「若者意識調査」アンケートの調査結果から得られたデータに基づき、「わたしたちが育ち、わたしが育てる18年」をテーマに、大きく4つの政策の柱に分類し、その政策の柱ごとに、行政や地域企業、団体などが取り組むことが必要な施策を提言としてまとめた。

【令和4年度アンケート調査】

- (1) 実施期間 令和4年6月4日～6月20日
- (2) 対象者 市内に住所を所有する18歳以上40歳未満の男女 1,000人
※地域別人口の割合を考慮して男女別、年齢階層別に無作為抽出
- (3) 回答件数 404件（回答率40.41%）
- (4) 結果

■市が注力すべき施策

○ハード面では、「若者向けのショップや飲食店が集まる施設の整備促進」が最も多く、次いで「充実した余暇が過ごせる施設の整備」、「歩きやすい歩道の整備」であった。



【令和4年度アンケート調査を踏まえての提言内容】

政策の柱1 「わたしが育ち、わたしが育てる18年」のため、親には経済・子育て支援、
子には体験支援

政策の柱2 「わたしが育ち、わたしが育てる18年」の知りたい情報、共感したい想いをデジタルで

政策の柱3 「わたしが育ち、わたしが育てる18年」にあわせて、中心街や街並みを再デザインする

政策の柱4 「わたしが育ち、わたしが育てる18年」を大切にする意識をみんなでつくる

【施策内容】

○親子が集い、学ぶ場としての中心街へ

①教育機能・設備を集約し、#親子で新しい何かを学ぶ中心街へ

(施策例)・保育施設、親・子の交流施設、塾、高等教育機関の拠点を誘致(教育イベントや学会の誘致)

・学生の興味に応じたイベントやコミュニティ活動の奨励(IT・アート・起業・国際など)

・働く体験を学生に提供すべく、インターンやアルバイトの奨励

②気配や予感を漂わせて、#「何かやってらよ」がある中心街を実現しよう

(施策例)・中心街を身近に感じるイベントの開催

・本八戸駅から中心街までのストリートでのイベントの開催

③車で、子連れで、赤ちゃん連れで。#親子がぶらりと行ける中心街

(施策例)・駐車場所の整備や送り迎えのための車止めの整備

・雨の日でも濡れずに歩ける道、段差の修繕など、ユニバーサルデザインの徹底

○家の外にいる、まちを行く市民を増やす

①歩道を直し、季節に打ち克ち、#歩く、まち行く市民に市民権を

(施策例)・歩道整備、通学路整備

・義務教育課程で、まちを歩く活動機会の増

・冬場の雪で歩きにくい歩道や凍った歩道を改善する地域の取組への助成

②市民で賑わっているから、#子ども一人で遊びに行かせられる公園になる

(施策例)・駐車場がある公園の整備

・子育て世帯やお年寄りが公園に滞留してもらおう仕掛けづくり(活動支援など)

【令和5年度アンケート調査】

- (1) 実施期間 令和5年6月16日～7月3日
- (2) 対象者 ・小学生とその保護者・・・市内4校を選定し、5・6年生を対象
・中学生とその保護者・・・市内中学校26校の全生徒を対象
・高校生とその保護者・・・市内高等学校17校の全生徒を対象
- (3) 回答件数 小中高校生5,787件、保護者1,497件
(回答率 小中高校生40.3%、保護者10.4%)

【令和5年度アンケート調査を踏まえての提言内容】

政策の柱3 「わたしが育ち、わたしが育てる18年」にあわせて、 中心街や街並みを再デザインする

～資源を中心街に集中し、中心街を教育や親子の成長のための場所として再デザイン～

提言⑦ 「八戸で働く」を現場で体験。中心街を **#キッズニア八戸** に

【施策例】

1. 中心街をキッズニア化
・実際の商売の現場を子どもに体験させることで、キッズニアを超える
2. 朝市のように「キッズニアが立つ」
・地域の産業のブースを中心街に並べた歩行者天国
3. 子から親へお店の情報を伝えることで、中心街活性化にもつながる

提言⑧ 集まる楽しさを取り戻す。 **#中心街を図書館・部室・生徒会室** に

【施策例】

1. 中心街を勉強のために集まる図書館に
・事前登録した「家庭教師」によるサポート
2. 中心街を部室に
・IT系・サブカルチャー系の学生を集め、創造性を育てる
3. 中心街を学生のまちづくりの活動拠点になる生徒会室に
・学生が自治・運営する組織。こどもの国ならぬ「こどもの街」

提言⑨ 汗かく、お金もらう、つながる。 **#中心街バイト自由化**

【施策例】

1. 中心街などの特定エリアと協力した地区限定・時期限定でのアルバイト解禁
・教育機関・事業者が連携し、高校生に安全なアルバイトを提供
2. 中心街の事業者が同日・一斉にアルバイトの説明会・面接会を実施する「バイトまつり」の開催
3. 草取り・雪かきなどの超短時間アルバイト「猫の手バイト」の実施

資料：2023年9月八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議提言書

⑤その他関係団体に対するアンケート調査やヒアリング等

団体名・名称	実施日	出された意見等
中心商店街アンケート (三日町・十三日町・六日町・十六日町対象)	2022/6/30	空き店舗の利活用に取り組む必要があるとの意見(1位) 新規の商業店舗や興行所の誘致に取り組む必要があるとの意見(2位) 販売促進や賑わいづくりのイベントに取り組む必要があるとの意見(3位) 来街者や居住者にとって居心地の良い空間・場づくり(4位) 補助制度の充実に取り組む必要があるとの意見(5位)
市長と女性団体との意見交換会 (女性)	2022/10/4	古い建物をリノベーションし、若い人たちに提供すること。 中心街を「街を歩くために行く」という目的にする。健康増進になる。 きれいな歩道が整備され、花や木があるなど、街なかや横丁を散策したくなるまちづくり。 まちづくりに重要なのは「ビジョン」であり、「ビジョン」を共有し、広報等でその経過を周知すること。 商業だけでなく、オフィスや住む人たちを増やし、人が集まる仕掛けを。 チーノの再開発事業では、日常の食料品が買えるところを設けてほしい。 中心街の歩道はデコボコで緑が無い。中心街の道路は美しくなく居心地が悪い。街灯が暗い。 どんな人でも安全に歩ける歩道、滑りにくい歩道のSDGSの観点からの整備。 中心街の冬は歩きにくい。除雪をしっかりと歩きやすくしてほしい。 六日町の裏通りにある荷捌きスペースは便利であり、表通りに作れば駐車問題の緩和につながる。 駐車料金が発生するために街を回遊せずに終了してしまう。回遊しなければ街の良さの発見につながる。 駐車料金の無料キャンペーンの実施。 れんさ街などのトイレをきれいにするを行わなければ、女性来ない街になってしまう。 八戸市の魅力である食のレベルの高さや人の温かさを活かすこと。 どこでもWi-Fiが使えるようになるという。拡張現実(AR)の活用。
障がい者団体との意見交換	2022/11/22	道路がでこぼこで段差がきつい。歩道の幅が狭いところがあり歩きづらい。 ノンステップバスを増車してほしい。 十三日町側に新たな施設等を整備する場合のバリアフリートイレ整備(チーノの再開発等)。 マチニワビジョン等への障がい者字幕の導入。 車いす利用者と点字ブロックの共存(点字ブロックによって押しづらい)。 ホコテンだけではなく、三春屋のスペースなどで定期的なイベントがあればいい。 障がい者だけでなく、子どもにも配慮したまちづくりをしてほしい。 日中、高齢者が楽しめるような場所が足りない。 大学と連携して若い人を呼び込む。 障がい者用の駐車スペースが無い。 お茶したりフードコートのなフリースペースがあれば。
子育て関連団体との意見交換	2022/11/16	ランチができたり気軽に集える場所といった、子育て世代同士が集える場所があればいい。 マチニワのどこかに芝を敷くとか、子どもが遊べる場所があればいい。 中央児童館の有効活用(市域全体のための日曜日の学童や幅広い年齢層の子どもへの対応等)。 中央児童館では、三八城公園が近くにあるのでプレーパーク的な取組を行ったり、子ども食堂を行ったり、歴史資源の伝承を行ったりといった取組が考えられる。 3世代が楽しめる場所であってほしい。 若い世代は保健センターまでバスで通っている。中心街から田向までのバスの利便性。 様々なスキルを持った子育て世代がおり、スキルを還元できたり稼げる場所があればいい。 子育て分野などNPOであればトライアンドエラーが可能→NPOの取組が重要。
まちづくり団体との意見交換	2022/12/16	定住する外国人やインパウンドの増加を見据えた地元住民との相互理解といった「多文化共生」の考えが必要。 ひとり親家庭の支援の充実。子どもが気軽に休めるところやおむつを代える場所が少ない 伝統芸能の継承のため地元の子どもが三社大祭のお囃子やえんぶりを教わる機会が必要。 その役割として「はっち」が大事。
中心街に進出する企業との意見交換	2022/12/16	中心街には広いオフィスフロアが無い(業務拡大の場合に別なビルやフロアを借りなければならず非効率である。集約できるほどの広いフロアが無い)。 マイカー通勤者が約7割であるが、月極駐車場が不足している。 三春屋の閉店により安価に昼食を購入できる場所が無くなり不便。 オフィスは手狭であり、昼食が取れる場所や休憩できる場所が欲しい。 はっちやマチニワは勉強する高校生や年配の方で埋まっており、もう少しフリースペースがあっても良い。 三春屋南口等にキッチンカーが出店すれば、ヴィアノヴァにはオフィスが集積していることから利用者が多いと思う。 遅い便のバスや駐輪場がほしい。 夜遅くまでやっている病院や保育所・託児所がほしい。 子どもが遊ぶ場所が少ない。特に小学生以上が自由に遊べる場所や参加しやすいイベントがあればいい。 こどもはっち以外にも未就学児が遊べる場所があればいい。はっち以外にもおむつ替えができる場所があればいい。

団体名・名称	実施日	出された意見等
観光団体との意見交換	2022/12/23	アンケートの調査結果では、八戸圏域を観光客が訪れる目的としては、1位が「食」であり、中心街は横丁をはじめとする食のコンテンツが充実しているので伸びしろがある。 宿泊施設のキャパシティが足りていない(新幹線20周年記念イベント時には函館に宿泊した方も)。来年度は全国都市問題会議が開催され2,000人の来八が見込まれるが、市内の宿泊キャパは2,500人であり通常利用を加味すると足りていない。ビジネス客による平日利用も好調である。 中心街のホテルはほぼビジネス一択であるが、ミドルクラスがあればいい(チーノ再開発に期待)。 教育旅行に対応できるホテル(個室＋皆で食事できる場所)があればいい。 中心街は、公会堂やはっち等に加えて文化施設があり、MICE事業の適地であるが、合わせてエクスカージョンも提案できることが望ましい。 観光は、八戸だけでなく圏域7町村を絡めながら長く滞在してもらう必要がある。その意味でも、中心街は圏域交通のハブとして重要である。また、はっちの1・2階等に、圏域の情報発信コーナーがあればいい。 繁華街でお土産を扱う場所が無い。 「酒」を伴わないディナーやランチを楽しめる場所があればいい。 山車運行＋街路のフラット化＋美装化(ステージとして)がセットになれば、観光資源として有効ではないか。 インバウンドの受入体制が脆弱である。言語対策やビーガン対策等が重要である。 本八戸駅は、中心街への玄関口であるが、駅構内は階段しかなく、キャリーケースを引いた観光客やビジネス客に対応できる環境になっていない。また、イベント時にはロッカーが直ぐ満杯になる。
交通関係者との意見交換	2022/12/22	ストリートデザイン事業は、三日町十三日町区間は渋滞している路線ではないので、荷捌きスペースやバスベ이를整備しての車線減少であれば、人が集まり、賑わいを作る点からは進めてほしい。またフラット化によって車への乗り降りもしやすくなる。 七夕祭りは3年も実施していないので開催すべき。花火大会のように市民出資で協賛金を募る方法もある。 バスの中心街の等間隔運行は評判が良いと聞く。ホテルは中心街が充実していないとダメだ。また行きたいと思わせるのは泊まったエリアの印象が大きい。 国体では中心街に宿泊して飲食もするので、飲食店ではおもてなし力を入れてほしい。 更上閣にカフェを設置するなど、使い方を変えれば、人の集まる場所になる。
交通関係者との意見交換	2023/1/11	ストリートデザイン事業は、ノンステップバスを導入している点からは、フラット化によって乗る際に段差が生じることが懸念される。 ハチカ導入によって、スイカなどがハチカエリアでも利用できることで観光客の利便が期待できる。 中心街はバス交通の結節点であり、マチニワなど、バスを待つ時間に過ごせる空間というのが学生等には貴重である。そうやって過ごした場所に愛着を持たば、社会人になってからも再び訪れるきっかけとなる。
商店街関係者との意見交換・勉強会	2022/12/16	昔のように「とりあえず街に行こう」という市民の感覚は無いため、いかに多くの人に来街してもらうかを考えており、若い人向けにYoutubeで発信している。市にはストリートデザイン事業などハード整備を進めてもらいたい、ソフト事業で盛り上げていくのが商店街の役目だが、商店が減少しているため、単位商店街で実施するのが難しい状況になっている。 飲食店が多いが、今年度のプレミアム付商品券事業の効果で、新たに組合に加入してもらった。今後もイベントに力を入れていきたい。新規出店者は若い人が多いが、イベントには参加するが組合に加入しない方も多く、イベント時には、エリア外の人にも参加してもらっている。 街区には古い建物が多く、再開発構想も進んでいない状況。銀行が多く、居住者が多く、環境美化に力を入れ、住んでいる方々の懇親が中心であるがコロナ禍でコミュニケーションが取れていない。プレミアム付商品券事業は番町地区と連携して実施した。当社では直売所を設置したことからは観光客の来街も期待できる。様々な会議が行われるが、誰が主導してやっていくのかが決まれば、このような話し合いも必要が無くなる。 念願の都市計画道路が開通した。これから両面商店街から片面商店街になる。「街に来た方はここに車を停める」との視点から駐車場の整備が必要。 現在約半数のシャッターが閉まっている状況だが、チーノの再開発は早くても完成が3年後であり更なる衰退が心配。店舗が減ると組合に入るお金も減る。 三日町・十三日町は衰退が進んでおり、思い切った取組が必要。八日町の再開発が進展するなら無料の駐車場の整備を。ストリートデザインについては、国道340号の歩道を広げる必要は無い。

[4]これまでの中心市街地活性化に対する取組の検証

当市は、平成 12 年に旧中心市街地活性化法に基づく計画を策定し、平成 20 年 7 月に改正中心市街地活性化法に基づく第 1 期中心市街地活性化基本計画を策定した。その後、平成 25 年 3 月に第 2 期計画の認定を、平成 30 年 12 月に第 3 期計画の認定をそれぞれ受け、継続して中心市街地の活性化に取り組んできた。

これまでの取組概要と第 3 期中心市街地活性化基本計画における成果は、次のとおりである。

(1) 概要

	旧中心市街地活性化法に基づく計画	第 1 期	第 2 期	第 3 期
策定	平成 12 年 3 月	平成 20 年 7 月	平成 25 年 3 月	平成 30 年 12 月
区域面積	約 140 ha	約 108 ha	約 108 ha	約 137 ha
基本方針	①魅力ある商業軸の形成と「市日」の復活	①はちのへの文化交流のメッカをつくる	①商業やオフィス、福祉・医療、教育、行政など多様な都市機能が集積する活力あるまちづくり	①多様な都市機能が集積した活力あるまちづくり
	②八戸観光・情報の発信と「山車」のあるまちづくり	②まちなかの見どころ・もてなしを充実する	②魅力的な文化や観光資源が溢れる賑わいのあるまちづくり	②地域経済の活力向上
	③市民ニーズに対応した都心機能の充実	③魅力ある店々が連なる回遊空間を創出する	③暮らしやすい住まい環境が整うまちづくり	③移動しやすい、暮らしやすいまちづくり
	④まちの活力を維持する定住の促進	④まちなかに来やすくする	④公共交通が充実し、歩行者に優しいまちづくり	
		⑤暮らしやすい住まい環境を整える		
事業	34 事業	47 事業	56 事業	78 事業

（２）第３期中心市街地活性化基本計画の取組

第３期計画では、「多様な機能が集まり、多彩な人々が行き交う、八戸らしい文化を育むまち」を目指す中心市街地の将来像に掲げ、官民一体となって各種事業に取り組んできた。基本計画に掲げた 78 事業のうち、完了あるいは実施中の事業は 77 事業で、実施率は全体の約 99% となり、概ね、予定通りに進捗してきたところである。

計画の達成状況を示す 4 つの目標指標のうち、「歩行者通行量」、「公共施設来館者数」、「空き店舗・空き地率」の 3 つの指標については、新型コロナウイルス感染症の影響や、大型商業施設における経営の縮小や閉店、路面店閉店の影響により目標達成が見込まれない状況である。

「中心市街地における人口の社会増減数」については、民間開発による分譲マンション整備による中心市街地への居住が進んだことで、期間内の目標達成は可能と考える。

次に、参考指標の「創業等支援件数」と「誘致企業就業者数」の 2 つの指標値については、それぞれ「はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業」、「IT・テレマーケティング関連産業立地促進事業」等の実施効果により、目標達成は可能と考える。

①事業実施状況と主な事業の成果

＜事業実施状況＞

全 78 事業

- ・完了 27 事業
- ・実施中（ソフト事業） 38 事業
- ・実施中（ハード事業） 9 事業
- ・他事業へ移行 3 事業
- ・未着手 1 事業

○市街地の整備改善のための事業

1	くらしのみちゾーン整備事業	他事業へ移行
2	長根公園周辺道路等整備事業	完了
3	八戸都市計画道路事業 3・5・1 沼館三日町線	実施中
4	本八戸駅通り地区街なみ環境整備事業	実施中
5	主要地方道八戸大野線無電柱化事業	実施中
6	八日町地区複合ビル整備事業	完了
7	番町堀端町地区優良建築物等整備事業	完了
8	花小路整備事業	完了
9	旧柏崎小学校跡地広場整備事業	実施中
10	市道番町線無電柱化事業	実施中
11	国道 340 号電線共同溝整備事業（新荒町～荒町）	実施中
12	花小路周辺地区修景整備事業	完了
13	八日町番町地区まちづくり事業	実施中

14	八戸市中心街ストリートデザインビジョン事業	実施中
○都市福利施設を整備する事業		
15	八戸市長根屋内スケート場建設事業	完了
16	美術館整備事業	完了
17	市立図書館環境整備事業	完了
18	長根公園再編事業	実施中
19	八戸ポータルミュージアム運営事業（感染症対策）	完了
20	公会堂・公民館改修事業	完了
○まちなか居住推進のための事業		
21	まちなか住宅取得支援事業	完了
22	はちのへ空き家再生事業	実施中
23	中心市街地保育所事業	実施中
24	まちなかヘルスアップ事業	完了
25	まちなかの保健室事業	完了
26	ほんのり温ったか八戸移住計画支援事業	実施中
27	【フラット35】地域連携型	完了
○経済活力向上のための事業及び措置		
28	まちなか生業応援事業	実施中
29	IT・テレマーケティング関連産業立地促進事業	実施中
30	中心市街地オフィスビルパートナー制度事業	完了
31	中心商店街空き店舗・空き床解消事業	実施中
32	はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業	実施中
33	はちのへマチナカ活性化プロジェクト事業	完了
34	中心市街地商業機能誘致事業	実施中
35	横丁活性化事業	実施中
36	まちなか講座事業	完了
37	商店街ポータルサイト運営事業	完了
38	市日はちのへ楽市楽座事業	実施中
39	まごころ宅配サービス事業	完了
40	はちのへホコテン実施事業	実施中
41	創業拠点施設ハンドメイドレンタルボックス「テッコ舎」運営事業	実施中
42	ポータルサイト「はちまち」運営事業	実施中
43	マチニワイイベント支援事業	実施中
○上記事業と一体的に推進する事業		
44	市民大学講座開催事業	実施中
45	八戸三社大祭開催支援事業	実施中

46	中心市街地活性化協議会支援事業	実施中
47	八戸えんぶり開催支援事業	実施中
48	八戸ポータルミュージアム運営事業	実施中
49	八戸ブックセンター運営事業	実施中
50	八戸まちなか広場運営事業	実施中
51	八戸市長根屋内スケート場運営事業	実施中
52	新美術館運営事業	実施中
53	はちのへ菊まつり開催支援事業	実施中
54	文化施設の広報・情報発信事業	実施中
55	八戸七夕まつり運営事業	実施中
56	八戸三社大祭 GPS 多言語ガイドサービス導入事業	完了
57	屋内スケート場 NTC（ナショナルトレーニングセンター）誘致事業	完了
58	はちのへ AI（アイ）中心街・バス活性化プロジェクト	実施中
59	まち歩き推進事業	実施中
60	長者まつりめぐ広場活用事業	実施中
61	本八戸駅バス乗継利便性向上事業	未着手
62	大学サテライト事業	完了
63	訪日外国人旅行客受入支援事業	他事業へ移行
64	公会堂舞台芸術公演事業	実施中
65	中心街まちぐみプロジェクト事業	実施中
66	市内幹線軸等間隔運行事業	実施中
67	八戸圏域路線バス上限運賃政策	完了
68	企画乗車券「まちパス」発行事業	完了
69	公開講座開催促進事業	完了
70	タウンマネージャー設置事業	実施中
71	コンベンション誘致事業	実施中
72	まちなか共通駐車券運営事業	実施中
73	街かどミュージアム運営事業	実施中
74	まちなかアート事業	完了
75	中心市街地にぎわい形成事業	完了
76	都市再生推進法人事業	実施中
77	成人式開催事業	実施中
78	更上閣ガーデンレストランライアル事業	他事業へ移行

＜主な事業の成果＞

① 美術館整備事業

事業期間	平成 27 年度～令和 4 年度
実施主体	八戸市
事業概要	旧美術館跡地及び市有地の有効活用を図りながら、新しい美術館を整備する。
成果	平成 30 年度に、管理運営基本計画策定及び実施設計、旧消防庁舎及び交通安全協会の建物解体と粗造成工事、令和 2 年度の建物竣工、令和 3 年度の広場整備完了を経て、令和 3 年 11 月に開館している。開館後は様々な展覧会やプロジェクトの実施、ジャイアントルームといったオープンな空間の提供によって多くの来館者が訪れている。

② 八戸まちなか広場運営事業

事業期間	平成 30 年度～実施中
実施主体	八戸市
事業概要	「緑・水・光」などの自然要素を取り入れた街なかの「庭」のような広場「マチニワ」において、イベントの実施等により人が集い賑わう空間を創出する。
成果	平成 30 年 7 月 21 日にオープン。天候に左右されず活用できる半屋外空間として、貸館事業や市自主事業でのイベント実施により多くの来街者で賑わうほか、イベントが無いときには、自由に集える空間、通り抜けも可能な空間として、多くの市民等に利用されている。

③ はちのへマチナカ活性化プロジェクト事業

実施期間	平成 30 年度～令和 4 年度
実施主体	八戸市
事業概要	「マチニワ」等を活用した中心市街地での賑わいを創出する各種企画や、「マチニワ」に隣接する花小路やみろく横丁、ブックセンター等と連携したイベント等を実施する。
成果	地域の生産者による「38 FUUD FOOD MARCHE」の開催、大道芸フェスティバルの開催等で、多くの来街者が訪れた。

④ 中心市街地オフィスビルパートナー制度事業

事業実施期間	平成 21 年度～令和 2 年度
実施主体	八戸市
事業概要	中心市街地において市が認定したオフィスビルに誘致企業が入居する場合、改装に要した費用の一部を支援する。

成果	これまでにオフィスビルパートナーの認定 6 件 交付実績：平成 30 年度 2 件、令和元年度 1 件、令和 2 年度 1 件 当該制度の活用により中心市街地への企業集積が進んだ。
⑤ I T ・テレマーケティング関連産業立地促進事業	
事業実施期間	平成 14 年度～実施中
実施主体	八戸市
事業概要	誘致企業に対する支援（賃料補助・雇用奨励金による補助）及び八戸 I T ・テレマーケティング未来創造協議会事業の推進により、中心市街地への I T 産業集積を図る。
成果	交付実績は次のとおり 平成 30 年度：新規立地支援 賃料補助 4 社 業務拡大支援 賃料補助 1 社、雇用奨励金 1 社 令和元年度：新規立地支援 賃料補助 3 社、雇用奨励金 2 社 業務拡大支援 賃料補助 1 社、雇用奨励金 1 社 令和 2 年度：賃料補助 4 社、雇用奨励金 3 社 令和 3 年度：賃料補助 6 社、雇用奨励金 4 社 令和 4 年度：賃料補助 5 社、雇用奨励金 1 社 支援制度の活用により中心市街地への企業集積と雇用創出が進んだ。
⑥ 花小路整備事業	
事業実施期間	平成 28 年度～令和元年度
実施主体	花小路周辺地区まちづくり協議会
事業概要	三日町と十三日町に位置する東西通り抜け可能な複数地権者で構成される「花小路」について、歩行・滞在空間としての充実を図るため、段差解消や路面美装化等の整備を行う。
成果	平成 29 年度に「花小路地区まちづくり計画」の策定、測量設計及び基本設計の作成、平成 30 年度に実施設計、令和元年度に工事着工、令和 2 年 3 月に工事が完了した。多くの歩行者に利用されるとともに、滞在できる憩いの空間となっている。
⑦ 八戸ブックセンター運営事業	
事業実施期間	平成 28 年度～実施中
実施主体	八戸市
事業概要	本を「読む人」を増やし、本を「書く人」を増やし、本で「まち」を盛り上げる「本のまち八戸」を推進する拠点施設として各種事業を実施する。

成果	セレクトブックストアの運営、読書会ルーム・カンヅメブースの貸出、ギャラリー展示、読書会やワークショップ等の実施により、多くの来館者で利用されている。
----	--

⑧ 新美術館運営事業

事業実施期間	令和3年度～実施中
実施主体	八戸市
事業概要	令和3年11月に開館した「アートのみちづくり」の中核施設となる新しい美術館において、展覧会など各種事業を実施する。
成果	令和3年度は、開館記念「ギフト、ギフト」を、令和4年度は「まるごと馬場のぼる展」等の展覧会を開催し、また、様々なプロジェクトの実施、ジャイアントルームといったオープンな空間の提供によって多くの来館者が訪れている。令和4年度の入館者は119,983人と目標値92,000人を上回っている。

⑨ 八戸市長根屋内スケート場建設事業

事業実施期間	平成26年度～令和元年度
実施主体	八戸市
事業概要	長根公園内に、スケートの拠点であり、その他スポーツや文化活動、大規模なイベント等に利用可能な、地域住民の交流拠点となる屋内スケート場を整備する。
成果	平成26年度に基本設計、平成27年度に実施設計、平成28年度から本体工事に着手、令和元年度に工事完了し9月から供用開始している。供用開始後は、各種大会をはじめ、様々なイベントや会議等の利用に供される施設となっている。

⑩ 八日町地区複合ビル整備事業

事業実施期間	平成24年度～令和2年度
実施主体	株式会社新八日町プロジェクト
事業概要	中心市街地の東西・南北の幹線が交差する八日町地区において、空きビルとなり老朽化した建物の解体、商業・居住機能を有する複合ビルと空地を整備する。
成果	平成24年度に事業化し、平成25年度に既存建物の解体工事着手、平成30年度に施設整備に着手、令和2年度に竣工、供用開始している。主な機能である分譲マンションへの入居により、中心市街地における人口の社会増が図られた。

⑪ 中心商店街空き店舗・空き床解消事業

事業実施期間	平成 22 年度～実施中
実施主体	八戸市
事業概要	中心商店街の空き店舗に新規出店する事業者に対し、店舗の改装等に要する経費の一部を支援することで空き店舗の解消を図る。
成果	交付実績は次のとおり 平成 30 年度：交付決定 1 件 令和元年度：交付決定 4 件（大学サテライトキャンパス 1 件含む） 令和 2 年度：交付決定 1 件 令和 3 年度：交付決定 3 件 令和 4 年度：交付決定 3 件 支援制度の活用により空き店舗の解消が図られるとともに、中心市街地への創業促進と学生の活動による賑わいが創出された。

⑫ はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業

事業実施期間	平成 28 年度～実施中
実施主体	八戸市（委託先：八戸商工会議所）
事業概要	「はちのへ創業・事業承継サポートセンター」を設置（中心市街地内）し、地域での新たな需要や雇用を創出する起業者・創業者の増加を図るとともに、次世代への円滑な事業承継による事業活動の活性化を図る。
成果	センターによる支援を受けての創業実績は次のとおり 平成 30 年度：八戸圏域全体 36 件　うち中心市街地 12 件 令和元年度：八戸圏域全体 47 件　うち中心市街地 18 件 令和 2 年度：八戸圏域全体 35 件　うち中心市街地 5 件 令和 3 年度：八戸圏域全体 35 件　うち中心市街地 8 件 令和 4 年度：八戸圏域全体 39 件　うち中心市街地 5 件 中心市街地が創業の拠点となるとともに、当事業と「中心商店街空き店舗・空き床解消事業」、さらに、株式会社まちづくり八戸による空き店舗の紹介事業が連携することで、中心市街地における創業促進が図られた。

⑬ はちのへ空き家再生事業

事業実施期間	平成 30 年度～実施中
実施主体	八戸市
事業概要	空き家の実態を調査し、データベースと空き家等のポータルサイトを構築し、空き家所有者と利用希望者のマッチング支援を行うことで、空き家の解消と居住の推進を図る。

成果	空き家の実態調査及びデータベースの作成、空き家ポータルサイト「はちのへ空き家ずかん」の運営、空き家対策 PR 動画の作成、空き家バンク登録物件紹介動画の作成を行うことで、空き家の解消が図られた。
----	---

⑭ まちなか共通駐車券運営事業

事業実施期間	平成 22 年度～実施中
実施主体	株式会社まちづくり八戸
事業概要	中心商店街で買物をした場合に、買物金額に応じて加盟駐車場の駐車料金の支払いに使える「おんでカード」を発行し、マイカー利用者の利便を図る。令和元年度には、それまでの紙媒体から磁気式カードにリニューアルしたことで、機械式や 24 時間営業の駐車場で利用が可能となるなどサービス向上を図る。
成果	発行額の実績は次のとおり 平成 30 年度：8,237 千円 令和元年度：9,175 千円 令和 2 年度：9,924 千円 令和 3 年度：9,829 千円 令和 4 年度：11,076 千円 発行額、さらに回収高が増加しており、また、利用者の認知度も高まっており、中心市街地のマイカー利用者の利便性向上に寄与している。

⑮ 八戸市長根屋内スケート場運営事業

事業実施期間	令和元年度～実施中
実施主体	八戸市
事業概要	令和元年 9 月に供用開始した八戸市長根屋内スケート場は、国際大会の開催が可能な国際基準のリンクであり、また、中地は、スポーツやコンサート、コンベンションなどの各種イベントにも活用可能であるため、多目的に利用できる施設として各種事業を実施する。
成果	スケートのほか、会議やイベント等、多様な利用がされることで賑わいが創出される施設となっている。

＜他事業へ移行した事業＞

⑯ くらしのみちゾーン整備事業

事業実施期間	平成 28 年度～
実施主体	八戸市
事業概要	十三日町等と長根公園及び屋内スケート場を結ぶ路線の停車場上

	線及び鳥屋部町線の電線類を地中化する。
他事業へ移行した要因	令和２年に青森県が策定した青森県無電柱化推進計画に本事業を位置付け、事業を実施することとなったため。
移行後の事業名	市道中央停車場線無電柱化事業

＜未着手の事業＞

⑪本八戸駅バス乗継利便性向上事業

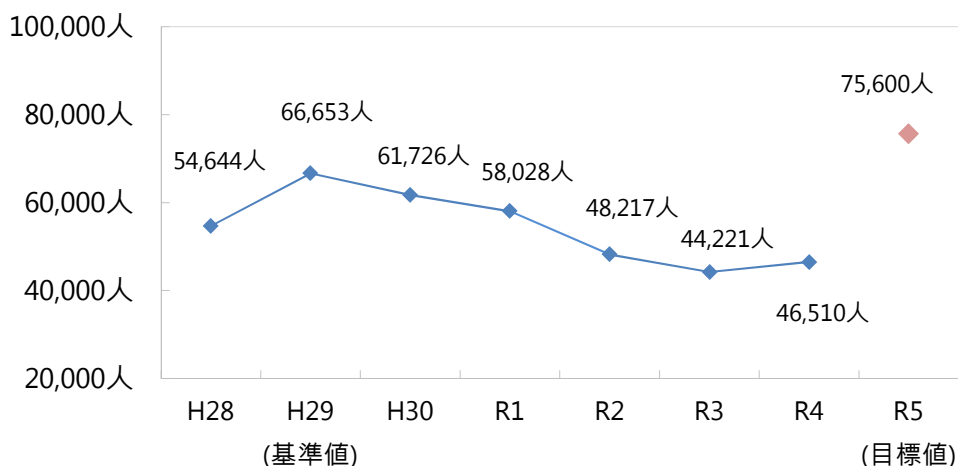
事業実施期間	令和元年度（未着手）
実施主体	八戸市
事業概要	本八戸駅北口の再構築により、事業者別のバス乗降場から方面別のバス乗降場へ改善するほか、バスの接近情報の提供や雨よけの屋根などの設置を行うことにより、バス利用者の利便性向上を図る。
未着手の要因	事業者の協力体制が構築できなかったため。

②各数値目標の評価・検証

■中心市街地活性化基本計画の目標値

目 標	目標指標	基準値	目標値	最新値
街なかの賑わい創出 （来街機会の創出と 回遊性の向上）	歩行者通行量 11 地点 （平日・休日の合計）	66,653 人 （H29）	75,600 人 （R5）	46,510 人 （R4）
	公共施設来館者数	1,167,000 人 （過去の平均値）	1,968,000 人 （R5）	1,014,194 人 （R4）
起業者支援と魅力ある 商店街・オフィス 街づくり	空き店舗・空き地率	11.6% （H29）	8.2% （R5）	21.2% （R4）
	【参考指標】 創業等支援件数	7 件/年 （H29）	年平均 10 件 （H30～R5）	10 件/年 （H30～R4）
	【参考指標】 誘致企業就業者数	△16 人 （H29～H30）	230 人 （H30～R6）	211 人 （H30～R5）
街なかの居住推進と 移動の利便性向上	中心市街地における 人口の社会増減数	△51 人 （H25～H29）	70 人 （H30～R5）	26 人 （H30～R4）

■歩行者通行量



年度	(人)
H29	66,653 (基準値)
H30	61,726
R1	58,028
R2	48,217
R3	44,221
R4	46,510
R5	75,600 (目標値)

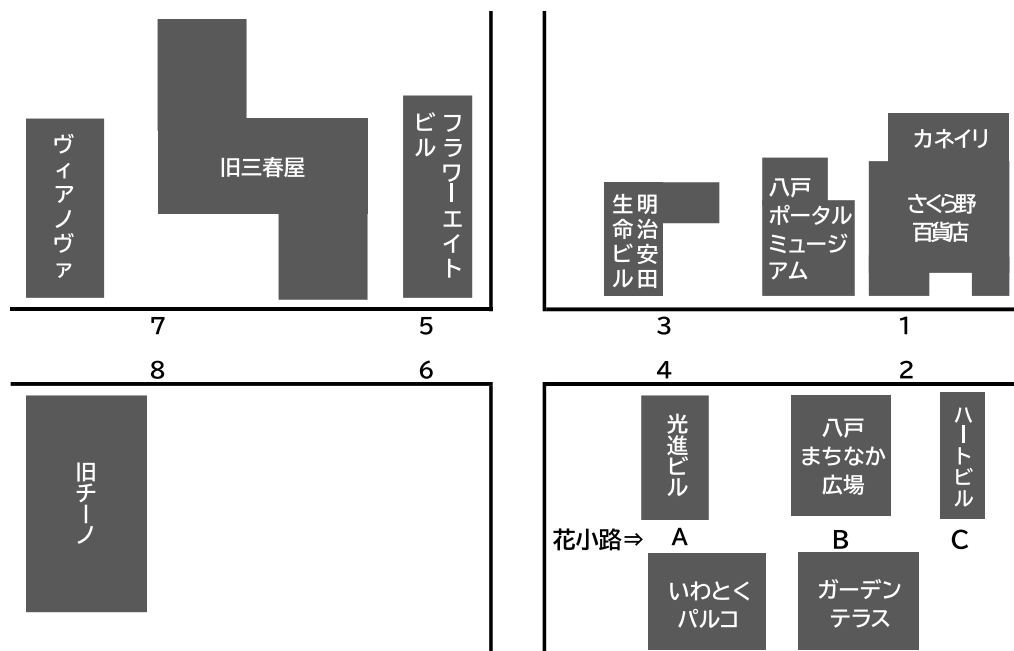
※ 調査方法：平日と休日それぞれについて、9～19時の歩行者数（自転車除く）を目視でカウント

※ 調査主体：八戸市（8地点）及び八戸市中心市街地活性化協議会（花小路3地点）

※ 調査対象：三日町・十三日町の8地点及び花小路の3地点 合計11地点

	調査地点	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
1	さくら野百貨店	7,679	9,148	7,610	7,512	5,837	7,280	8,215
2	八戸まちなか広場	3,299	3,808	4,436	4,907	3,609	5,963	8,289
3	明治安田生命ビル (旧青銀三日町支店)	8,148	8,559	9,839	8,078	7,388	6,093	5,472
4	光進ビル	4,640	5,772	6,445	6,035	5,580	3,589	3,889
5	旧いわぎんローンプラザ	10,167	13,397	11,638	10,140	8,911	6,992	4,568
6	花真ビル	2,868	4,984	3,579	4,043	2,238	1,953	2,877
7	ホテルグローバルビュー八戸	7,014	6,999	5,251	4,102	4,388	3,642	3,402
8	八田神仏具店	3,696	5,272	4,433	4,083	2,293	1,646	2,205
9	花小路調査地点 A	4,154	6,152	3,434	3,354	3,091	2,760	2,779
10	花小路調査地点 B	2,330	1,023	4,274	4,886	4,019	3,451	4,333
11	花小路調査地点 C	649	1,539	787	888	863	852	481
合 計		54,644	66,653	61,726	58,028	48,217	44,221	46,510

調査地点（1～11）位置図

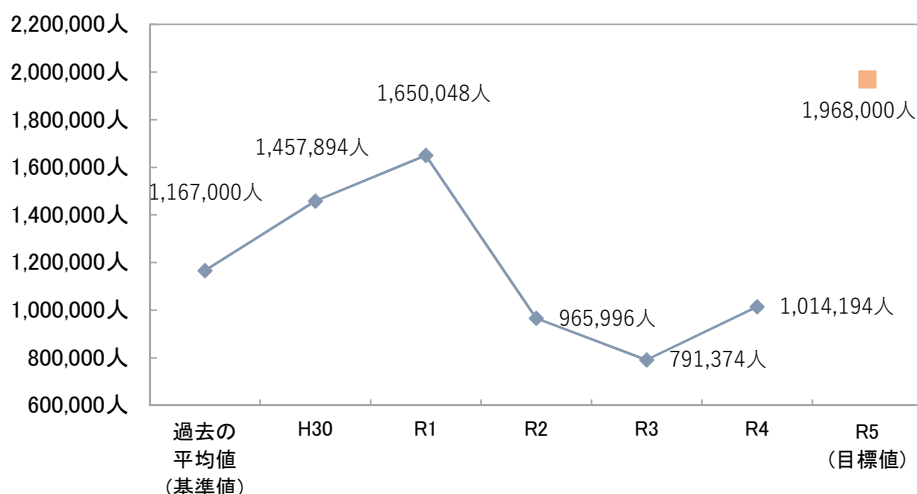


○目標達成状況について

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、市民等の生活スタイルや消費行動が大きく変化するとともに、人口減少や通信販売の伸びなどの時代の変化の中、歩行者通行量は減少傾向にある。調査地点1～4の三日町側は、直近の令和4年度の数字では、イベント実施等の社会経済活動の回復が図られ、新型コロナウイルス感染症の影響前の数値に戻りつつあるが、調査地点5～8の十三日町側は、大型商業施設のほか、小売や飲食、金融機関などの路面店の閉店により、目的地となる場所が減少し、回遊する誘因が減っていることから、歩行者の減少が顕著となっている。

基準値（H29：66,653人）及び目標値（75,600人）の達成は見込まれない状況である。

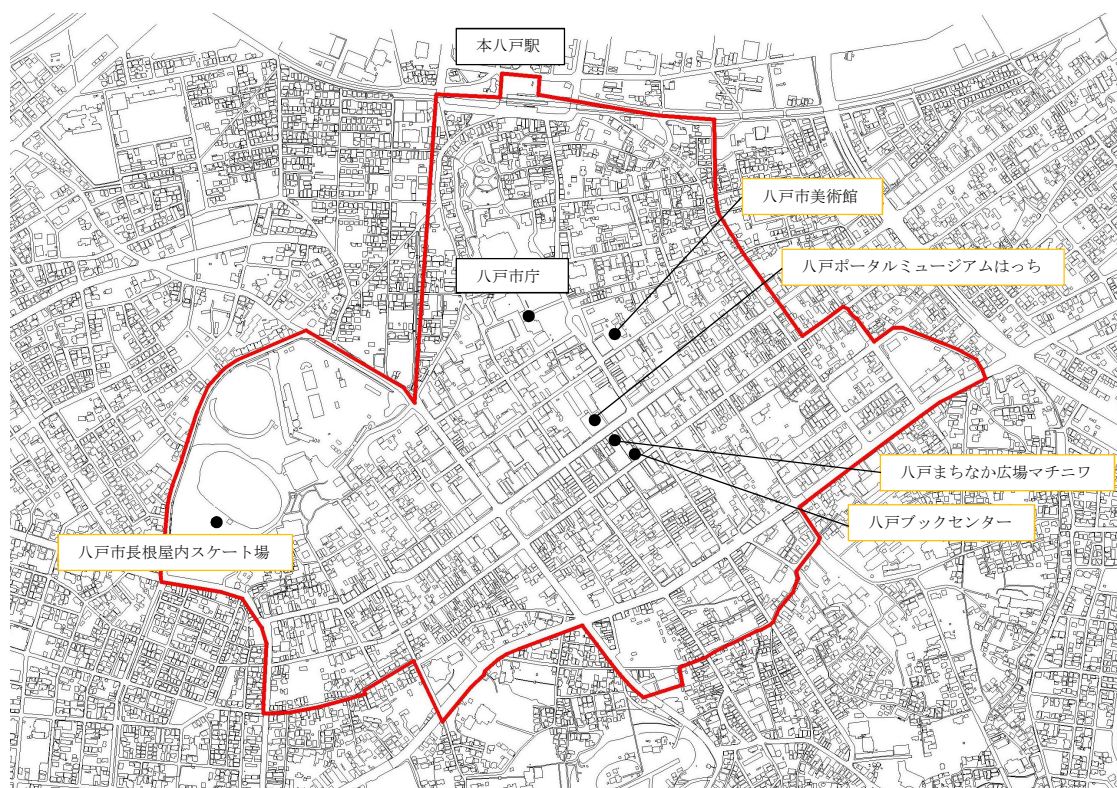
■公共施設来館者数



年度	(人)
過去の平均値	1,167,000 (基準値)
H30	1,457,894
R1	1,650,048
R2	965,996
R3	791,374
R4	1,014,194
R5	1,968,000 (目標値)

- ※ 調査方法：各施設の来館者数を集計
- ※ 調査月：毎年3月
- ※ 調査主体：八戸市
- ※ 調査対象：八戸ポータルミュージアム「はっち」、八戸ブックセンター、八戸市美術館、八戸市長根屋内スケート場、八戸まちなか広場「マチニワ」
 ※八戸まちなか広場は平成30年7月21日開館。八戸市長根屋内スケート場は令和元年9月29日開館。八戸市美術館は令和3年11月3日開館。
- ※ その他：マチニワの来館者数はW i - F i 機能がある人で5分以上の滞在者数を基にスマートフォン保有率で除したものを来館者数としている。平成30年度は保有率58.2%、令和元年度は63.7%、令和2年度は81.7%、令和3年度は85.7%、令和4年度は87.9%で算定

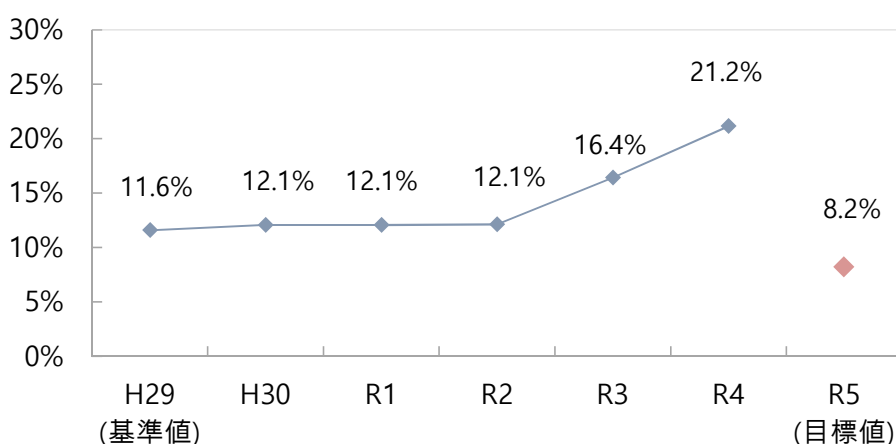
	基準値	H30	R1	R2	R3	R4	R5 (目標値)
八戸ポータルミュージアム	940,000	874,010	815,554	552,559	487,078	578,903	940,000
八戸市美術館	42,000 (旧美術館)				24,329	119,983	92,000
八戸市長根屋内スケート場	70,000 (屋外)		138,970	131,001	129,686	168,807	314,399
八戸ブックセンター	115,000	125,983	109,560	57,235	59,911	77,205	137,519
八戸まちなか広場		457,901	585,964	225,201	90,370	69,296	484,500
合 計	1,167,000	1,457,894	1,650,048	965,996	791,374	1,014,194	1,968,000



○目標達成状況について

直近の令和4年度の数字では、イベント実施等による社会経済活動の回復が図られ、新型コロナウイルス感染症の影響前の数値に戻りつつあり、令和5年度には、八戸市長根屋内スケート場における初の国際大会の開催が予定され、また10月12,13日には、「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」をテーマに、中心市街地を会場に「全国都市問題会議」が開催されることで、全国からの来街者による公共施設利用が見込まれるものの、基準値（1,167,000人）及び目標値（1,968,000人）の達成は見込まれない状況である。

■空き店舗・空き地率



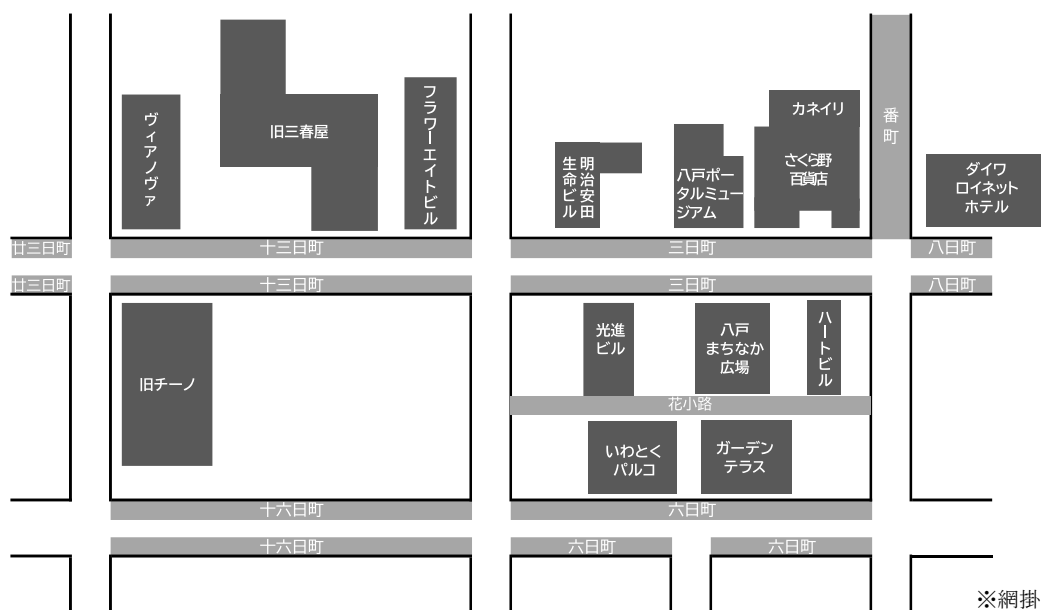
年度	(%)
H29	11.6 (基準値)
H30	12.1
R1	12.1
R2	12.1
R3	16.4
R4	21.2
R5	8.2 (目標値)

※ 調査方法：目視による確認

※ 調査月：毎年2月

※ 調査主体：八戸市

※ 調査対象：三日町・十三日町・六日町・十六日町・八日町角地・廿三日町角地・番町の1階路面店
花小路に面した1階店舗



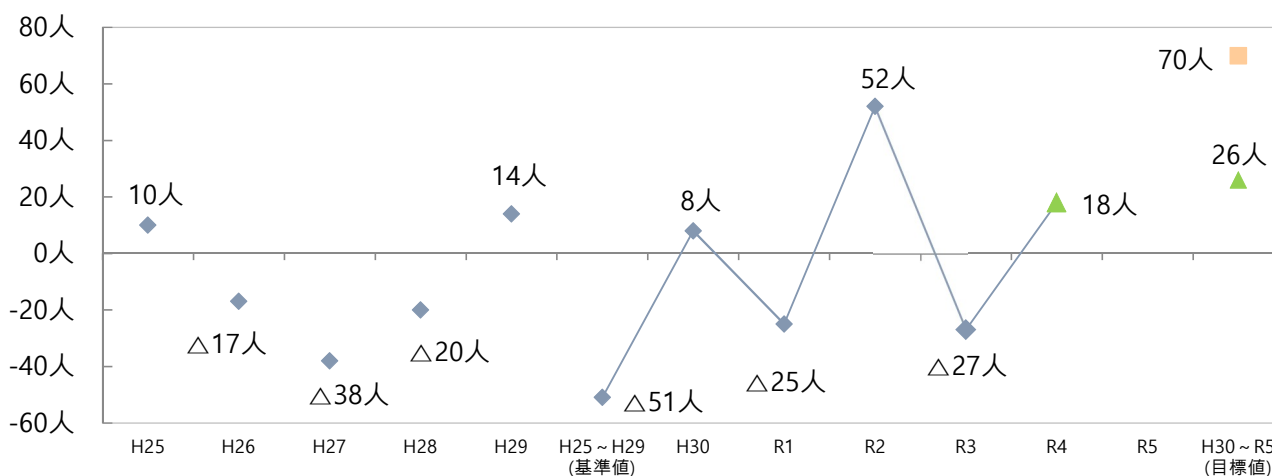
※網掛けが調査対象

○目標達成状況について

「空き店舗・空き地率」については、「歩行者通行量」と相関関係にあり、市民等の生活スタイルや消費行動が大きく変化し、人口減少や通信販売の伸びなどの時代の変化の中、新型コロナウイルス感染症により店舗に足を運ぶ機会が遠のく影響等により路面店が閉店となるなど、直近の令和4年度の数字は21.2%と前年度比4.8ポイント悪化している。

番町など空き店舗が減少している街区があるものの、十三日町では50%を超える状況となっており、基準値（11.6%）及び目標値（8.2%）の達成は見込まれない状況である。

■中心市街地における人口の社会増減数



※ 調査方法：市の住民基本台帳データを集計

※ 調査月：毎年9月

※ 調査主体：八戸市

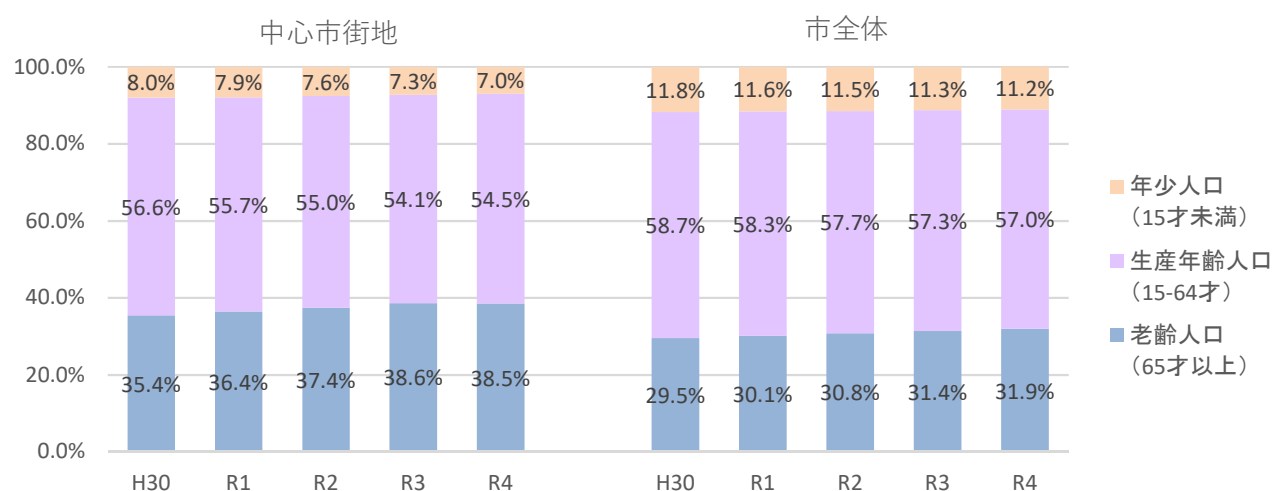
※ 調査対象：9月末時点の住民基本台帳登録人口

年度	(人)
H25~H29	Δ51 (基準値)
H30	8
R1	Δ25
R2	52
R3	Δ27
R4	18
H30~R4	26
H30~R5	70 (目標値)

○目標達成状況について

「八日町地区複合ビル整備事業」の実施効果により、令和4年度までの累積で26人の増となっており、さらに、番町地区に完成した分譲マンションへの入居が見込まれることから、期間内の目標達成は可能と考える。

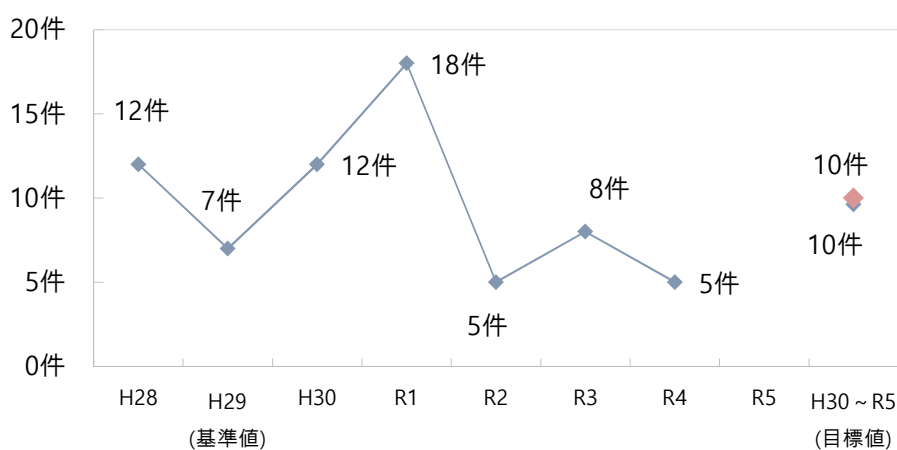
【中心市街地と八戸市全体における世代別居住人口の割合の推移】



中心市街地の世代別居住人口は上表のとおりで、高齢者の居住割合が高い状況である。

【参考指標】

■創業等支援件数



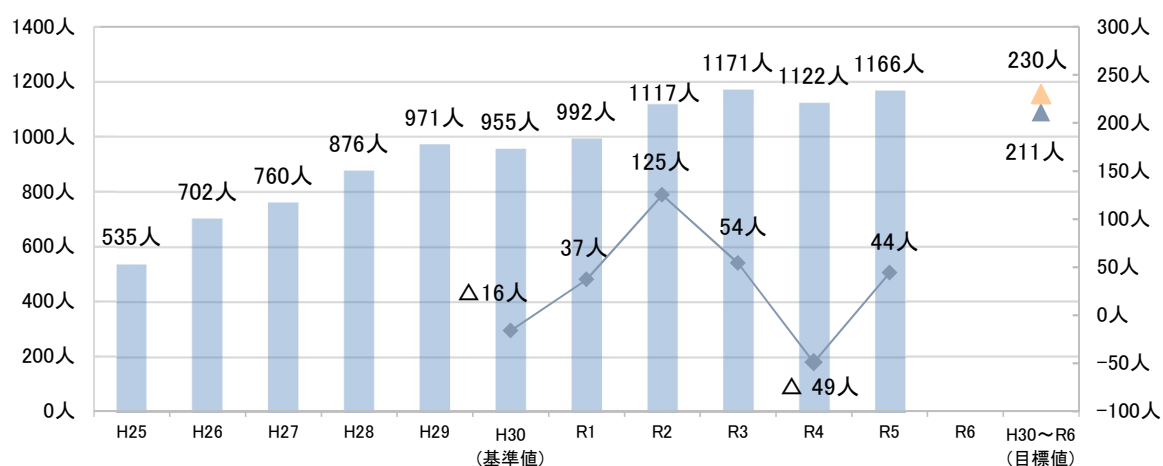
年度	(件)
H29	7件/年 (基準値)
H30	12件/年
R1	18件/年
R2	5件/年
R3	8件/年
R4	5件/年
H30~R4	10件/年
H30~R5	10件/年 (目標値)

- ※ 調査方法：創業等支援件数を集計
- ※ 調査月：毎年3月
- ※ 調査主体：八戸市
- ※ 調査対象：中心市街地区域内における創業等支援件数

○目標達成状況について

中心市街地に商機を見出して創業を考える方に対し、「はちのへ創業・事業承継サポートセンター」による事業計画や資金計画作成のサポートを、まちづくり八戸では空き物件の紹介を、市では、出店者が行う空き物件での改装に対する補助を、それぞれ実施することで、3者が連携して中心市街地での創業を促進している。その成果として、「創業等支援件数」については、令和4年度時点では目標値を達成しており、計画期間内での目標達成は可能と考える。

■誘致企業就業者数



- ※ 調査方法：誘致企業就業者数を集計
- ※ 調査月：毎年4月
- ※ 調査主体：八戸市
- ※ 調査対象：中心市街地区域内における誘致企業就業者数

年	(人)
H29～H30	△16 (基準値)
H30～R1	37
R1～R2	125
R2～R3	54
R3～R4	△49
R4～R5	44
H30～R5	211
H30～R6	230 (目標値)

○目標達成状況について

「IT・テレマーケティング関連産業立地促進事業」の実施や積極的な企業誘致の成果により、令和5年4月時点で、中心市街地に17社のIT関連企業が立地しており、計画期間内での目標達成は可能と考える。

[5] 中心市街地活性化の課題

地域の現状分析、アンケートやヒアリング等を通じた市民ニーズ、第3期計画の評価を踏まえ、中心市街地における課題を以下のように整理する。

課題 1

利用者の変化に対応すること

江戸時代から続く商業の拠点のみならず、社会的・文化的活動の拠点化、マンション整備による居住者の増加、IT・テレマーケティング関連産業の集積等による就労者の増加、インバウンドを含む観光客など、中心市街地を利用する方の多様化が見られる。こうした複数のターゲットのニーズに応えるまちづくりが必要である。

課題 2

「まち」としての魅力を再確認し、さらに高めること

「選ばれるまち」になるためには、中心街の特徴、強みである「食」「横丁」「祭り」「文化財」などの地域資源や、公共施設を一層活用しながら、さらに、それぞれの「点」の取組だけではなく、回遊性を高めながら、「面」的に広げ、魅力を高めていく必要がある。また、公共交通やマイカー利用者の利便を一層高めていく必要がある。

課題 3

地域経済発展に寄与していくこと

大型店の郊外化、通販の伸び、人口減少などの時代の変化の中で、来街者が減少し、昨今は、新型コロナウイルス感染症による影響も加わり、低未利用な土地や建物が目立つ状況となっている。また、まちづくり人材の育成といった課題を抱え、さらに、デジタル化や持続可能な社会に対する意識の高まりといった時代の変化に対応しながら、魅力ある商店街の形成や、オフィス進出による雇用と起業が生まれる場となって地域経済活動の拠点としていく必要がある。

〔6〕 中心市街地活性化の基本方針

（1） 第4期中心市街地活性化基本計画策定の背景

【第3期計画取組の効果と課題】

効果	文化・スポーツ施設の整備により、「社会的・文化的活動」の拠点化が進んでいる。	中心市街地が「居住」の場、「就労」の場になっている。	「多様な機能が集まり、多彩な人々が行き交う、八戸らしい文化を育むまち」となっている。
課題	空き店舗の発生や老朽化するビルなど、低未利用な土地・建物が目立つ状況。	「商業」機能の現状は、大型百貨店の閉店や、商店街の維持形成が困難。	大型店の郊外化、通販の伸び、人口減少などの時代の変化の中、中心市街地の果たす役割の再確認と、まちづくりの目指す方向性を定める必要がある。

歴史を繋ぎながら変化を重ね、今に至る八戸の中心市街地の再生を目指し、そして、価値ある資産としてしっかりと次世代に引き継いでいけるよう、概ね10年を目安とするまちづくりの指針となる

「八戸市中心市街地まちづくりビジョン 2023」

を令和5年3月に策定。

まちづくりの目指す4つの方向性

1 人が主役のまちづくり	2 地域の資源を活かそう	3 活力ある経済と社会	4 参加と横断的な マネジメント
人々の暮らし、活動や交流が中心にあるまちなかへ	歴史や強み、個性を活かした八戸ならではのユニークを	産業が息づき、社会的役割を担い発展し続けるエリアに	多様な主体が知恵を出し合い役割を担う、参加と連携をベースに

ビジョンのまちづくりの方向性に基づき方針を定め、官民一体となって事業を推進していくことが必要。

第4期 八戸市中心市街地活性化基本計画
を策定

【八戸市全体の都市像】

ひと・産業・文化が輝く 北の創造都市

八戸市では、平成4年3月に、長期的なまちづくりのビジョンとして、第7次八戸市総合計画を策定しており、10年程度先を見据えた目指す将来都市像として「ひと・産業・文化が輝く 北の創造都市」を掲げている。

これは、企業活動を生み出す経済的な価値や、心の豊かさを実感できるような文化的な価値などの多様な価値が相互に連携しながら「ひと」「産業」「文化」が輝くという意味である。

また、6つの政策のうちの一つに「「ともに生きる社会」をつくる」を掲げ、多様な主体が参加するまちづくりを推進しているところである。

こうした総合計画で掲げるまちづくりの方向性に鑑みて、中心市街地のまちづくりの基本方針を定める必要がある。

（２）第４期中心市街地活性化基本計画の基本方針の考え方

急速な少子高齢化の進展や、消費生活の変化等の社会経済情勢が変化する中において、商業をはじめ、既に相当程度の都市機能が集積する中心市街地の役割の重要性に鑑み、地域における社会的、経済的、文化的活動の拠点として、引き続き、魅力ある市街地の形成に取り組んでいく必要がある。このことは、都市経営の面から合理性があり、地域経済や社会福祉の向上など、様々な面での効果が期待できると考える。

第４期計画では、総合計画に掲げる「ひと」「産業」「文化」の視点を取り入れつつ、中心市街地の利用者の変化や多様化に対応し、これら複数のターゲットのニーズに応えるまちづくり、さらに、社会的、経済的、文化的活動をはじめ様々な活動が展開される「人が中心」で「人が主役」のまちづくりを進めていきたいことから、「ひと」に焦点を当てた基本方針を設定して取り組んでいきたい。

【中心市街地の都市像】

人の活動と交流が生まれるまち
未来を創る人材が生まれるまち
～次世代に繋ぐ中心市街地～

【基本方針】

基本方針 1

多様な活動や交流が生まれるウォーカブルなまちづくり

歩きたくなり活用できる街路空間づくり、訪れたくなる広場等の整備、既存の公共施設の更なる利活用を進めることで、市民等の回遊や文化・スポーツ活動、イベント活動、商業者による商行為など、多様な活動と交流を誘発し、社会関係資本が涵養される創造的で豊かな市民社会の形成を図る。

基本方針 2

地域に根差し街の未来をつくる経済活動が生まれるまちづくり

オフィスの誘致と創業支援、デジタル技術の活用、長期的で面的な視点をもった空き店舗対策と若者をはじめ多様な主体のまちづくりへの参画の促進、さらには、ミクストユースの視点を持った民間開発を促進することで、雇用の創出と経済活動を生み出しながら、未来に繋がる持続可能な「まち」を形づくる。

基本方針 3

暮らすこと滞在することが楽しくなるまちづくり

居住者や就業者が暮らしやすく過ごしやすい環境や機能の充実を図る。さらに、祭りや横丁などの地域観光資源、公共施設や宿泊機能の集積といった強みを活かし、これらの資源や機能の組み合わせとイベントの充実、他地域との連携や交通結節点としての充実を促進することで、来街者や観光客といった誘客を図る。